

522

138

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 5^{6m} 0 1 2 3 4 5

始



24. v. -7



Augusta Gregory

人夫ーリゴレグ

522-138



夫人戲曲集

近藤孝太郎譯

大正
13. 2. 15
内交

序

ソフォクレスやホスキロスの希臘や、大沙翁のエリザベス朝などは姑く措いて、我々に親しい、近代の演劇運動を顧みる時、そこに二つの驚異す可きものを見出す。

一つは近代劇の黎明期に於ける北歐の二大天才、イブセンとストリンドベルクとの出現である。近代劇史家は常に筆をこの二人者に起してゐるが、近代劇の新運動はその間接と直接とを問はず、一としてこの二天才の影響を受けないものはない。

更にもう一つの驚異は、荒涼たる一島國、アイルランドに起つたあの奇蹟的な國民劇運動である。十九世紀中葉以降の大陸の演劇革新運動の餘波を受けてエドワード・マルチンが始めてアンシア・音楽堂を借りてイブセン風の劇を公演した一八九九年を、愛蘭土國民劇運動の發端と見るにせよ、又サン・テレサ・ホールでフェイ一座が國民演劇なる名稱で公開した一九〇二年をその發端と見るにせよ、いづれにせよ、その後今日まで未だ漸く三十年の歳月を閲したばかりであるにも拘らず、愛蘭土劇は、既に世界を風靡してゐる。マルチン、イエーツ、ムーア、グレゴリイ夫人、シング、コラム、エイ・イー、更に新しくはダンセニイ、ロビンソン、マレー等所謂愛蘭土劇作家の名は、既に世界的である。

近代劇運動が始めて北歐に起つた時、それは、浪漫主義から自然主義への展開期であつた一般の思潮の大勢に平行したもので、イプセン、ストリンドベルクの作風は、透徹した理智の、人間性に對する峻厳なる懷疑と批判とを基調としたものであつた。つまり、一方人間的であると同時に、一方世界的であつた。

それに對して愛蘭土に起つた運動は國民的といふところに特色を存してゐる。運動の最初の原動力となつたものはエドワード・マルチンがイプセンから學んだところの、世界的なものであつたが、その波が一度、あの特色ある一小島國へ打ち寄するや、運動は數年ならずして全くその色彩を變へて、極めて特色ある國民性を以て彩られ、愛蘭土劇は、民族的、郷土的といふところに奪ふ可からざる特色を有つに至つた。それは當年の愛蘭土が、それ程、民族といふ觀念に於て他の諸國と異つた状態にあつたといふ事の證據である。

或は愛蘭土劇の愛蘭土劇たる點は、「劇と詩」の統一にあるなどと云ふものがあるが、もとより一顧の價値なき愚論に過ぎぬ。愛蘭土劇から若し國民的といふ特色を取除いたなら、その運動の意味も、藝術的價値も殆んど全部失はれてしまふ。前記幾多の劇作家の中には散文家もあれば詩人もゐる。しかし要するにそれは演劇論を扱ふ場合には縁のない他所事であつて、我々は先づ飽くまで劇作家としての彼等を見るべきである。

我々が愛蘭土劇をいふ時直ちに想ひ浮べられる三人の作家がある。即ち、シング、イエーツ、グレゴリー夫人である。中でもシングは、寡言沈黙、一意創作に従事した人で、彼は唯、數篇の作を以て世に問うたに止まるが、その作品の價値は、世既に定評あり、今ここに改めて述べる必要はない。たゞイエーツとグレゴリー夫人二家の作については、私は、稍々世評と異なつた意見をもつてゐる。

私は、イエーツはグレゴリー夫人に比して劇作家としての技倆は遠く及ばないと思ふ者である。私は詩人としてのイエーツを尊敬し、演劇運動の指導者としての彼をも尊敬するけれど、劇作家として彼に冠せられてゐる世評は、劇運動の指導者としての功勞をも計算に入れて算出した、所謂「禮儀正しい」やり方から來た結果だと思ふ。これらの事は要するに一々の作品について見るのが當然の事であるが、彼が到底天才兒シングに匹敵すべきでないのは云ふを俟たぬ事である。シングと比較し考ふべきは一人グレゴリー夫人のみだと思ふ。

夫人とシングとは共に、郷土文學なる愛蘭土劇作家の中にあつても取わけ民俗的な色彩の濃い作家であつて、その郷土史劇に於て取扱つた材料も最も近似したものである。そして兩者を比較する時、殊に目立つものは、シングの方が何處か詩的分子を多分に持つてゐて、たとひ悲劇を扱つてゐる場合でもそれには現實の悲痛が滲んでゐるといふよりは、悲痛を浪漫化して朗々と歌ひあげるや

うな傾向があり、彼の劇のチャームの源泉も亦そこに存するのである。が一方、グレゴリー夫人の方は、一途に現實を現實のまゝに扱つて行く。偶々夫人はそれを喜劇に仕立てゝゐるけれど、「喜劇」といふのは此場合、一つの「形式」に過ぎず、そこに存在するものは、夫人の目に映じた現實、しかも少しも假借するところなきむき出しの現實相である。その意味ではある人々の云ふ如く「シング」には詩が多分にあり、グレゴリー夫人には現實がある」ので、夫人はそれをいかに喜劇に仕立てたところが、結局最後まで現實を放さないため、夫人の喜劇は、たとへそれが「にわか」に近い形式になつたところで、何處か暗く、何處かにが味が残る。そこが夫人の喜劇の價値であり特色であつて、表面に笑の多いのを通り一遍に見て笑劇作者だなど評するのは、夫人を知らざるものである。その意味で夫人は女性の藝術家には珍らしい程の底力を持つてゐる。科學者の心に似た強さを持つてゐる。そして常に同じ材料を取扱つてゐながらその態度は全くシングとも違つてゐる。まして詩人イエーツとは、傾向に於ても根本から異つた作家である。

だから、若し夫人が、その材料を取扱ふ上に、夫人一流の手法によらず、手先さへ科學者風に動かして行けば、忽ち峻烈な自然主義者にもなり得る素質を持つてゐる。又今少し理窟を取り込んだなら、プリウと同じ傾向にもなる基調があり、又社會劇風のものにもなる要素がある。しかしそれをさうしなかつた所から夫人の喜劇が生れるのである。それは夫人のよき趣味であり、よきタムベ

ラマンによるのであらう。だから、外形はどうあらうとも外觀だけのダイダクチックなものや、所謂、力あるものよりも、この夫人の作品の如く理窟の少しもない可愛い、喜劇の方がどの位有難いかわからない。

そして夫人の作に最後まで離れない何處か暗く何處かにが影は、とりもなほさずそれが愛蘭士の百姓の生活であり、人生の現實なのである。その意味で一般に愛蘭士劇を一種の新浪漫主義の運動の如く見るのは誤りであらう。少くもグレゴリー夫人の場合には、最も不適當な名稱であらう。かくて夫人は男性作家も及ばぬ耐持力で、現實を少しも忌避せず、大膽に把握して、そのままで劇化する、その強さは誠に驚くべきものである。そしてそれをむきつけて悲劇にするとか、理窟づけるとかせず、飽く迄落着いて整然とした藝術品にする。その最もよき例は「救民院病室」である。

しかして夫人がそれを劇化する技巧に至つては、殆ど申分なき程度にさへ達してゐる。「月の出」だとか、「マクドナウの女房」などは、そのよき實例であらう。そして夫人の劇は舞臺に上せて見て如何にも面白いものになる。事實アベイ座に於て夫人の作の上演比例は他の作者を凌駕すること五倍十倍である。これは一つは夫人の作が其の國民性に特に深く根ざしてゐるのと、今一つは夫人の作劇上の優秀を示してゐる實際上の證左であらう。

私は夫人の作品を翻譯した所以は、單に邦語に移植するといふ以外、夫人に對する私の最上の尊

敬を表したい爲めである。

最後に私が此の翻譯中種々と面倒な相談にお答へ下さつた松村みね子、福永渙の兩先輩の御厚情、並に怠け勝ちな私を常に勵ましてくれた、松野尾慈顯、前川力、佐々木順平の三君の友情を深く感謝する次第である。

六

目次

噂のひろまり	一
ヒアシンス・ハルベイ	一四
月の出	二二
ジャックダウ	一四三
救民院病室	一四七
マクドナウの女房	二二四
銅像	二六九

噂のひろまり

バアトレイ・ソアロン
ミセス・フアロン



ムルダウン

のひろまり



舞臺 市場の外。林檎店。そのおかみミセス・タアベイ坐す。巡察官と巡査登場。

巡察官 ぢやあれがグリーングリンの市場だな。牛に羊に、それから泥ぢや。全く無秩序だ。何といふ氣持のわるい態ぢや！

巡査 はあはあ誠にさうであります。

巡察官 で、どうかい。わしはここには様々な不正行爲が頗る澤山あると思ふんぢやが。巡査 あります。

巡察官 一帯にあるのか。

巡査 はあ、かなり頻々にあります。

巡察官 農作上の犯罪。違ふか。

巡査 さうであります。

巡察官 ボイコット、放火、牛馬を傷つける、ふん？

巡査 あつた事があります。またあるかもわかりません。

巡察官 よろしくない。尙増加する模様かどうかい？

巡査 模様があります。

巡察官 ぢや今に殺人もやる！ 閑却されてあつたもんぢやからこの土地は眞に亂雜を極めて

ゐて言語道斷ぢや。本官が根本的改革を行つてやる。本官はアンダマン島に臨察してゐた時行つた方針に、一度も誤りをしなかつた。うん、うん、本官が根本的に改革を行つてやる。あの女は何を置いて居るんかい。

巡査 主として林檎であります。——それから菓子もあります。

巡察官 あの下に密賣品が隠匿されてゐるかどうか、行つてすぐ調べて來い。酒またはその種の品ぢや。本官はアンダマン島に臨察してゐた時、食鹽の脱税を發見したんぢや。

巡査 (積みあげられてゐる林檎を、一々注意深く鼻をうごめかしながらこはす) ここには酒は隠匿されてありません。それから食鹽もありません。

巡察官 (ミセス・タアベイに) 貴様はこの町をよく知つてるかどうか。えーん？

ミセス・タアベイ (林檎を少しつかんで差し出しながら) 一ベニイに六つづつで御座りまするだ。あなた様。

巡査 (大聲で叫ぶ) このお方は、お前がこの町をよく知つてゐるかどうかと云つてお訊きになつてゐるんだ。このお方は今度の巡察官様だぞ。

ミセス・タアベイ (飛び上つてびよびよい頭をさげつゝ) わたくし町ウ知つてるだかと仰れたで御座

りまするか。それあへえ、何で知らねえわけが御座りまするだ。

巡察官 (大聲で叫ぶ) この町は主としてどんな産業によつて暮してゐるんかい。

ミセス・タアペイ 暮しかたと仰れたで御座りまするかね。この町のもん、人の暮しかたを世話ア焼いてまはるより他、あに他の暮しやうしてるものが御座りまするだあ。

巡察官 わしが訊いたのは、どんな商賣かといふ事をたづねたんぢや。

ミセス・タアペー 商賣ぢやあねえでがんす。一寸も商賣ぢあねえでがんす。商賣でねえでしやべつてばかりゐるでがんす。

巡察官 こんな女ぢやいつまでたつても要領は得られん。

ジエームス・ライアン、パイプを脚へつつ登場。巡察官を見ていそいでパイプを口から取つて姿をか

巡察官 あの男のパイプの煙は緑色がかつて見える。あの男、自宅で煙草を密造してるんぢやないかな。わしはこつちへ来るのに遠眼鏡をもつて来る事を忘れて残念な事をした。一寸郵便局に行く。わしはそれを送るやうに電報を打たんけやならん。わしがアングマン島に臨察してゐた時、遠眼鏡は非常に役に立つたんぢや。

巡察官と巡查、左手に退場。

ミセス・タアペイ 糞！ ジョムウルドンめ。わしんとこの林檎をこてりこてりとこづきまはしあがつて。(積みなほしはじむ) 何んの事つちやい、新しう御座つた巡察官見てるだもんでいやに忠義面アしやアがつて。

バアトレイ・フアロン及びミセス・フアロン登場。

バアトレイ 全くこの國にあ暮しがひもねえつまらねえみすばらしい國だよ。それでもわし、もしアメリカへ行つてゐただら、もうへえとつくの昔死んでゐるこんづらと思ふだがどうづら。ミセス・フアロン どうだかしれねえよ。そんな事ア。

妻は籠を樽の上に置き外套の下から小さな包を取り出してはその中へ入れる。

バアトレイ アメリカで葬式するちふ事ア、貧乏人にアなかなかえらい物要りな事であるだよ。ミセス・フアロン そんな心配までしねえでもええだ。あんた死ぬ時あ、ちやんと立派な葬式出してあげるだから。

バアトレイ いいんや、クルーンマラの墓地に入るなア、お前の方が先だかも知れねえだ。俺アさうすると、誰も知らねえ中に、夜中に一人ぎりひよつくりと突死をしてゐるだかもわからねえ。猫ももうどこかへうろついて行つてゐなくなり、うらが経帷子の上にア、二十日鼠でもはねまはつてるだかも知れねえだ。

ミセス・フアロン 縁起でもねえ話大概にしておかねえだか、この人ア。まだお迎の来るまでにア二十年は生きてゐられるだねえか。

バアトレイ (深い吐息をして) この先、二十年も生きてゐただら、わしその時にアどんな年になつてゐるだか。

ミセス・タアペイ (二人の方を振りむく) お早いだのしバアトレイ・フアロン。お早い事だのし。ミセス・フアロン。今朝はいくらとつさまでも愚痴の種があるめえ。それに市の方も景気がええちふこんで。

バアトレイ (聲を張りあげて) こんどの市景気がええどころか。ミセス・タアペイ。話にもなんねえやうな市であるだよ。どうせ碌な事アねえたア思つてゐただが、それよりもまだひでえ市だつただ。どうしてもかう運がわりいのだか、賣りてえと思つてゐるもなアみんなが安になり、買はにアなんねえものはみんな莫迦高になつてしまふだ。もし世の中へ何か災難が降つて来る時ア、鳥の群、じやがたら薯へ来て留まるやうにその災難はきつとわしが肩の上へ、留まるに違えねえだよ。

ミセス・フアロン 縁起でもねえ災難なんちふ話大概にしておかねえだか、この人ア。あれ、ジャック・スミスが、あつちから来る聲がする。歌の聲が聞えるでねえかな。

ジャック・スミスの歌ふ聲。

俺にア初戀、戀しゆてならず

やや子生ませてそなたに抱かせ

一つ暮しのしてみたさ

赤い髪の毛のジャックはおもふ

まゝよ荒波身を跳らせて

戀に飛び込む身は水の鳥

今ちやそなたはおいらの女房

赤い髪の毛のジャックの女房

ジャック・スミス登場。あかい毛の男。乾草用の犁をもつてゐる。

ミセス・タアペイ うらにア聞えねえけれど、きつとえゝ歌に相違なからず。

ミセス・フアロン (大きな聲で) あれ「赤い髪の毛の男の女房」といふ歌だよ。

ミセス・タアペイ あゝあゝ。わしよく知つとるだよ、よく知つとるだよ。あれなかなか恭しい歌だよ。

タアペイは人々に背をむけて林檎の積みなほしをはじめる。

囁のひるまり

ミセス・フロロン おかみさんどうしただえ。ジャック・スミス。

ジャック・スミス あいつ洗濯物があつて間に合はなかつただよ。今一生懸命に垣根の上に晒らしてて、この市の方へ歩いて行く鑄掛屋ア澤山家の前を通るだが、一寸もやめようとしねえだわな。俺が来たのも實はこの市場ぢやなくて、あの五町牧場へ来ただよ。俺アあの牧場で秣ア請負つただから、俺けふそれを宿無したちに割りあてやうと思つてゐるだ。

犁を置きて、パイプに火をつける。

ペアトレイ お前、それアだみだよ。今日宿無したちに割りあてる事ア出来めえよ。きつと夕方迄にア一雨来て、秣アぐつしよりになるだ。それからうらもぐつしよりになるに違えねえ。うら出かけるときつと一雨来ねえちふ事アねえ。そんでいつも逃げ場を見つける暇もねえだ。ジャック・スミス そんでもまアお前さうして愚痴こぼす種があつて結構ぢやねえか。もしそんでねえだら、お前帽子をやめて底ぬけ桶冠つて歩いてでも何ぞお前の愚痴の種ウ作らざアなんめえよ。

「出ろさあ早く出ろ、出れえだか！」と云ふ聲聞ゆ。

ジャック・スミス はてな。お、パットライアンの仔馬め、人によつたまげてシヨネシイの牛小舎へ逃げこんだ！ 叱つたらあかんぞ、パットヤ！ 俺いま手を貸してやる！

犁を投げ出して走り退場。

ミセス・フロロン わしらもう家へ歸る時分だよ。わしらもうみんな買ったもなア籠へ入れてしまつただよ。あれあれ、あんなとこにジャック・スミスの犁があるだよ。スミス忘れて行つちまつただよ。きつと困るに相違ねえ。スミスヤ！ スミスヤ！ (呼號す)——人混の中へ入つてしまつた。ペアトレイ、あの人のあと追かけて行つてやりなさる。あれいまになくちや困るだから。

ペアトレイ あゝ行つてやる！ 行つてやる！。これウこんなとこへおつぼり出しておくなア危ねえだから。(彼不器用に犁を取りあげる。その拍子にミセス・フロロンの籠をひっくりかへす) あゝアわしどうしていつでもかう運がわりいだけか。市場中にア籠はいくつでもあるだのにでんぐり返るのは俺の籠たア何ちふこんだ。(右手へ退場)

ミセス・フロロン 大概にしとくがええだ。皆自分がやれアがつて。あんまり愚痴を云ひ過ぎるだでかういふ事になるだわ。本當に何んちふ事だ。何んちふさまだ！ わしが買ひたての卵立て一面に轉つてしまやアがつて！——砂糖の二斤袋、破れてしまつたでねえか——。

ミセス・タアベイ (店から振りむいて) あれまあ、ミセス・フロロン、あんた籠どうしたちうだな。ミセス・フロロン うちのおやぢだわな。本當に行儀のわりいちうたら、叩き落してしまつただ

よ。(拾ひあげながら) この上等の砂糖、どうにもならねえ。ふん、これがなくちや茶一杯のめねえ辭に！ いつそ店へ行つて又買つて来てやれ！ その方があの人にこたへてええだ。

サム・カゼイ登場。

サム・カゼイ ミセス・フアロン。バートレイ・フアロンどこにゐるだかね。わしちよつくらあの衆、市にゐる中に話してえ事があるだが。あの衆、温なしい衆だから、まはり道せず家へ歸つちまふと困ると思ふだがねえ。

ミセス・フアロン この上まはり道などされてなるものか！ フェアグリーンからすぐ家へ歸つてくれた方がよつぽどよかつただ。いつそおやちなど一緒に來なけれやよかつた！ おやちのゐる所を訊いてるだかね？ (肘を打ち上げながら) あの道をかけ出して行つただよ。犁をもつてジャック・スミスをぼつかけて行つただよ。

さつさと左手へ退場。

サム・カゼイ なに犁をもつてジャック・スミスをぼつかけて行つた？ こんな事ア、今までにねえ事だ！ (怒鳴る) ミセス・タアベイ。お前はなア、この話を聞いただかね。

ミセス・タアベイ うら、何にも聞かねえだよ。

サム・カゼイ ジャック・スミスとバートレイ・フアロン、何か喧嘩でもぶつはじめたらしいだよ。そ

んでジャックの奴、逃げ出して、バートレイがそのあとを犁をひつつかんでぼつかけただよ。

ミセス・タアベイ さうけえ。それちやよつぽど早わざアやつただねえ。二人とも十分も前までここにゐただよ。そしてバートレイは家へ歸ると云つてたし、ジャックは五丁牧場へ行くと云つてたし、俺ア俺で巡査のジョオ・ムルドウンの奴こはしやがつたで林檎を積みあげてゐただよ。そんで俺ら二度目に後を見た時、もうジャック・スミスあゐなかつただよ。そしてバートレイ・フアロンもゐなかつただ。そんでミロス・フアロンの籠ひつくりかへされて、その中に入つてゐたもなアみんな土の上によつちらかつてゐただよ。ここにお茶、——そこに砂糖の二斤袋、——そこにア卵立てちふ始末だつたよ。あーあ、考へてみてくれつちア。犁になるちふ事ア何んちふ切ねえこんだか、俺アこゝにゐても喧嘩を一寸も知らねえとは！ ちよつくら待つてくれつちア。うら下の方でジェイムス・ライアンの姿見ただから一寸話して來るだ。あの衆はバートレイの家の近所だ。あの衆この話を知らねえちア、切なからず。

ミセス・タアベイ退場。ショオン・アーレイとミセス・チュレイ登場。

サム・カゼイ ねえショオン・アーレイ、ねえミセス・チュレイ。聞いて下つせ。ジャック・スミスとバートレイ・フアロンとがとう／＼ぶつはじめてしまつただよ。そんでバートレイは犁をひつつかんでジャックに飛びかかつて行つただよ。ジャックは逃げ出す、バートレイはその後をぼつかける。

噺のひるまり

見さつせ。この通り、道ちうまだ砂糖がぶつちらかつてゐるだから。

ショオン・アーリイ　それ本當の事だかね。ほう。珍らしい事だねえ、あの温しいバアトレイ・フアロンが！

ミセス・チュリイ　わしはさうは思はねえだわな。わしはいつでもちやんとあゝいふ風ののそくそした顔してる奴アよくねえと云つてたでねえかね。きつと今頃はもうジャックをとつつかまへたに違ひねえのし。

ミセスタアベイ、ジエイムス・ライアンを連れて登場。

ジエイムス・ライアン　わしミセスタアベイに聞いただが、えれえ話でねえかな！ 俺ア考へてみるに、巡查や巡察官ここへ御座つたのもこの事のためだよ。俺アさつきあの衆ここにゐるのを見てあんでだかと合點が行かねえでゐただが。

ショオン・アーリイ　なに、さつき巡查が二人を追つかけて行つただね？ それちアもうへえバアトレイ、たしかにジャックをやつつけたに違ひねえ、初めはあいつらア、嚇しにやつてたんだもの本當に殺し合ひにアならなかつただに。

ミセス・チュリイ　なに殺し合ひにならんちふ事があるもんで。犁で殺したらちふ事アむかしからいくらでもあるだわな。

ジエイムス・ライアン　そんちアちよつくらまつててくらつせ、うらケリイの酒場へ行つてみんなにこの話聞かせて来てやるだから。(退場)

チム・カゼイ　そんだら俺ア、あの教會の北んところで羊の肉を買つてる奴がジャック・スミスの従兄弟になるだから俺アあいつのそこへ行つて、この話聞かせて来るだから。(退場)

ミセス・チュリイ　そんだらわしア西の方へ行つて、誰か近所の衆にこの話聞かして来るわな。

(退場)

ショオン・アーリイ　そんちやわしグリーンの東の方へ行つて觸れて来るわな。

走り去らむとするのを、ミセスタアベイ彼を掴む。

ミセスタアベイ　まア一寸待たつせ。ショオン・アーリイ。お前、赤毛のジャックの御新造は見なかつただかね。どつかでキチイ・ケエリイを。

ショオン・アーリイ　見たよ、自分の家の前で。わし通つた時にア、垣根の上へ着物を乾してゐただよ。

ミセスタアベイ　何をしてゐただとえ！

ショオン・アーリイ　(大きな聲で怒鳴る) 白い布をひろげて垣根の上へほしてゐただよ。(退場)

ミセスタアベイ　ええッ！ 白い布をひろげて死人へかけるやうにしてただとえ。あれはア、

何んちふこんだ。ジャック・スミスは殺されてしまひ、御新造はその葬式の支度に布を乾してゐる（泣き出す）何でもつと早くわしにその事を聞かしてくれねえだか。ショオン・アーリー。あーア、聲ちふものな、何ちふはア辛れえもんであるだか。世間の事ア、俺ら半分知りもせず聞きもせぬ中にぐんぐんと濟んで行つてしまふだ。（腰を下し、身をゆすぶりながら）やれやれ可哀さうにジャック・スミスは！ うまくやらうと思つて一生懸命で自分の仕事へ出かけて来ただが、叩き殺されてこの眞晝間、土の上に大の字になつて倒れてゐるだか。

サム・カゼイ（登場） どうしたい、ミセス・タアベイ。あれから何か起つたかね。

ミセス・タアベイ あーア、ジャック・スミスが可哀さうだ！

サム・カゼイ バアトレイにとつつかまつただかね？

ミセス・タアベイ 可哀想なこんだ！

サム・カゼイ とうとう殺されてしまつただかね？

ミセス・タアベイ 五丁牧場にぶつ倒れてゐるだ！

サム・カゼイ なな何んだい！ それア本當の事かね！

ミセス・タアベイ お經一つなしで、一文もなしで！

サム・カゼイ それア一體誰に聞いただね！

ミセス・タアベイ そして御新造は死骸を包むやうに布を擴げてゐるちうだ。（身を起しながら涙をぬぐふ）みんな、いつものやうにお通夜してやるに違ひないわな。

ミセス・チュリイ、ショオン・アーリー、ジエイムス・ライアン登場。

ミセス・チュリイ 市場はどこでもここでもこの話で大騒ぎになつただよ。

ミセス・タアベイ やれやれ、冷たくなつて死んでゐる！ それちアあの衆と一番しめえに口聞いたなアこのわしだつただか！

ジエイムス・ライアン ええッ！ 何だつて！ そんならとうとう死んだだかね？

サム・カゼイ あゝ、あゝ、死んでしまつただとも。それで御新造は今お通夜の衆への振舞の支度してゐる最中だわな。

ショオン・アーリー そんなら一體、バアトレイ・ファロン何かひどい遺恨もつてゐただかね？

ミセス・チュリイ それアお前、何かわけがあつたにきまつてるぢアねえかな。そんでなくて、

あんであの人の命を取るやうな事があるもんで！（聲をはりあげて、ミセス・タアベイにいふ）全體

この喧嘩、起つたもとは何だつただね。ミセス・タアベイ？

ミセス・タアベイ わしにアから分らねえだよ。わし一番しめえに見た時ア、ジャック・スミスはこ

こんとこに立つてゐて、バアトレイ・ファロンはそこへ立つてて。靜かで何にも變つた事アなか

つただ。そして「赤い髪の毛の男の女房」に一生懸命で耳を傾けてただよ。

ミセス・チュリイ　今の聞いたただかね、チム・カゼイ？　今いつた事聞いてただかね、ショオン・アーリイもジエムス・ライアンも？　バートルレイ・ファロンが今朝ここで、「赤い髪の毛の男の女房」に一生懸命で耳を傾けてただよ。それア、キチイ・チェリイの事だよ。あの女のいふ事を一生懸命で聞いてゐた、そしてあの女とひそひそ話をしてゐた！　この喧嘩起つたもちふなアつまりあの女からだよ！

ショオン・アーリイ　あの女、亭主ありながらあの人に従つてたに違ひねえ。どうもあの男がこんな事するたア誰か影にゐるにきまつてるわな。

チム・カゼイ　うらはア今まで、バートルレイ・ファロンが、ジャック・スミスの噂とえれいこつたつたア、ちよつびらも知らねえだつたよ。

ミセス・チュリイ　お前が知つてるわけアねえわな。二人はかうだと云つて町中ふれ歩りいたわけではなし。現在女房のミセス・ファロンも知らずにゐるし、隣に住んでゐるわしせえ知らずにゐたなもの、お前が知らずにゐるなア當り前のこんでねえか。

ショオン・アーリイ　もうかうなつた以上、どうしても今日からは、あの女の事ア一切バートルイ・ファロンにさせにアなんねえ、食はすことも世話も。この村中で誰だとしてへえ、あんな女

アかばつてくれる人あるわけアねえ。

チム・カゼイ　そんぢア、あいつにどうしてあの女の世話が出来ると思ふ？　第一あいつ自分の女房ちふものがあるでねえか。まさかあいつ新教の坊主んとこへかけつけて、プロテスタントの教會であの女と一緒にゐるやうな事もあるめえよ。

ジエムス・ライアン　そんでもしあの女をつれてアメリカへ逃げて行けア、あの女と一緒にゐるの位の事アわけもねえこんだぞ。

ジエムス・ファロン　キチイ・ケリイをつれて行くかどうか、それアへえわからねえけれど、まア見てゐさつせ。かうなるからにア、あの男逃げて行く先アきつとアメリカだから。俺アたしかに見とどけて来ただよ。俺が來るとき、今度御座つた巡察官とジ・オ・ムルドンが、郵便局へ入つて行つたのを——二人ともえらアあわててゐただよ、——あれアもうクキンスタウンの波止場であいつを押へるやうに、電報をかけたに行つたにきまつてるだよ。

ミセス・チュリイ　キチイ・ケリイの阿魔、棺の布やお通夜どころか、あいつの事だから一緒に逃げたにきまつてゐるわな。やれはア。可哀さうに、あの衆は、自分の女房にア振りすてられ、まだ息あるだかねえだか、血まみれになつて原つばにぶつ倒れてゐるたア！

ミセス・ファロン入つて來る。

ミセス・フアロン　この町中の衆、一體、何をしゃべり立ててゐるだか。あんたたちしゃべつてゐるなア、一體何の話してだ？　あんたたちしゃべつてゐるなア、うちの人のバートルレイのことであらう？　あの人、ジャック・スミスを殺してしまつたなどと、あんたたち話してゐるそんなことア、ほんたうのこつちアあるめえが、あゝ！　そもそも、あの人がかんなどこへ來たぢふことが。

ジェームス・ライアン　まア、あんたア心配する事アねえだわな、この市ん中のもの誰だとしてあんたの事を氣の毒に思はねえ人ア一人もゐねえだから。

ミセス・フアロン　なに？　わしを氣の毒に思ふ？　それア一體何ぢふこんだ。何でわしを氣の毒に思ふだ！　氣の毒がりたけア自分の事でも氣の毒に思ふがええだ。自分たちこそ、神様ア最後にお裁きなされる時にいい恥をさらすぢふ事もしらねえで！　自分たちこそ、ありもしねえ出たらめ作つて、嘘つこと話し立てて、可哀さうに何もしねえうらがとつさまに難辯をつけたり、をかした噂ア立てたり、そんであの人をしめえに無茶苦茶にしてしまふなア、自分らでねえだか、自分らさういふ悪い事してゐるでねえだか！

シ・オン・アーレイ　まアまア御新造、あんた氣い靜めたがええだよ。なにはア、巡查ぢふもの世間で思つてゐる程手つとり早いもんでねえだから。ななに、あの人、きつとリンチェ・ハウンと同じやうに、うまく隙をぬけて逃げ落ちたに相違ねえからのし。

ミセス・チュリイ　それによしんば巡查ア、お前んとこのおやちをひつ捕へて、首つ玉へ繩かけたとてそんな事ア誰が見たとて當り前のこんでねえか。

ミセス・フアロン　なに！　われさう云ふ事いふだか。ブリッチ・チュリイ！　われさういふ事思つてゐるだか！　われあんまり口がすぎるだぞ。自分ばかりさも偉いやうな顔して、ひとアどんな偉れえ人でもみなこき下ろしやがつて！　繩がどうしただど！　われ嫁入りしてマルチン・チュリイのそこへ來た時にア、嫁入り道具からける繩一本とは要らなかつたぞ。毛布一枚、繩一文ももたず、着物一つなかつただわれア。わしは金を七十磅に革の寢臺二つも持つて來ただ。それう忘れて今ぢア、われア百磅もつて來た衆よりも威張つてゐるだ。われア全體何でも出しやばりすぎるだぞ。繩がどうしただど？　この町の奴はウイスキー半分飲ましや人間を絞め殺す位え何とも思はねえやうな嘘つき悪者ばかりだ。(去らんとしつゝ)　お前らこの町の衆はみんな、朝起きて自分でおてんと様拜まにアおてんと様でも本當にしねえ奴ばつかりだ。ジャック・スミスを殺しただなど！　あゝあゝ一體まアバートルレイ、お前もまアどこにゐるだか、わしここから一緒に歸つて行くつもりでゐたのに。わたしの大事な大事なおとなしいあの人！　わたしの立派なあゝの連れ合ひは！　あゝあゝ、あ的人是野原にゐる罪のない生物のやうに心の優しい毒

のない人だつた、今日のやうな事があつた後だもの、よしんばお前らは殺すかも知れねえが、あの人は何で他にわりい事をするもんだ。そんな事アあたりまへの事だ。一寸もわりい事ではねえ。(叫ぶ) バアトレイ。バアトレイ・ファロン！ 一體どこにゐるだかよう？ (退場しつゝ) だれかバアトレイ・ファロンを見た人はねえだかなア、バアトレイ・ファロン！

みんなミセス・ファロンの方を見送つてゐる。

ジェームス・ライアン　それア、あの人にしてみりア、こんな事ア本當に思へねえも無理でねえ。何ちふ氣の毒なこんだ！

右手よりバアトレイ・ファロン、犁をもつて出て来る。

バアトレイ　だからわしいつも云つてただ。もしも何かこの世に災難が起りアそれアきつとわしが身に起るに違ひねえと……。

みんな、あたりを見まはし、それからバアトレイの顔を見成る。

バアトレイ　わしこの犁を持つちア行つただけれど、これう渡す人も見つからず、さりとてこれう置いて来る所もねえ。だがわしアもうここにいつまでもゐる事ア出来ねえだ。——おお、ショオン・アーリイ、お前ここにゐただかね。(犁をさし出して) やれやれお前にいいとこで逢つただよ。あんた、しばらくはわしみたやうに、この市を離れるやうな用事もなかつべ。わしど

うにもこの犁をもつて歸るわけに行かねえだ。だからあんた、この犁を預つてくれてそしてしばらくもつてくれねえか。さうするとその中にジャック・スミス——。

ショオン・アーリイ　(あとすきりしつゝ) うらやだよ、やだよ。バアトレイ・ファロン。うらアまアまア眞平だよ！

バアトレイ　(林檎店の方へむかつて) いいかな。ミセス・タアベイ。わしこれうみつけたなア、ここだつただよ。だからわしこれうお前の店の下へほうりこんで行くだからね。ここなら何にも危ねえこたアあるめえだから。それにどんな人でもまづジャック・スミスが——。

ミセス・タアベイ　あれはア、飛んでもねえ。そんな犁ア早く取つて行つてくれつちア！ そんなものこけえ置いてつて、巡査にでもひつぱり出されて、あんたこのわしに難儀よ掛け、わしよ亡くす腹なのか！

バアトレイ　あんた、そんな事いうたあ、あんまり近所甲斐のねえ水臭いこんでねえか、ええミセス・タアベイ。今までこの犁ぢアわしまるで時計の振り子のやうにあつちへ走りこつちへ走りすの分骨を折つて、どこへ置かうか散々心配したでねえだかな！ あーア、わし始めからこんなものに觸らず、かかり合ひにならにアよかつた！

ジェームス・ライアン　ふんとうにお前もそんな事になつてしまつたなア氣の毒なこつた。

ペアトレイ

あゝジエムス・ライアン、

二四

あんたこれを受取つてくれねえかな。あんたいつでも

近所甲斐のあるお衆だ。

ジエムス・ライアン

(飛びのいて)

わし随分お前のためにアつくしてやるつもりだが、それば

つかりは、眞平だ！

ショオン・アーリイ

お前まアよつく聞かつせ、今日の事ぢあ、お前、どんな人にしたところで

お前に力貸してくれたら、手貸してくれる人ア一人もあるわけアねえだよ。これがまた作物

の事だとか何かならそれア――

ペアトレイ

わしやどうしても誰れ一人受取つてくれてねえちふなら、わしアこれよ警察へ持

つて行くより他に仕方がねえわな。

チム・カゼイ

さうすれアお前、あそこぢアみんなまちがひなしに大よろこびで受取つてくれる

に相違ねえわな。(笑ふ)

ミセスタアベイ

(體を前後にゆすぶりながら)

やれやれ、かうなるとはア、可哀さうにジャック・ス

ミスのお通夜の費用は一體誰が出してやる事だか！

ペアトレイ

ジャック・スミスのお通夜だ？

チム・カゼイ

ジャックだとて一人前のお通夜してやるなア當り前ぢアねえか。成程お前にア、あ

の男がさうされるなア面白くあるめえが。

ペアトレイ

赤毛のジャックが死んだ！一體そんな話お前誰から聞いただ。

ショオン・アーリイ

その事アもうへえ町中知らんものアねえだぞ。

ペアトレイ

そんなら皆はジャックはどうして死んだと云つてるだかね？

ジエムス・フアロン

お前、自分はそれを知らねえ。それアさうだらうよ。ええペアトレイ・フ

アロン？ 成程お前はジャックがある男に追つかかれて、犁で一つきにされて死んだちふ事ア

知らねえだらう？

ペアトレイ

犁で一つきにされて！

ショオン・アーリイ

お前知らねえだらうよ。さうだらう。俺も知るめえと思つてるよ！ その

死骸は五丁牧場にぶつ倒れてゐたちふ事も？

ペアトレイ

ええツ！ 五丁牧場で！

チム・カゼイ

それからお前は大方、ジャックをやつつけたその男を巡査がさがしてゐるちふ事も

知つてゐなからうな？

ペアトレイ

やつつけた男を！

ミセス・チュリイ

さうさ、成程あんたその男がこんな事をやつつけたのも、あの男の女房のよ、

キチイ・ケリイの爲にやつたのだちふ事も知らなからうな？

バアトレイ キチイ・ケリイ、あの男の女房の！

彼は分らなくなつて坐つてしまふ。

ミセス・チュリイ

さア、そこで今度はあんた何とか云はにアなるめえがね、バアトレイ・ファロ

ン？

バアトレイ (十字を切りながら) あーア、この犁を持つてゐるわしが、目の前でかういふ噂聞かにならしたア何ちふ事だ！ あーア、わしもうへえこんな所さへ逃げ出せたら、せめてどこぞの旅にでも逃げ出す事が出来たなら！

チム・カゼイ 皆の衆、お見えさつせ。新しい巡察官とジョ・オ・ムルドゥンと一緒にやつて御座つたよ。もうこんなところにアぬえが一番だよ。

ショオン・アーリイ さうださうだ。こんな事にア係り合ひにならぬが一番だ。

ジェイムス・ライアン まアどんな悪い人間だか俺は知らぬえが、密告だけはしねえでくれりアええと思ふだよ。

みんな急いで立ち去る。

巡察官

わしは此地方が甚だよくないちふ事ア知つてゐたんぢやが、まさかわしが来て最初の

市の日から殺人に接しようとはまでは豫期してゐなかつた。

巡查 全く豫期なさらなかつたであります。

巡察官 家へ歸つてしまはんで仕合せだつた。どうも疑はしい言葉が一寸わしの耳に入つてゐたんぢや。

巡查 さうしてみると、やつぱり本當であつたのでありますな。

巡察官 貴様も訊ねた人たちからわしと同じ話を聞いたんかい。

巡查 同じ話——いいえその、全然同じ話ぢやなくても、とにかくその、最初の話とほぼ等しくありました。

巡察官 あの男は何をしとるんかい？ あんな所に一人きり坐つて、犁をもつてゐる。あの男はどうも犯罪のありさうな顔附ぢや。殺人は犁を以て行はれたんぢやないかい！

巡查 (まさやく) あれがその、人々の兇行を演じたと云つてゐる當の本人の、バアトレイ・ファロンであります。

巡察官 ふん、さては奴は到底逃亡する事の出来んちふ事を感じたに相違ない。そして誤魔化してしまはうとしてゐるに違ひない。本官がアングマン島に臨察してゐる時に、同じ手段を採つた犯罪者があつたけれど、しかしわしの方針を逃れる事は出来なかつたんぢや。あいつの傍へ

行け——あまり行きすぎるな。——そして手錠の用意をしとくんぢや。(パアトレイの所へ行く。そして手をつかんで、彼の前に立つ) ははあ、どうかい、ええ？ 貴様何かジョン・スミスの事を知つてゐるねい。

パアトレイ ジョン・スミスの事！ 一體、それア何の事です！

巡查 ジャック・スミスであります、閣下。赤い毛のジャック・スミスであります。

巡察官 (彼に一步近づいて肩を叩きながら) ジャック・スミスはどこにゐるんかい？

パアトレイ (深い吐息をする。それから靜かに頭をふりながら) あの衆本當にどこにゐるのだから？

巡察官 何か貴様云はんきアならん事はないか？

パアトレイ あの衆今朝此處に居ました。この所に立つて、いつもの手前の唄を歌ひ——いやさうぢやない。パイプに火をつけて——靴の底でマッチをすつて——

巡察官 どこに彼はゐるんかい、ええ？ 本官はこれで三度訊いてるんぢやぞ。

パアトレイ わしそんな事をいふなアいやで御座ります。全く不思議な事だ。それにそれが誰の事にもせよ、人に憎まれてゐたとか可愛がられてゐたとかいふ事を話すなア容易な事ぢやねえでがんす。

巡察官 貴様、知つてる事を皆話してくれ。

パアトレイ わし知つてる事をみんな話すぢやがんすか。——それぢや、第一、世界には三つあるでがんす。第一が地獄界、第二が煉獄界、それから——

巡察官 莫迦！ 何をつまらん事をいふんかい！ 要點を云ふんぢや、早く。

パアトレイ はてな。それぢやあんたは坊様アいふ事を本當にしちアゐなさらねえと見えますな。いまわし申しあげた事は坊様教へて下された事でありませう。それぢやあんた昔の衆(愛國士土著の異教的傳説時代の意？ 譯者)の事信じてゐなさに違ひねえ。その衆の考へてる話ぢや、影ちふものが残つてさまよひ歩き、魂は疲れてしまひ、そして肉體は休息に着くのぢやと云ひませう。

——あゝッ！ 影。(飛び上る) あゝわし確かに十分程前あの鐵工所の角でジャック・スミスの姿を見た。そしてまたすぐ見失つただ。それぢや、わし見たのは、あの男の幽霊だつたらうか。あの幽霊だつたのでがんすか！

巡察官 (巡查に) 良心の呵責ぢや！ 今に段々と一切を白状するやうになるんぢや！

パアトレイ あの男の幽霊がわしんとこへ乗る！ あーア、きつとこれア犁の事から來たに違ひねえ！ あれをわしがもつてゐたもんだから、殺される時、防ぎ方がなかつた恨みに違ひねえ！

巡察官 (巡查に) わしはあの男の云つた事を書き取つておかねばならぬ。(手錠をとり出す。)

アトレイに) 前以つて云つておくが、貴様のいふ事はみんな控へておくんぢやから。

バアトレイ あゝ最初にもつと早く駈けつけさへすれば、今になつてこんな恐しい目に遭はねえですんだらうに。あゝあの男、きつとお裁きの日にわしの目の前へ現はれるに違ひねえ。きつと現はれるに違ひねえ。

巡察官 (書き取りながら) 裁きの日に……。

バアトレイ あゝア、あの男の幽霊はまづわしんとこへ出て来た——それぢアこれからは毎日毎日わしにつきままとつて、夜になると毎晩、わし着てるものを剥ぎ取りに来るだか? ——やれやれどんな事になつたとてわし今更驚きはしねえだ。どうでわしは世の中で一番運のわりい人間だから。

巡察官 (嚴格に) その話を真直ぐにわしにせえ! 一體この兇行の動機は何か?

バアトレイ えゝ? 動機!

巡察官 うん、その動機ぢや。その原因ぢや。

バアトレイ わしいつそんな事アいはねえ方がえゝだらう。

巡察官 真直ぐに申し立てんと貴様のためにならんぞ。えゝ金錢上の事からか?

バアトレイ 飛んでもねえ。あの貧乏なジャック・スミススのポケットの中、自分の手の外なが入

つてゐるもんでがんですだ。

巡察官 それぢア田地について何か口論でもしたんか?

バアトレイ (不機嫌に) 飛んでもねえ。あの男、他人のものつかみ込むこともなけや、また他人に取られるやうなものも持つちやあしねえ。

巡察官 他事はす直ぐに白状した方が、あとで自分のためになるぞ、うん!

バアトレイ わし申しあげますが、この事何だつたかちふ事、どうしてもわしにア話せねえでがんですだ。この事だけはどうしてもわし話すちふ氣にアなれねえ事でがんですだ。

巡察官 貴様、それを匿さうとしたかつてそれア駄目ぢやぞ。結局終ひにはわかるこつちや。バアトレイ 成る程、たいていの衆みんな知つてゐるちふなら、それア終ひにはわかる事に違ひ御座りましねえ。ぢアまア、こゝで大きい聲は出さねえで下さりませ。わし嘘は云ひましねえ。あに嘘などいふ必要あるわけは御座りましねえ。(口に手をあてる。巡察官は身をかゝめて聞く) だがこんな事、ついぞ今まで一度もこの村にやあつた事がねえでがんですから、どうかこの村を悪く云はねえで下さりませ。——今度の事ア、キチイ・ケリー、ジャック・スミススの女房の事もとて御座りまするだ。

巡察官 (巡查に) 手錠をせえ。これで少し埒が明いたわい。本官はちやんと知つてたんぢや、

適當の方法を講ずれば、白状するちふ事を。

巡查、バートルレイに手錠を課す。

バートルレイ　ひやッ！　手錠？　それよわしに！　これアへえ何ちふ事だ！　だからわしいつも思つてただ。もしも何かのこの世に災難が起れア、それアきつとわしが身の上に起るに違ひねえと……。わしが手錠をはめられてしまふ！　あゝ、だがうら今更驚くめえ。

ミセス・フアロン登場。他の者そのあとについて来る。彼女はついて来る人たちの方を振りむいてしやべる。

ミセス・フアロン　この町中の奴ア嘘こいてゐるだ。大嘘こいてゐるだ。犬が走るより早く嘘ッことばかり作り出すだ。可哀さうに立派なわしがうちの人を悪りいもんに云ひたてゝるだ。ジャック・スミスをうちの人が殺したなど云ひ立てるだ！　わしの大事の連れ合が！　あの人程親切ないゝ人アこの五ヶ村には又とねえだぞ。うちの人は、ついぞ人様に迷惑などかけた事はねえ人だぞ。(振りむいて夫の方を見る) あれまア。これア一體何ちふこんだ。バートルレイ・フアロンが巡查につかまへられてるたア！　手錠をかけられてるたア！　おゝバートルレイ、一體あんたどうしたちふだな？

バートルレイ　おゝマリイ！　とうとうわしの身の上へ大きい災難が降りかかつて來ただ。これ

わしいつも云つてたでねえか。もしも世の中に災難が――

ミセス・フアロン　ええまア、一體どうしたちふだア、あんたはまア！　それともわしが何かにばかされてゐるのぢやねえかしら！

巡察官　この男は、殺人の告發で捕縛したんぢや。

ミセス・フアロン　そんな事一體誰が告發したんでがんすか！　そんな事お取りあげなさつちやいけましねえ。こゝの奴アみんな嘘つきばかりで御座りまするだ。さアどうぞわしの亭主戻して下さいませ。

巡察官　貴様はどうしてもこの男の方にひいきするはずぢや。しかし、他の人を悪く云ふちふ法はないはずぢやぞ。ジャック・スミスを殺したから、捕縛されたんぢや。さう自分で自白してゐるんぢや。

ミセス・フアロン　あゝ天にいます神様、どうぞわしら二人をお助け下さりませ。それぢやうちの何でジャック・スミスなどを殺すわけがありますだ？

巡察官　さうぢや。貴様にそのわけ聞かしてやれア一番いいぢやらう。この男は、被害者の女房と關係があつたために兇行を演じたんぢや。

ミセス・フアロン　(へたばる) ええッ！　ジャック・スミスの女房と！　あのキチイ・ケリイと？　え

えこの人でなしめが！

人々 あゝ何といふ業晒しだ。ふんといつア人でなしだ！ 人非人だ！

ミセス・チユリイ

あの女をつれて、アメリカへつつ走らうとしてただよこの人ア、お前。

ペアトレイ

われ何を云ひ出すだメリイ。飛んでもねえ事を。うらなア――。

ミセス・ファロン

だまらつしやい！ お前のいふ事など一言もうら聞きたかねえ。(耳を押へる)

あーア、この人が、そんなひでえ極道者だたア、うらちつとも知らなかつた。うらどうしてくれよう！

ペアトレイ

まあまあ、一寸落着いてうらに一言いはしてくれ。俺がいふ事まア聞いてくれ！

ミセス・ファロン

今日町へ出て来る時にア、馬車の上でうらが側へちよきんと坐つて、あんな

におとなしいええ人だと思つただが、われ腹ん中にアこんな不實な心もつてゐただか。

ペアトレイ

われ氣が狂つただか、それとも一體うらの氣が違つただか！

ミセス・ファロン

うらどの位え難儀をしてわれが機嫌とつただか。御主人のやうに、神様のや

うにうらお前にア盡して来ただ。お前はそれでも、いつも愚痴アこぼす、ため息アつく、ごほごほ咳アする。そして一寸もうれしいたアいはねえ。一言目にア死ぬ死ぬちふつて嚇すだから、和尚様でもわれをなだめるにアいつもへとへとになつておしまひなされたでねえか。

ペアトレイ

まアまア、黙つて俺がいふ事聞いてくれつちア。

ミセス・ファロン

お前は、お前はこの村中へ、こんな恥をかかしただぞ。今まで一度も聞いた

事もねえやうな。

ペアトレイ

ええわれちよつくらだまつてわしがいふのも聞いてくれといふに。

ミセス・ファロン

それもまア何とか少しは女らしい相手にでもひつかかる事か、キチイ・ケリイ

のやうな、あんな女のどこがええだ。身の丈といやア四尺にも足りねえ一寸法師で、一握りにすれア掌の中に入つてしまふ。そればかりか、首中さがしたとてあの女の口ん中にアもうへえ四本と残つてゐねえあんな齒ぬけこしよばの阿魔でねえだか！ えーえ神様、どうぞこんな野郎にやうんと罰をあててやつて下さりませ。この野郎の嘘で眞黒な腹ん中と、恐しい毒のあるこの心と、それから又、この男の手にぬれてゐる、ジャック・スミスの赤い血のために！ どうぞ神様、罰をあてて下さりませ。

ジャック・スミスの歌ふ聲聞ゆ。

バートルレイ おゝあれやジャック・スミスの聲だ！——今までわしは幽霊が唄を歌ふちふ事ア知らなかつた。さてはわしとあの犁とのあとをついて来たのに違ひねえ！（後すさりする。ジャック・スミス上場）誰かあの犁をジャックに返してやつてくたせえ。さうすれアわしはもう今日かぎりあいつから抜け出せるだから！

ミセス・タアベイ あーれはア、赤毛のジャック・スミスでねえだか。あのおつつけお通夜をしようといつてる！

ジュームス・ライアン われア一體墓の中から戻つて来ただか！

ショオン・アーリイ われア一體生きてるだか死んでるだか！

サム・カゼイ さうしてそこにゐるのは、本當のお前だか？

ミセス・チュリイ それともお前の死んだちふ事アうそなのか。

ミセス・フアロン 生きてゐても幽霊にしても、早く行つてキチイ・ケリイを留めるがいい。お前の女房はわしのうちの人をつれて、アメリカへ突走らうとしてゐるだア。

ジャック・スミス 俺が見るとお前らみんな、どうも氣が少しをかしくなつたやうに見える。俺の女房がバートルレイ・フアロンなどを引張つてなんでアメリカ三界へ行くもんか。

ミセス・フアロン お前をあとに残しておいてあいつア逃げ出す腹なのだよ、ジャック・スミス。そ

してわしからうちの人を奪ひ取るちふだ。これアもう二人がとづくに謀し合して企んでた事だ。

ジャック・スミス そんな事を誰が云ひ出したか、その野郎の頭、俺は今からぶち割るだ、さア誰だ、誰が云ひ始めただ。（サム・カゼイに）手前だらう、手前が云ひ出したらう。（ショオン・アーリイに）それとも貴様か？

一同 （みな後すさりをして首を振りながら）俺ア云やアしねえだよ。

ジャック・スミス どいつが云つたか名を云はねえか。

一同 （バートルレイを指して）さういひ出したのはあの男だ！

ジャック・スミス それちアあの男の頭の鉢のぶち割れるまで俺は今から殴つてやる。

バートルレイ 恐れて後すさり、ジャック・スミスの近くにゐるものはスミスを後から抱き止める。

ジャック・スミス （ふり放さうともがきつゝ）殴らせてくれ。どんな女が見たところで、たかだかをかした案山子野郎、さういふ奴が女をつれて、大海原を横切るの突走るとア柄にねえ。ニウヨークの港の入口を見たら、手前らの膽はぶつつぶれて、そのまゝ國へ逃げ歸えらうぜ。（再びバートルレイの方へ突進しかける）舌の先ちア嘘をこねあげ、腹ん中にア毒をもち、他人の鼻をつれ出して、それを手前のもんだといふ面をするつもりか！ いゝや、さア放してくれ、俺アあの

野郎をなぐるのだ！

(他の人を押しつけようとするが、後からさへられる)

三八

巡察官

(ジャック・スミスを指さしながら)

おい、この男にも手錠をはめろ！

わしはもう何もか

も皆わかつてしまつたんぢや。犯人偽證ぢや。判決を無効にせんとする陰謀ぢや。わしがアン
ダマン島に臨察してゐた時にあつたのとこれは同じ事件ぢや。それは宗教心の強度な、モブサ
族の殺人事件であつた。

巡察

それでは、この男もさうかもわからぬのであります。

巡察官

二人とも兇行の行はれた現場へ引いて行く必要がある。そして彼等を本物のジャック・ス
ミスと引合してみんけれやならん。

ジャック・スミス

俺は、俺の死體なんぞみつけた奴があつたら、そいつの頭ぶち割つてしまふぞ。

巡察官

屯所からもつと多數の助けを呼ばう。(巡察の呼笛を吹く)

ペアトレイ

わしどう考へてみても、もしもわしとジャックとが夜になつて同じ牢屋へぶちこま

れて、そしてもしジャックの手錠がはづれて手が自由にでもならうものなら、その時こそ今度は
本當の人殺しが行はれるに違えねえ。

巡察官

さア歩けい！ (人々右の方にむく)

—幕—

解題及び原作者奥書

夫人の處女作脚本は一九〇三年に初演せられた「二十五」であつた。しかしこれは惜しい事に今殆んど手に入れない。夫人の其後の作品は皆、單行本にしたり、戯曲集にしたりして發表されてゐるに拘らず、この處女作のみは、放擲して其後いづれの作品集の中にも入つてない。恐らく初演の時には、劇場の筋書本としてか或は何か他の形式で、この脚本も一度は公にせられたものだらうと思ふが勿論それは今私の臆測で確かな事はわからない。演劇史の著者アーネスト・ポイド氏も、どうもこの脚本は讀まぬらしい書振りだし、ウェイガント氏もたゞ二三行、「グレゴリー夫人はその一九〇二年の作なる「二十五」といふ脚本は、明かにメロドラマだといふので放擲した」とあるのみで、臺本發表か否や、氏は讀んだのか、芝居を見たのか、話を聞いたのかさへ分らず、結局この脚本は愈々手に入れないものである事を感じるのみだ。

が、此の短い文で見ても、又作者が放棄した所を見ても後に多數出た小喜劇程優れたものではなかつたらしい。たゞ興味のあるのは、後になつて小品喜劇の作者としては無比の名聲を贏ち得た夫人の處女作が喜劇でなくて悲劇であつたといふ事だ。(この戯曲の内容はジャック・ダウへつけた夫人の奥書によつては筋の見當をつける事が出来る)のみならず、「二十五」の次に出たこの「噂のひろまり」も本來はこれを悲劇にするつもり

であつたと奥書にも云つてゐるのを見る時、この間の消息は何かしら、一笑に附せば成程「にはか」とでもいひ得る位の喜劇でありながら、どこか唯通り一遍の喜劇とのみ云つてゐられない夫人の作品の獨特な影について物語つてゐるはしないだらうか。「二十五」が上演された翌一九〇四年、夫人は今度は喜劇一篇を出した。即ちこの「噂のひろまり」だ。それは奥書に云つてゐるやうに始めは悲劇に作るつもりであつたといへ劇場の都合上作り上げられたのは可愛い一幕の喜劇であつて、しかも、これこそ後年愛蘭士劇場中最も人氣を集め得た夫人の多数の小喜劇の先驅をしたものである。已に「二十五」を夫人は放擲してゐるし、又其の後夫人の劇作は主としてこの「噂のひろまり」から出發したものであるから、この作こそ却つて、内質上、「二十五」よりもより多く、注意を拂ふ價値のあるものである。そしてこれには、已に早くも、後々つゞいて出された夫人の小品喜劇の獨特の輕妙なテーマと愉快なユーモアと農民生活の現實とが極めて新鮮に出てゐる。夫人はこの作について次のやうな奥書を添へてゐる。

* * * * *
この劇の觀念は最初は悲劇として私に浮んで來ました。即ち道傍に一群の人々が腰かけてゐて、そしてそこを一人の少女が愉快さうに何の物恐れもなく通つてゆく光景です。それから次に、その少女は夜になつて同じ所を通るので、今度は少女は首を重く垂れ、人々も彼女の方から、目をそむけて見ぬ振りをするので

す。それは、ひよつとしたはずみの言葉がもとになつて、この少女の今までのいい評判はすつかり消されてしまつたからだといふのです。

ところが私たちの劇場の方では「王の門」だとか「暗い海」だとか、また「ペイルの演邊」だとか、「聖者の泉」だとか（The King's Threshold, The Shadowy Waters, On the Ball's Strand—by Yeats; The Wheel of the Saints—by Synge.）これらの高級な詩的な作に添へる必要上、喜劇が欲求されて、悲劇の必要はなかつたのです。そこで私はこの小戯曲の中へは可笑味を利かしたわけなのです。だが私はそれがすぐ筆に乗りませんでした。といふのは、私はバートルイ・フローンをたゞ氣の利かぬ、智慧の足らぬ、薄馬鹿位に考へてそれ以上の性格を與へる工夫がなかつたのと、手錠をかけるといふのが此の場合どうも餘り苛酷すぎはせぬかといふやうな風に思はれてならなかつたせゐです。しかし、ふとある日デウラスの海岸で、一人の陰氣さうな男がその故國で遭逢した災難について話すのを聞きました。「だがわしは今ぢやさう思つてゐますだよ。もしわしがあの時アメリカへ出かけてゐれば、今頃はとつくの昔死んでゐるに相違ねえ。アメリカなんぞで葬式でもするとなつちや、こちらにアそれこそ物入りでやりきれませんよ。」これを聞いた刹那、私の胸の中にバートルイが生れたのです。そして極めて自然に、この役が思ひがけない災難を冠せられて頗る光榮をうけたところの「老後の幸福」を配し得たのです。

この脚本は我々の劇場でも他の劇團でも共に屢々上演され、その上ボシア一座はこれを翻譯し版權侵害に

解れる程の事をして私に名譽を致させてくれました。

二

巡査及び巡察官——所謂ゲール人であつて、アングロサクソンとは全然人種のちがふ愛蘭土の人たちの英本國に對する反感は愛蘭土劇の一つの特色をしてゐるものである。英本國に對する反感はやがてその官吏たる巡査を職にしてゐるものにも及ぶ。これは「月の出」へ行つて更に重く扱はれるモチフとなる。ここに出る巡察官は、逆に、兎角不穩な愛蘭土を監視するため英政府から派遣されてゐる巡察官なのである。鑄掛屋——丁度大陸に於けるシブシイの如く、愛蘭土の鑄掛屋は、旅から旅へかせぎながら移動して行く一種の宿無しの放浪人種で、従つて職業のみでなく、階級上にも一種特殊なものとなつてゐる。

此の劇が一九〇四年十二月二十七日、アベイ座の新築最初の出しものとして公演された時の役割は、

ハアトレイ・ファロン	W. G. FAY
ミセス・ファロン	SARA. ALGOOD
ミセス・チユリイ	EMMA VERNON
ミセス・ターナー	MAIRE NIGHARBHAIGH

シ・オン・アールイ	J. H. DUNNE
チムカゼイ	GEORGE ROBERTS
ジエイムス・ライアン	ARTHER SINCLAIR
ジャック・スミス	P. MACSUIBHLAIGH
巡査	R. S. NASH
巡察官	F. J. FAY

ヒアシンス・ハルベイ

17
18
19
20

ヒアシンス・ハルベイ

ジョイムス・クワーク

フアデイ・ファレル

部長 カルデン

ミセス・ドレイン

ミス・ジョイス

肉屋

郵便配達の小僧

巡査部長

クルーン郵便局の女局長

牧師の家の家政婦

ヒアシンス・ハルベイ

舞臺

小さき村クルーの郵便局の前。婦人郵便局長、ミセス・ドレインは局の入口のところに立つて居り、肉屋クワークはその店の入口の椅子に腰かけてゐる。その傍には、一匹の羊の死屍が吊りまげられ、又上の籠の中には一羽のつぐみが入つてゐる。郵便配達の小僧フアティ・ファレルは、マウス・オルガンを吹いてゐる。汽車の笛聞ゆ。

ミセス・ドレイン　いまのは四時の列車です、クワークさん。

クワーク　もうへえそんな時間かな、ミセス・ドレイン。わしたんだ今起きたばかりだが。わしの仕事は半分は夜の中にやらにアなんねえだから、なかなかねむい事ですよ。在のかた廻り歩いて、羊のすたれものを捜し出す、そしてまアはした金を稼いで来るちふわけです。まあそれでもあの、兵隊さん相手の請負にアわしも大きに色氣があります。

ミセス・ドレイン　それアさうでせうとも。私だつてまだ暗い中にすつかり手紙の區分けをしてしまつて、朝の郵便車の間に合ふやうに送り出すといふのは、なかなかこれで辛い仕事ですよ。だからその手紙の差出し人の名まで見るちふやうな事ア、滅多あれアしないですよ。

クワーク　成程ねえ、どこの馬の骨だかわからねえ下らん手紙をかつさばいてゐるのも、全くやり切れん仕事に違えねえア、だがあんたがもし、どんなことが起つたらちふ事を聞かせて下

さらにあ、わしらア村中のもなあへえ、何にも知らずに暮らさにアなりましねえだ。確か奥さん、あんたでしたね、あの今度新任の副衛生監督が今日ここへ到着するちう事を聞かして下されたは。

ミセス・ドレイン　え、今日ですよ。そしてきつと今の汽車に乗つてゐるのだらうと思ひますよ。あの人の事について、今朝も調査部長のカルデンさんのところへ葉書が來てゐましたよ。

クワーク　あんでも皆の話にきくとその人ちうのはカノウ生れの天才だちう事ぢやねえだかね。

ミセス・ドレイン　ええさうですよ。ヒアシンズ・ハルベイといふ名前ですよ。しかしその人について云つて來てゐる事がみんな、いいえ皆と行かなくても、あの四つ一でも本當だつたら、それやまア、あの人はこの村の名譽ですわ。

クワーク　本當ですかね？

ミセス・ドレイン　あの人は二十も、もつとも推薦状を持つてゐなさんですよ。それはみんな教父のグレガン和尚様とこへ來てゐるのです、それがみんな書留で來て、書留で歸つたのですよ。嘘のやうな話だが、その目方は三百目近かつたですよ。

クワーク　ふーん。それぢアへえ大したでつけえ嵩であつたこんづらねえ。

ミセス・ドレイン　だから、あの人はいまにきつと偉い人になりなされるよ。何しろあゝいふ風に澤山の人が讚めて書いてゐる位だから、きつと大した人物に相違ないよ。

クワーク　そんな偉れえ人物ぢや全く大變なこんですな。

ミセス・ドレイン　本當ですよ、フアデイ・フアレル。お前は一體いつになつたらさういふ偉い人物になるつもりだね。

フアデイ　わしそんな偉れえ人だら、あんでこんな所で郵便小僧などしとるもんだ。馬車でも乗り廻はしてノオナンのホテルでそりかへつてゐるわな。

クワーク　あゝむかうから和尚様んとこの家政婦さんがやつて来るだ。

ミセス・ドレイン　おゝ本當に、それからそのすぐ後から巡查部長さんも來なされる。

家政婦ミス・ジョイス登場。

ミセス・ドレイン　今日は、ミス・ジョイス。和尚さまは今日はどうな具合ですえ。咳の方は一寸は樂におなりかな。

ミス・ジョイス　いいえ一寸もよくなりましねえでがんす、ミセス・ドレイン。咳アもういまにこびりついて居りますだ。それでも夜の中はどうか少しをさまつて靜かにしてゐらつしやります。それに何よりひどいのはすつかりお聲が立たなくなつしまつたので御座えますだ。

ミセス・ドレイン　さうですか。それアお氣の毒ですなえ。どうかまあ随分お氣をつけになるやうにね。

ミス・ジョイス　はいはい、かしこまりました。よろしく申しあげておきます。それから今夜の會に出る事については何と申しておきまするか。(巡查部長上場)　それでフリーマン様のかはりに私が伺ひに上つたので御座ります、ミセス・ドレイン。

ミセス・ドレイン　こちらはもう用意が出来てゐるのです。今わたしは何かかはつた報らせでも來ちや居らぬかと一寸さがしてみてもたところですよ。おや今日は、部長さん。

部長　(掲示を上げてみせつゝ)　わしは今晚の會議所でやる演說會の廣告の掲示をもつて來たのです。ミセス・ドレインどうか一ついいやうにこの窓の邊に出しといってくれませんか。それからあなたも是非聞きに來て下さい。

ミセス・ドレイン　伺ひます。是非伺ひます。それから何かもつと私で出来る事があれば致しませよ、部長さん。

部長　あゝそれから君もね、クワーク。

クワーク　伺げえやす。間違ありやせん。ええと、どういふ事の會でがんした、わしそのちよつくらへえ忘れてしまひましただが。

部長

農務省が農民階級の道德振興のため講師を派遣して各地を巡回講演させてゐるのです。

(朗讀す)「今夜、クルーン會議所にて演説會あり。尙、講話説明のため幻燈班を映寫す。」だがこりや、あるまい。鐵道局の方で鶏卵として取扱つたけれど、その種板は最初の旅行の時すつかり破れてしまつたらう事をわしは聞いた。演説の題は、「人格の建設」といふんだ。

ミセス・ドレイン 「人格の建設」？ ほんとにいい願だわ。私も一人、人格をなくした女の事を見た事がありますよ。その女はある時、有難いお水で足を洗つたんだよ。ところが、お水は見る間に乾いてしまつたんだよ。

部長 權僧正様がゐらつしやらんから、支度はみんなわしがしなけアならんのだ。權僧正様、わしがさういふ方の事もやりおぼす男だちう事をちやんと知つておいでなされる。だが、幻燈の種板がなくなつたのにアわしも全く困つてしまつた。みんな今晚見る事が出来なくなつてしまつたけれど、幻燈ちうものはあゝいふもんだちう事はきつとみんな考へちやまいよ。わしは一度見た事があるだ。活人甕ちうものを。——そのウ立つてる畫だよ。あんた知らねえかなあ。——ダンドラムで一度あつただが。

ミセス・ドレイン 和尙様のグレガン様、あんたの援助してもええちう事をミス・ジョイスに言傳ことばけがあつたですよ。

部長 それぢアわしもあの人の御援助を有難くお受けしよう。この村の人民の幸福になるちう事なら、わしの方は何もいつこくな事ア云やあせんです。新教徒も舊教徒も今晚は一緒になるんぢや。一方にアわしと驛長さんがすわる。又一方の椅子にや、あんたたちの和尙さんがつかれる。

ミス・ジョイス あゝ和尙様、わしのいふ事おききなされて、今晚はどうか家にゐて下さるやうにしざアなんねえ。あの(クワックの店先に吊してある羊を指しながら)羊のやうなうちの和尙さま、なんで演説會へ出て演説などウなされる事が出来るもんか。

部長 まあいい、責任はわしが引きうけやう。結局わしが皆の衆に靜かに聞いてるといふ命令を出さにあ、とてもあの人が演説をする事あ出来きやせんのかから。それあさうと、どうもあの幻燈の種板なくしたにア全く弱つてしまつたなあ——今になつちあもう他にどうするちう時間もないし、講師ももうこの次の列車で到着されるはずだ。

ミス・ジョイス あゝあの町の方からこつちへ歩いて来る人があるがあれア一體誰ですかね。ミス・ドレイン おゝあれアきつと新しい副衛生監督官ですよ。わたしやまだあんたにあの人の推薦状の目方の話しなかつただかねえ。

ミス・ジョイス いいえ、わしイもう若牧師さんがその手紙を和尙さんに讀んで聞かせてるとこ

ろをちやんと聞いたでがんすよ。何しろ不思議な程堅固な衆にちがひねえ。

五二

ミセス・ドレイン

わたしもさう思ふよ。きつと聖人のやうな神々しいお人にちがひない。

ヒアシンス・ハルベイ登場。小さき袋と褐色の大なる紙包とを持つ。立ちどまり、羞かしげに會釋す。

ヒアシンス・ハルベイ

皆さん、今日は。私はこちらの郵便局へ来るやうに命ぜられたもので

部長　ちや貴方がきつとヒアシンス・ハルベイでせう。私は貴方の事について長官閣下から御手紙をもらつてゐます。

ヒアシンス　ははア、私もあの方がお書き下さつたといふ事は聞いてゐました。實は私の母が知り合ひの人にたのんで、あの方から書いて戴いたのですよ。

部長　あの方は貴方を非常に讃めてゐられる。

ヒアシンス　それア御親切な事で。實はあの方は一寸も私を御存じはないのですよ。その他近所の方はどの方もみな全く親切にして下さつたです。どの方も出来るだけの事をして私を助けて下さいました。

ミセス・ドレイン

あなたがその包の中にもつてゐらつしやるのも推薦状でせう。私はその包紙

を存じてゐますの。でも私がそれを取扱つた時よりもまた當が増えましたねえ。

ヒアシンス　えゝさうでせうとも。すつかり持つて來たのですから。それにお願した方が一人残らず書いて下さつたのです。私の母は言ふですよ、讃め言葉は重荷にはならないつて。

フアデイ　全くそれに違ひねえよ。

部長　どうです、その推薦状を一つ私たちに見せてくれませんか。

ヒアシンス・ハルベイその包をひらく。すると中から澤山の封筒がこぼれ出す。

部長　（門封し一つづつ讀む）「彼はゴール人の熱情、ノルマル人の力量、デンマーク人の勇氣、

サクソン人の沈着とを一身に併せもつ青年にて御座候。」

ヒアシンス　それを書いて下さつたのは、救民法管理委員會の會長さんです。

部長　「老人青年にとりて立派なる模範。」

ヒアシンス　それは、ド　ウエツト　ハーリング　俱樂部の祕書官です。

部長　「最も注意深く且つ高級なる教育によりて與へらるゝ價値の輝ける總鑑」

ヒアシンス　それは國立學校の校長さんです。

部長　「この青年がその母國の最高理想に献身的なるは正に從來の非國會派の人々にも比すべきものに候。」

ヒアシンス それはカロリーの議員の方です。

部長 『わが民族の純潔の最も立派なる代表者。』——

ヒアシンス カローチャンピヨンの主筆です。

部長 『将来課せらるべき如何なる義務をも能く履行するに最も適へる青年。』——

ヒアシンス 新任の驛長さんです。

部長 『同族を正當に裨益し得べきあらゆる事件の擁護者』——さうだ！ ねえ君、君こそ今夜わしらを助けに来てくれる人だ。

ヒアシンス 喜んで致しませう。がどうすれあいんです。

部長 先づ君はここに對しては新來者です。——で君の示す手本は他の何物よりも重んぜられる。——そこで君は、立派な品性、道徳力、節制等の有益な効果の生きた證據として立つてくれなくちやいけない。——たしかこの中のどつかにもその事が書いてあつたと思ふが。——（しらべて見る）どこかで『比類なき節制』といふ文句が確かにあつたが——

ヒアシンス さう書いたのは母の従兄です。私は酒は飲みません。しかし私はまだ禁酒の誓約を——

部長 いや、そこを一つ、そのつもりになつてやつて下されアいいせう。

クワーク 熱心に、あゝ丁度ここに禁酒同盟會の徽章ボタンがあります。これあお華客の旦那がわしに贈つて下さつたのだ——わしこれをあなたに差しあげます。（ヒアシンス・ハルメイの上着につける）喜んで差しあげます。

部長 さうさう、それでいい。演壇の上であんたがそのボタンさへつけてゐなされあ——又は青いリボンでもいい。——忽ち何百といふ人がみんなあなたをお手本にしてまねますよ。たしかに救民院から來る奴等は——

ヒアシンス いや、僕はその、そんなそのお手本なんかになるのはどうしても——

部長 いや、そこでわしは推薦状の中から一つ讀む事にしやう。『この青年は自分の努力と高き人格とによりよき地位を得たる若者の實例にて御座候。』（自分の横腹を打つて）うまいうまい、こいつあいい。わしはノーナンの酒場へ行つて奴等が脂ぎつてぐでんぐでんに酔つて塊つてゐる中からのんだくれを二三人つれて行く——どうだい全くいい對照ぢやないか。それを見れば先等と同じ身の上に落ちかけてゐるものもふつつりと改心するに違ひない。——さうさうわし先刻見たちう話の活人畫ちうものはつまりかういふものをいふのだよ。これはきつと大成功をするに違ひない。

ヒアシンス 僕はその、そんなその、對照なんかになる事は——

部長 (推薦状をポケットにれち込みながら) それちやわしは今の中に一寸行つて、奴等に頼んで来やう。——一人に六ペンスづゝ。あゝそんだけやれあ澤山だ——何しろ百姓たちには實地で見てやるのが何よりいいだて。

巡查部長退場す。ヒアシンス・ハルベイ一寸部長をとめやうとする。

ミセス・ドレイン なか／＼うまい事を考へ出したわ。あの人もあれで此頃は一寸よくなつたと見える。わたし何も巡査とさへいやア何でもかでも悪口をいふわけぢやないわ。それあ、あの人らだつて我々と同様あゝしてつまり暮して行くんだから。それに全く、さうさうやかましいばかりでもないんだから。

クワーク (陰鬱に) やかましいばつかりではねえさ。しかし大抵の時はやかまし過ぎるだ。

ミス・ジョイス それで貴方様どちらへお泊りになりまするだ、ヒアシンス・ハルベイ様?

ヒアシンス それを質は僕が貴方がたにお訊ねしやうとしてゐるんです。私はこの町を知らないのですから。

ミス・ジョイス 私いい宿を知つて居りまするだ。しかしそこはええ衆でなけアとめねえ家で御座りまするだ。

ミセス・ドレイン それにしたつて、ハルベイさんを置かないなどいふわけはないよ。どう見た

つて立派なところばかりだし、それに今晚部長さんがあゝして讃めるといふのだもの。

ミス・ジョイス わしお話した家なら、あなた様これから部長さんとも極く近くなります。その家は警察へもすぐで御座りまするだ。

ヒアシンス (いぶかしげに) 警察署に?

ミス・ジョイス その家のすぐ裏、警察の空地に續いて居りまするだ。それにそれだけでは御座りましねえ。その家ア牧師様の家と向ひ合ひになつて居りまするだよ。

ヒアシンス えゝ? 牧師さんの家と向ひ合ひ!

ミス・ジョイス まことに結構なところで、そして貴方様のお部屋もそれはそれはきれえなお部屋で御座りまする。わたしよく存じて居りまするだ。若牧師様のお部屋の窓からそのお部屋、すぐ見下す事が出来まするだから。

ヒアシンス 若牧師さんどこから見える?

フアデイ あの家は澤山越して来た人アあるだが、その衆みんなすぐ出て行つてしまつたでねえか。

ミス・ジョイス (鋭く) 何、この小僧、あの宿はね、われなぞの越すの借りるのといふ家たアわけが違ふだ。あの家を出るやうなもんなら、出て行つてくれて却つて厄介ばらひしたと思つ

てるに違ひない。

六〇

フアデイ　　それでも鉛細工のジョン・ハートとうとうあの家を――

ミス・ジョイス　　出て行つたちうのかい。それあね、あいつ兎を手掴みにして来た時にア、いつものやうに警察を通りぬけて歸る事が出来ねえからのこんでねえか。

フアデイ　　それでも、校長さんでせえあの家ア出て行つてしまつたでねえか。

ミス・ジョイス　　何、あの人だつてカルタ遊びさへしなければ何もあの家を出るにも及ばなかつたづらに。一體お前は自分の大事な和尚様の事を何を云ひ出すつもりだか、とんでもねえ。

ヒアシンス　　とにかくどうも下宿をきめるのは、私がちつと方々を見て歩いてからにするのが一番だと思ひますよ。

ミス・ジョイス　　いゝやそんな事は決してありませんねえ。貴方様など窓掛けを閉めにあなんねえやうな事アありますめえ。

ミセス・ドレイン　　貴方様が兎をおつかまへになるなどいふ事もありますまい。

ミス・ジョイス　　それから又ジェイムス・ケリーのやうに徳利をもちこんだり變な猪口を手にしたりなぞなされあしめえし。

ミセス・ドレイン　　不穩な嚇し文句を書いて警察に後をつけられたり。

ミス・ジョイス　　道ばたのをかした踊り場へ出入りしたり、よくねえ女の尻を追ひまはしたりなどなさるはずはねえだから。

ヒアシンス　　いゝや僕お断りしとくが、僕そんなその皆さんが考へてゐられるやうな悪いところのない人間などぢやありませんよ。

ミセス・ドレイン　　それぢや貴方、こゝに書いてあるのを嘘だと仰しやるんですか？（推薦状に手をつけながら）いゝえどう致しまして、わたしらはもうよく、貴方様どんな風にして毎晩お過しになるか存じてゐますよ。親類に手紙をお書きになるとか。

ミス・ジョイス　　オウグロウニイの教訓を御勉強なされるとか。

ミセス・ドレイン　　尼僧院の慈善市のためアルバムに繪はがきをおはりなつたり、

ミス・ジョイス　　カトリック・ヤングマンをお読みになつたり、

ミセス・ドレイン　　手風琴で歌などを弾いてお過しになるとか。

ミス・ジョイス　　聖者傳の繪を見てお過しになるので御座えますよ。どうれそれぢやあ私は一寸も早くそのお部屋を約束して参ります。

ヒアシンス　　ままま、一寸待つて下さい――

ミス・ジョイス　　いいえ御遠慮なすつちやいけまねえ。今も申しあげました通りで、うちのす

ぐむかへで御座えまするだから。(去る)

六二

クワーク やれやれ、うらもそろそろ二階へ行つて會へ行く支度をしざあなるめえ。なにへえ、うらもし兵隊の肉の請負だとか、あゝして警部の奴すゝめでねえのなら、こんな會など、首も出すぢアねえだがな。(店に入る)

ミセ・ドレイン あゝわたしも支度をしなけあなるまい。今晚は私も早く行つてハルベイ様、お手本におなりなされるところよく見にアなりません。一番の始めの云ひ出し人は私ですよ。貴方様きつと此町の名譽になる方だちう事は。(去る)

ヒアシンス (もたえるやうな調子で) あゝあ、俺はいつそクルーンなんて來なけやよかつた！
フアデイ どうしただね？

ヒアシンス あゝあ、俺あカローにゐればよかつた。こんなところへ來るなんて事を思ひついたその日に、川にでも落ちて死んでしまへばよかつた。あゝあ俺もういつそ死んでしまひたい。
フアデイ あんた一體、どうしたちうだね？

ヒアシンス 今日こんなところへ來たかつて俺別に澤山の金になるちうわけでもなし！

フアデイ うらにはあんた何云つてるだか、一寸もわかんねえよ。

ヒアシンス あゝ俺なぜカローなんぞ出てしまつたんだらう、それあ大した町ぢやないけれど、

あそこにア遊び仲間もゐる、馬鹿騒ぎも出來れあ、カルタも打てらあ。——それにもうぢき「馳け馬」の試合が來るし、それに俺コルクの町からいい獵犬を一つもらふ約束になつてゐたのに！こんな風ぢや、俺アこの町で死んぢまふに違ひねえ。これぢア俺アまるでとりこになつたも同じぢやないか！

フアデイ それに違ひねえだよ。

ヒアシンス それぢやわしやどうすれあ、なくす事が出來るだか？ 知つてるのならお願いだからわしに教へてくれ。

フアデイ なくすぢゆつて何をだね？

ヒアシンス 一體どうすれあ、こんな評判をなくす事が出來るかわしア教へて、もらひてえといふのだ。

フアデイ なに、それをなくすだちうのかね。

ヒアシンス あゝわしやなくしてえだ。お前も先刻あの衆がわしをとつともねえ偉いもんにしてしまつたのを聞いてゐたぢやねえか。

フアデイ さういふ評判あるちう事あ、とてもいゝ事でえだかね？

ヒアシンス 一寸もよかあねえ。世界中でこんないやな事あねえ。こんな評判さへなかつたら、

何も俺が砂糖大根を見たやうに皆の衆の見せ物になつて、讃められるなんちう目にも遣はねえで済むぢやあないか。

六四

フアデイ

あーア、もしうらにそんな評判があつたなら、うらが頭アどいつもこいつもまるで桶の中にも入つてゐるやうな氣になつて、こんなにみんなにぶつたゝかれもしめえものを！

ヒアシンス

こんなものがなかつたら、前からは澤山の坊主から見守られ、後からは巡察たちが見てゐるやうな、そんな部屋なんかへ押しこめられもしまいものを！

フアデイ

さういふものがあつたなら、鳴子の音に逐立てまはされる夏のたんぼの鳥のやうな、

ヒアシンス

こんなものがなかつたら、かういふ釘をつけさせられたり、講演會に引張り出されて見本にされはすまいものを！

フアデイ

(口をフィウツと云はす) あんたそれぢやあの書きつけに書いてあるやうな人ぢやあねえんだな！

ヒアシンス

どうして俺、あの衆の書いてゐるやうなそんな人間になれるもんか。お寺の壁の上から下の方を見おろして御座るパヂュアの聖アントニイ様ならいさしらす、そんな人間といふものが今迄どこに生れた事があるもんか。これでわしもメルレイのお山だとかエスケルの坊主

の中にでも暮してゐれあ、それア一寸はそんな風の人間になつてるかも知れねえが、わしだつて、どうしたところで、浮世に生きてゐる人間で、浮世の仕事をしてゐるぢやないか。

フアデイ

(包を取りあげながら) はてな、さうしてみるとカロウちう村は小せいと思つてただが、こんなにへえ嘘つきアどつさりゐるだかなあ！

ヒアシンス

こんな事をしたのはみんなわしのお袋の従兄に當る人だ。わし今までの育ちが働けるやうに出来てゐないからと云つて——新しい着物を一揃わしにくれて、そして「どんな事があつても家へ戻つて来るぢやあねえぞ」とわしアその人に云ひ聞かされた。このまゝ歸つちやわしあの人に逢はず顔がない。——お袋の家柄、ずぬ分古いちう事は近所の衆で誰知らぬ人もねえだから。——あーア、何だつてあの衆らこんなものをくれたよか。俺ア今ぢや腹が立つ。(手紙を引裂いてばら撒いてしまふ) これで推薦状もとうとう片づけた。もうこれからはこいつが、俺の身持なんぞ保證して困らすやうな事もあるまい。

フアデイ

部長さんはそれウどえれえもんだと云つてただから、きつとへえボケ、トの中にアその寫し入れてるに違えねえ。それにもうへえ晝前からこの村ん中にあ、あんたが生き佛様の次ぐらゐだちう事を知つてる人ア一人や二人ばかりぢやあねえだよ。

ヒアシンス

(地團太をふみながら) よしよし、そんなら俺、その衆の口を塞いでやらう。俺手に

負へねえ悪者になれるちう事をあの衆らに見せてやる。俺何か悪い事をしてやらう、何か罪を犯してやらう。俺第一にやつてやる事は、酒を飲みに行く事だ。今まで一度も飲んだ事アないけれど、今度こそは飲んでやる。酒を飲んで、——それから暴れてやる。俺かう見えても、人の命を取る位え、蠟燭の火を吹き消す程にも思つちやあねえんだぞ！

フアデイ あんた酒飲んでやれアそれあ堪忍して貰えるよ。酔つてした事ならどんな法律の掟を破つたとて誰でも堪忍して貰えるでねえか。

ヒアシンス そんなら、俺は法律を破つてやる。酔つてゐても素面でも、俺はどうしても堪忍する事の出来んやうな事何か仕出かしてやらにアならねえ。あんた一體、何をしたが一番悪い事だと思ふね。

フアデイ うらそんな事ア知らねえよ。だがうら一度あの部長さん云つたのを聞いた、巡査が職務をやつてゐるのを邪魔するのは悪いと云つてたのを。

ヒアシンス あ、それあいけない。そんな事をすれア却つて義民だ革命家だと祭りあげられて新聞に寫眞でも出されるのが落ちだ。俺がやらにアならんといふのはもつともつと恐ろしい罪で。立派な衆がみんなあきれかへつてしまふやうな恐ろしい罪でなくちやいけないのだ。何をやれあいゝだらう。どうか一つ考へてくれ。

フアデイ これあ年寄の衆の話だが、わしい、世の中に羊を盗むよりわりい事はないちう事を聞いた事があるだ。

ヒアシンス それちやわし羊を盗んでやる。それから牛も、馬も。あゝ俺はもとのやうになれるならどんな事でもしてみせるぞ。

フアデイ いんにや、もとのやうになれる代りに牢屋へぶちこまれるだ。

ヒアシンス 俺そんな事は構はない。俺は白状する。俺は何故そんな事をしたかといふ理由を話してやる。俺本當の事をいふが、小鳥ちやあるまいし一日留り木の上にちつと留つてゐて、この村中の衆に讃めてもらつたり、讃められるやうにしむけたりしてくらす位なら、俺はいつそ懲役へ行つて墳墓を造つたり石を割つたりする方が、どの位いいかわからない。

フアデイ 成程それも、それも本當だかな。

ヒアシンス 助けてくれ、俺を！ ねえ君！

フアデイ そんだけあんた羊盗みてえちうなら遠くへ行く事ア要らねえよ。

ヒアシンス (狂はしくあたりを見廻して) ぢあ何所にゐる。わしにアどうも羊は見えないが。

フアデイ あんたよくまあ見なさるがいゝ。

ヒアシンス 俺にア生きてる奴は見えない。尤もあそこに死んだのなら——

フアデイ うら死んだ羊ぢあわりいといやあしなかつたよ。クワークの店先の釘にかゝつて
るものアあれア一體何だと思ふ。

ヒアシンス

えゝえと……(指さし)あ、羊だ、羊だ。いゝとも、あれで澤山だ。

フアデイ それぢやへえ持つて行けばいゝでねえか、あんにも難かしい事アねえ。

ヒアシンス

だが、あれは死んでゐるから。

フアデイ

あれが死んでゐるからあんだちうだ。

ヒアシンス

あれが生きてゐる奴なら、その後から俺が自分で追ひながら引張つて行けばいゝ
のだが――

フアデイ

へん、そんならお前は生きてる奴を下宿まで引張つて行くつもりなのか。そんなら
へえみんなその羊、あんだカロウにゐる頃から可愛がつて今度一緒に連れて来たもんだと思
つてしまふからあんにもなるめえ。

ヒアシンス

さうかもしれない。

フアデイ

ミス・ジョイスがさういつてふれまはる。羊ア、あんだの寢床の下でキウキウ泣いて
るぐれえの話さ。

ヒアシンス

(混亂して)あッ！一寸、一寸。

ミセス・ドレイン

(上の窓から)フアデイ！おーいフアデイ。ゐるのかい？

フアデイ

わしこゝにゐやすよ奥様。

ミセス・ドレイン

カチカチ云つてるやうだが電信ぢやないか一寸見て来ておくれ。

フアデイ

(戸口にかがみ込み)あゝ、電信です電信です。

ミセス・ドレイン

あゝそれあ困つた、どうしよう。わしは丁度着物をぬいで襦袢一枚なんだ。

えゝお前、今一寸下へ降りるなんて困つちまふと云つてくれないかい。えゝまあいゝよ。今す
ぐ行く。わしがすぐ行く。(引込む)

フアデイ

早く早く！おかみさんが来るから大急ぎで。やらねえならいゝが、やるつもりな
ら大急ぎで。

ヒアシンス

やるよ、やるとも。

フアデイ

わし手傳つてあげるよ。

ヒアシンス

(二三歩あるき出すが、ぐるりと振りかへつて)お前まだ俺に、この羊をどこへかくす
だかその場所を教へてくれなかつたぢやないか。

フアデイ

遠くまで行く事いらねえでねえか。あの四つ辻の向う側にお寺がある。その塀をま
はつて堀へ出ると、そこにア蓴草一杯しげつてるだ。

ヒアシンス よし来た。どつこいしよ。

フアデイ あゝおかみさんやつて来た。おい走つて、走つて！

ヒアシンス (二三歩かけ出して) これア危い！ ころびさうだ！

フアデイ もつと高く背負はなげや。よしわし高くしてやらう。

ハルベイ、走り退場す。

ミセス・ドレイン (怒鳴る) フアデイ・フアーレル。お前なにしてるだ！ また忘れてるだな！

フアデイ わしイ奥様、こゝで一走り行つてくるつもりで待つてゐますだ。

ミセス・ドレイン まだ一ト走りなんか待つてゐなくつてもいゝよツ！ まだ誰も行つて来いと云やあせんぢやないか。さつさへ行つてあの料金をもらつて——いゝやそれあいゝから、あの通知を——あゝそれよりも、早くそのハルベイさんの袋を、デイスさんの取つておいた下宿へ持つて行つてあげないだかね！

フアデイ へえへえ、承知しました奥様。

袋を持つて去る。

ミセス・ドレイン (手に一通の電報を持つて出て来る) 誰もゐないの？ (ちつとあたりを見廻して警戒しながら呼ぶ) クワークさん、クワークさん。デイス・クワーク！

クワーク (上の窓から石鹼のついた顔を出す) 何か用かね、ミセス・ドレイン？

ミセス・ドレイン (手招きをする) 一寸降りていらつしやい、話があるから。

クワーク それあ困る。わしまだすつかり剃らねえだ。

ミセス・ドレイン この報らせお前知らねえからそんな事を云つてるのだよ。

クワーク ぢや今聞かしてくるがいゝ。え。わしもいつまでも昔のやうにお前の自由にアならねえぞ。

ミセス・ドレイン まあちよいと、お前さん。どつかにお前さんを憎んでる人があれアしない？

クワーク それアあるかも知れねえぞ。一體商賣をしてゐる人間といふものは——

ミセス・ドレイン たしかにお前さんを憎んでる人があるよ。

クワーク どうしてあんだ、そんな事を今改めて云ひ出したぞね。

ミセス・ドレイン ええじれつたい。あんだアこの封筒の中に何んなものが入つてゐるか知らないからそんな香気な事を云つてるんだよ。デイス・クワーク。

クワーク ふんさうか。それぢやあ一體、その中にアどんなものが入つてゐるだね？

ミセス・ドレイン あんた一體この名宛は誰だと思つてゐるの？

クワーク そんな事がどうして俺にわかるもんか。俺アそれを見もしねえに。

ミセス・ドレイン 成程それも尤だ。がこれはお前さん、ダブリンの本部からこの村の警察へ宛てた手紙なのだよ。

クワーク 部長のカルデンへかね。

ミセス・ドレイン さうだよ。お前さんの事について！

クワーク え、ツ！ 俺の事だつて？ 一體俺に何を告發する事があるちうだ。俺はこんなにおとなしい人間ぢやないか。

ミセス・ドレイン まあ黙つてわしのいふ事を聞きなさい。

クワーク それぢやきつと奴等アわしあの暗打ちの仲間に入つてゐたと思つて、それで——

ミセス・ドレイン い、え、その事ぢやなくて——

クワーク 俺あの仲間にア入つてはゐなかつた——俺はたゞその横の畑に行つただけだ——そして死んだ牛を片づけてゐたど、その牛何も暗打ちの奴等たア關係はなくて——

クワーク お前さんその事についてちや何も——

クワーク あの衆はみんな顔へ墨をぬつてゐたど。そんで俺にアへえ誰が誰だか一人もわかりあしなかつたど。

ミセス・ドレイン その事ぢやないよ、今度の事あ——

クワーク 俺ア神様にでも誓つていふだあ、俺アあの衆らの聲も聞かんだだ、音は聞えてもわけはわからなかつたどよ。

ミセス・ドレイン ええじれつたい。それと關係はないとわし云つてゐるぢやないかね。そんな事よりもつともつと悪りいこつた。

クワーク え、？ それぢや一體何事だね。

ミセス・ドレイン お前さんの家にある怪しい肉をみんなすぐに差し押へると部長さんに命令してゐるのだよ。あそこへお役人が一人来るのだよ。そしてシヤノン、ホートの警察から訴へるのだよ。

クワーク ははアそいつアきつとあの豚肉の事にちがひない。

ミセス・ドレイン それがどういふわけで悪いといふのだね？

クワーク 當節ぢあ世間の衆はむつかしい叱言ばかりいふだ。それでわし、あの肉を鹽漬けにするやうにすゝめたど。

ミセス・ドレイン そんなら何もお前さんのいふやうにしたからつて別に悪りい事アないぢやないか。

クワーク さうとも、肉にア全く一寸もわりいところはねえだが、その豚をもと持つてたオ！

グレイデイは気がふれちまつたよ。

ミセス・ドレイン　その事ならわしも聞いたよ。そしてその前に豚残らず殺して了つたちう事も。クワーク　氣違ふちう事ア頭ん中だけの病氣だよ。醫者さう云つてゐるのを俺アたしかに聞いただ。

ミセス・ドレイン　それあ本當の事だらう。

クワーク　それだから、俺ア本當に誓つてもいゝよ。俺はあの豚の頭はみんな切つて捨てゝしまつたよ。俺アえらい損になるけれど豚の頭川ん中へ捨てゝ鰻にくれてやつてしまつたよ。それにみんなの衆、俺すゝめたとほり、その豚の肉鹽漬けにして食つたでねえか。鹽漬けにして食やアへえもう何わりい事などあるもんでねえ。

ミセス・ドレイン　まあいい、まあお前さんの御新造や家の衆どうもならなけれあゝが。

クワーク　俺はこの事ぢやねえ何かその、他のそのウ——……

ミセス・ドレイン　おゝフアデイが歸つて來た。ぢやわたしはこれを部長さんのところへ持たしてやらにアならん。そんならまあ、クワークさん、どつちでもいゝが、わたしはとにかく貴方に、一寸御注意だけすれあゝんだよ。幸ひその暇があつたから。

クワーク　いや全く有難てえ。ミセス・ドレイン。あんた本當にいつも近所のものによくして下

さる。どうかまあ、成るべくその通知をゆつくりと届けて下さい。部長が來る前に、たつた一つ家から放り出しておかにアならんものがあるだから。

フアデイ登場。

ミセス・ドレイン　ぢあフアデイ——おや何だい。そんな風で警察へ行かれるかい。一目見れアすぐ、鳥でも追つてたと思はれるよ。さあ制服を着ないかね。(フアデイ、車務室に入る)これを部長さんのところへ持つて行くんだよ、さつさと帽子を冠るんだ。カウンターのの上に乗つてるぢやないか。

フアデイ出て來る。ミセス・ドレイン電報を渡す。

フアデイ　それぢあ私、これは停車場の方へ持つて行くべい。あの人ア今停車場に行つてゐるだから。

ミセス・ドレイン　いいや警察の方へ行くんです。誰も停車場へ持つてゆけといやアせんぢやないか。電報は警察へ置いとけばいいのだから。

フアデイ去る。クワーク戸口に現はる。

クワーク　あゝアあんたは本當に近所思ひの親切なお人だ。ミセス・ドレイン。わし全く有難く思つてゐるだよ。わし放り出しておかにアなんねえものが一つあるだよ、たつた一つ。さうすれ

アもういくら巡査部長、あれをたづねたとて大丈夫だ。家の中は昨日きれいに掃除しただし、パーミンガムへの約定は昨日出してしまつたし。あーア全くへえ英蘭土ちう國の七面倒なのにア神様もあきれて御座るだらう。

ミセス・ドレイン やれやれ、そんな事で、あんたアよくまアわしに自分の店の品物を買へ買へと云へたもんだね、成程あんたは、隣おもひの親切なお人さ。

クワーク なに、たんだ一つぎり。一つぎりだよ。わしがあの羊をキルタータン・クロスの後家婆さんから買つてやつたのも全く慈善をしるつもりで買つてやつただよ。あんな死んだ羊、もし俺が買つてやらねえちあ、可哀さうにあの貧乏な婆さんあれうどうしる事も出来んでねえかね。あれーあの羊アどこへ行つただか！俺さつき家へ入つて行く時まで、確かにこの釘にぶらさげておいただが——

ミセス・ドレイン それぢやお前さんどつかへ置きかへたのだらう。

クワーク (家の中に入り、しばらくさがす。そして出て来て) いいや置き換へねえ。他に置き換へるやうな場所がねえでねえか。俺ら目が見えなくなつただか、それともあの羊なくなつただか、はて不思議な事があるもんだ。

ミセス・ドレイン 本當にどうしてもないのかね。

クワーク あんた、今朝から、あれここにあつたのを氣イつけてゐなすつたらう。

ミセス・ドレイン わし先刻はそこにあつたのを覺えてゐるが、成程、ないねえ。

クワーク そしてここにア、あれう持つて行くやうな人ア他に誰もゐねえと……。

ミセス・ドレイン あーあんたわしを疑つてるの？このわしがあるをとつたとしても。ええッ！
ジュイムス・クワーク。

クワーク ここにねえちう譯がねえでねえか。あいつどつかへ行つちまつたとしても、まさか一人で歩いて行くはずはねえだ。死んだも死んだも始めから死んだのを買つた羊だもの。

ミセス・ドレイン ふんわしのお隣のお人はまことにええお業さ、冗談ぢやない。羊を盗んだのを人のせゐにするつもりかい。本當に、云ひがかりも大概にしとくがいいだ。あんたのものとあんだの店のものを、羊や懸釘やそんなもの、わしが盗んだなど！馬鹿におしでないよジ。
イムス・クワーク。あんまり人を馬鹿におしでないよ。

クワーク あーア、靜に。おい、靜に——

ミセス・ドレイン いいやしゃべるんだ。これが黙つてゐられるもんか。ジュイムス・クワーク、わしはねこれでも、食ふものがなくなつて家の中に坐つて餓ゑ死をしかけたとて、お前さんのとこの釘にぶらさがつた肉なんか爪の先の垢ほども食ふやうな事はないよ。いいやこれから先で

も決してお前んとこの肉などを食ふやうな事はないから安心するがいいだ。お前の店の肉なんか食ふ奴は、他に何も食ふもののない兵隊だとか、何んなものでも平気で食ふイギリス人か、それとも、海岸ばたの泥棒野郎たちの他にあるもんか。(怒鳴りながら店へしゃべり込む)

クワーク (彼女を止めながら) あに馬鹿いひ出すだ。あんた肉を盗んだなどと誰も云やあしねえでねえか。さあどうかかわし氣をつけるやうに聞かしてくれ、何か他の報告が来てゐるに違ひねえ。何か他の報告を巡査部長うけとつてゐるに違ひねえ。

ミセス・ドレイン (意地悪さうに) これ面白い話だ、一體どうすれば電報よりも早い報告が出来るちうだか、さういふものがあるなら一つ聞かしてもらひたいもんだ。

クワーク 巡査部長、先刻ここへ来た時は、あの廣告を出しに来たなどと云ひわけしてゐただが、本當の事聞かして下せえ、部長ここで何をして行つただか。

ミセス・ドレイン あの何やりに来たただかそんな事をわしがどうして知つてゐるもんだ。

クワーク 部長のやつた事わかつてるだ、あいつ行くやうなまねしてここを立つて行つただ——そしてそつと又歸つて来た、その時にア俺ア鬚を刺つてただ——それで部長めこつそりとあの羊を證據品として持つて行つてしまつたに相違ない——

ミセス・ドレイン (興味をもつて) それあさうかも知れん。

クワーク あーア、俺あ、この釘へあの羊なんぞ吊しておくのでなかつたに。

ミセス・ドレイン どうしてな。

クワーク 俺アちやあんと二週間も前にあの羊殺してしまへとアーリイ婆にいひつけておいたのに、あの慾深婆め、死んぢまふまで殺さねえでおいだのだ。

ミセス・ドレイン これからどうなるちうだ。

クワーク これからどうなるなんちう事がなんで俺にわかるもんか。どうならうと、そんな事ア神様の御心でねえか。何もかも丸損になつてしまひ、利益が上がるどころか、元も子も皆ふいになつてしまつただ。

ミセス・ドレイン やれやれ氣の毒に。

クワーク いつそへえ、なにもかもなくなつてしまへ——絲のやうに磨り減つちまへ。おまけにあいつア病み瘦せて目方などは二ヶ月目の仔羊程もなかつただ。

ミセス・ドレイン それぢや検査官、あの羊はダブリンへもつて行くに相違あるめえ。

クワーク あいつの肋骨の上にあ、特許薬をぬつた痕がはつきり縞になつて見えてゐるだ!

ミセス・ドレイン それぢやあんなア、輕罪裁判にかかるだか、それとも巡廻大裁判にまはされるだか知れたこつちやない。

クワーク

俺あ、あいつらにしやべり立ててやる事があるだ。俺もうんと云ひわけしにアなんねえだ。一斤二十錢ばかりで兵隊へ肉を入れるちうやうな事どうして出来るだ。

ミセス・ドレイン

それぢあ保釋にしてもらふちう事もきつと難かしからうなあ。

クワーク

あいつら俺に、自腹切らしてでもええ肉を出せといふだか。俺のええ肉を食つてあいつら可哀想なアフリカの土人や印度人と戦争しるちうだか。さうなれア徴兵反對同盟の衆の方が罰金はらふのが本當だ。

クワーク

あんたきつと、罰金どころぢやすむまいとわたしは考へるよ。あんたどうしても五年は臭い飯を食はにアならんだらうねえ。あーあさうなつたら、わたしアまあ、御近所の事だから精々あんたのお上さんに優しくしてあげやう。

クワークは始の地團太を踏んでゐるが遂に泣き出す。

ヒアシンス・ハルベイ登場する。そしてその片わきに立つ。

クワーク

俺ア今日が日までどの位え、俺ア體の弱い五人の餓鬼をかかへて、どの位え苦勞しただかしのねえだ。

ミセス・ドレイン

それぢあこれからあんたのなくなれア、子供衆は工手學校へでもあづけておくつもりでせうね。

クワーク

俺ア噂が可哀想で——可哀想で——

ミセス・ドレイン

それぢや救民院へでも入れる——

クワーク

あいつア、一生懸命にわしと一緒になつてよく稼いでくれた。今でも驢馬を車につけてそれに乗つて町へ出て行つてゐるだ。

ミセス・ドレイン

あんたと一緒に稼ぐ。それぢアおかみさんまで引つばられるやうにならにや

いいが……

クワーク

あゝわしい、いつそ自首して出るとしよう。自分のした事をみんな白狀してしまはう。そして俺アもうお上の御慈悲にすがるより他仕方がねえ。

ミセス・ドレイン

あゝそれがあんた、一番いいんだよ。

クワーク

たつた一匹の羊を取られたばかりに、こんな思ひもよらねえでつけえ災難が、俺が家中に降つてくるものたア知らなんだ！

ヒアシンス・ハルベイ進み出る。

ヒアシンス

あんた、その事なら、何もわけはないからまあ——安心なさるがいい。

クワーク

なに、わけがねえだと？ 人の事を口先でわけがねえといふ事こそわけアねえにちがひねえ。

ヒアシンス 私アそれがどこにあるか知つてゐるんです。

クワーク 何がどこにあるちうだ？

ヒアシンス お前さんが捜しあぐんでるその羊がさ。

クワーク われア俺の羊の事を、何をしつてゐるはずがあるだ？

ヒアシンス わしア何もかも知つてゐるさ。

クワーク さては部長に聞いて来ただな。

ヒアシンス 部長さんは何にもいやアしなかつたよ。

クワーク それちやもうへえ町中が知つてゐるだな。

ヒアシンス わしの他、誰一人知つてゐる人もねえし、持つてつた奴も誰あらうこのわしさ。

クワーク ええツ！ それちアわれ一體それどこへ持つて行きアがただか？

ヒアシンス あのお寺の塀の蔭の、濠の中だ。あそこの葦麻の中へ持つて行つた。ほらこの通り、引つ搔けだらけになつてしまつた。(手を出して見せる)

クワーク あの葦麻の中に！ あそこはこの村中で匿しとくに一番えゝ場所だ！

ヒアシンス わしはまた、あんたにこんな大した難儀がかゝるたア思はなかつたもんだから。

あの事はみんなわしがした事で、あんたア何にも知らないのだ。

クワーク それちや、あんたが、あんたがあれを取つて行つてたのか、そして匿しておいたのか。それちやあんた汽車で来る途中、あの警察あての通知について聞いたのだね。

ヒアシンス あんたの云ふ事わしにア一寸もわからぬえ。

クワーク あゝあなた、あなた。わしあなたの云つてなさる事を聞いてると、まるで神様アわしを、今からすぐ天へ入れてやると仰しやるのを聞いてゐる程すつかりうれしくなつてしまひましただよ。

ヒアシンス ええツ！ お前またわしをどうしようと思ひ出したんだ。

クワーク どうするですと？ (ハルメイの手をしっかりと握る) あなたお望みになる事なら私アどんな事でも致しますだ。

ヒアシンス それちやきつとお前さんはこの話を――

クワーク この話ですと。あゝあ勿論へえ、みんな静かになつた時この事を云ふのは私でなくてどうしますべえ。わしがあんたのこの譽れを町中に觸れ歩りかすにゐてどうしますべえ。

ヒアシンス わしにアあんなたいふ事が一寸もわからない。

クワーク (ヒアシンス・ハルメイを抱きしめていふ) あアあ、私を助けて下さつた救ひ主。

ヒアシンス 私があんたを助けたと？

クワーク えゝえゝ。お蔭様でわしアへえもう、既にこの身が危いところをお救ひ下さつた。

ヒアシンス あんたの身の危いところを？

クワーク わしもう世間へ顔むけ出来なくなるところを！

ヒアシンス (ミセス・ドレインに) 一體この人何の事を云つてゐるのです？

クワーク いゝえ、検察官につかまるところを！

ヒアシンス 何の事を話してゐるのです？

クワーク いゝえ、判事に捉まるところを！

ヒアシンス この人は何か間違へてゐるんだ。

クワーク いゝえ、冬の巡廻大裁判を！

ヒアシンス この人は氣が違つたんぢやないかしら？

クワーク いゝえ、五年の臭い飯を！

ヒアシンス 變な事をいふ人だなあ！

クワーク いゝえ、請負もふいになるところを！

ヒアシンス それぢや俺が夢でも見てるのかしら？

クワーク どうしたらこの御恩が返されませうよ。

ヒアシンス (叫ぶ) いや〜飛んでもない、羊を盗んだはこのわしだと云つてゐるのだよ——

クワーク はあ、あなた様が、あゝ有難う御座ります。神様貴方をお恵みなされる。

ヒアシンス わしがそれを、どろぼうしたといふのですよ！

クワーク はゝアわかりました。あゝ有難い。貧しきものの祈禱が貴方に報いられます。

ヒアシンス わしはそれを、ちよろまかしたといふ——

クワーク わしの五人の餓鬼の祈ります事が貴方様に報いられまするやうに。

ヒアシンス わしはもうこの上は何と云ひ直したらいいか解らない。

ミセス・ドレイン あつ！ 靜かに靜かに、クワーク。巡查部長さん店を搜索にやつて來た。

部長現はる。クワークはハルベイの傍からいそいで離れる。ハルベイは帽子をいぢくつてゐる。其

他よろしく。

部長 糞ツ！ いまいましたい奴だ！ お話にならん！

ミセス・ドレイン 部長さま、あんた何をそんなに怒つてゐらつしやるのです？

部長 わしが折角停車場まで出かけたのに到頭講師は來ないんぢや。そして講師は餘儀ない用事が出來て南部の方へ留まらねばならんちふ言傳を車掌が持つて來た。残つてゐるドレイン貨の問題を攻究するためぢやさうだ。

ミセス・ドレイン 今晚の講師がですか？

八六

部長 さうさ、今晚の講師さ。どうも他に云ひやうもないぢやないか。全くわしは講師にア弱らせられた。早速誰か代りの人をさがさにアならんがどうしたらいいのかわかれアせん。

ミセス・ドレイン それつきりですか。その他にアもう何にもたよりはなかつたですかね？

部長 なに！ それきりかだつて？ それきりかだつて？ ええツ、ミセス・ドレイン。いざ開會までもう一時間とない間際の今になつてこんな事になれあ、これつきりどころか大概うろたへてしまふぢやないか。そんな事をいふのならあんた一つわしに聞かせてくれ給へ。此場合誰が一體講師の代りに演壇に立てばいいのか。十分教育があり、十分な智慧があり、そして十分な人格のあるちふ人はどんなところへ行けア見つかるか。

クワーク (飛び上つて) そんなら、わしが一つ教へてあげますべえ。

部長 何、お前が！

クワーク (ハルマイの肩をたたきながら) 部長さん、その人ならここにゐなさるだよ、ここに。あなたの目の前にゐなさるこの若いお人について、その書面の中にア随分いろんな事が書いてあつただが、あの事アみんな本當の事ばかりで嘘は一つもなかつただよ。そしてこの方の事アいくら讚めたとして讚めすぎるちふ事アないだよ。

部長 ふん、成程それアなかなかいゝ思ひつきだな。

クワーク あの手紙の中に書いてある事その他に、部長さんわしもう一つお話しざアなんねえ事があります。その事アこのわしが胸へ答へた事でござりやす——ひよつくらした事から——といふのは、この若い方はこの村へござつてからもうへえ一軒の家中の者の身の上の既に危ふくなるところをお救ひなされたでござりやすだ。

部長 成程それア勿體ない——この御方が、この御方がたかだか百姓風情をおたすけなさるなどといふ事あ勿體ない事だ。

クワーク 一軒の家、その家ア昔からの古い家で野原の草の蔓のやうに、大きいのや、小さいのや一族の者が澤山つゞいてゐますだ——そしてその一家のものは皆、一人の、——それももしこのお方のお助けがなかつたら今頃アもうへえ情けねえ難儀な事になつてゐる一人の男を頼りにして生きてゐますだ。わしのいふ事、信じて下さりませ、この方は貴方現在立つてゐらつしやるこの土地にゐた人の中で一番に賢い、一番に智慧のある、一番に親切な、そして哀れなものにとつちア一番にえゝお救ひ主でござりやすだよ。ねえ？ さうでねえかな、ミセス・ドレイン？

ミセス・ドレイン あゝそれア全く本當の事です。このお方アどうしてあゝいふ智慧や才覚がお

ありなさるのだから、どうしてあゝいふ事を御存じなのだからちふ事あ、とてもわしらにア解る事ぢやないですよ。たゞそれは、あの上のはうからこの方にお授けになるのに違ひありませんよ。

部長　それぢやミセス・ドレイン。もう問題は解決しましたぞ。ハルベイさん。あんたこそ今晚の講演會の演説者ですよ。講師が實はこの覺え書を送つて來てゐるのです。——あなたはこれをもとにして、一つ演説にして下さればいゝのです。そして貴方はクルーンの奴等に、奮起せよ、そして人格の建造に取りかゝれと、叫んで下さればいゝんです。わしは一度ある講師がグンドラムでそれをやるのを見た事がありますよ。「諸君！　こゝへ來たまへ！」その人ア云つたですよ。「諸君！　ダニエルにならうぢやありませんか！」その人ア云つたですよ。

ヒアシンス　いや——。謝る——堪忍して下さい。わしにアとて——

部長　（覺書を見てそれをハルベイの手の中に押し込みながら）　な——にこんな事、全くわけアないですよ。わしはその、貴方を演壇へ出す挨拶はしますだよ。貴方はの前へこの覺え書を置いて、そしてコップに水を入れる——さあ、これで話はきまつたです。（振りむいて去らうとして）ぢや、今から三十分内に、會議場へ來て下さい。——私は先づ一寸、警察へ行かにやらんから——電報が來てゐるちふ事だから。（立ち去りながら後ろへ叫ぶ）　おくれなさんなよ、ミセス・ドレイン、それからクワークもいゝかい、お前わしにきつと聞きに來ると約束したからな。

ミセス・ドレイン　それぢやもうわしもすつかり片づけなけれアならん。——それぢや本當に。クワークさん、あんたも支度をしてしまふがいゝよ。

クワーク　（頬をなでながら）　それに違ひねえ。とにかく今の場合あいつにア巧くやつて置くのが一番だ。（振りむく）やれやれ、これでまあ今日は大難をうまく逃れたわけだ。

二人とも入つてしまふ。

入り違ひにフアデイ、口笛を吹きながら出て來る。

ヒアシンス　（腰を下しながら）　俺にア一體何にもわかれアしない。何がどうなつた事だやら、こゝの衆は大概のぼせ上つて半氣狂に違ひない。

フアデイ　あんたまだとつつかまへられねえでゐるだか？

ヒアシンス　とつつかまへられる？　何をあんた云つてるのだからわしにアわからん。

フアデイ　あいつの羊なくなつてゐたでねえかね。

ヒアシンス　うんそれアなくなつた。そしてわしは、それをわしが盗つたといふ事を話した——ところがその結果どうなつたか、わしもうへえあきれてしまつた——これを見てくれ。

覺え書をフアデイの方に突き出す。

フアデイ　書きつけぢやねえか。あんたアまだ推薦狀もつてるだかね！

ヒアシンス・ハルベイ

ヒアシンス 推薦状よりもつと悪りいんだ！(しゃがれた聲で笑ふ)ついでにお前も今晚来て、俺がどんな面して演説をするか見に来るがいゝや。手にアこれをもつて——そして俺が演説をするんだ——そして他の人の世話焼いてやるだどさ。(フアデイ、フィュー——と口笛を吹く)お前あの羊を俺に盗めと教へてくれた時、何んでそれと一緒に、この村ぢや羊を盗むとその人ア説教をして、坊さんの方がそれを聞くやうになる規制だといふ事も教へてくれなかつただ！

フアデイ あにそんな事アねえ。いつか俺が八百屋の店からころがり落ちた林檎をちよつくら取つた事があるだが、その時にア村の衆何にも演説會を開いてくれと頼みやしなんだよ。それどころか俺えらくぶつ叩かれた位だよ。

ヒアシンス (あたりを見まはし) よし、そんならどつかに林檎があつたら、俺今度は林檎を盗んでやる！ あーあ俺アもう、ガローを出ねえ前に何で首の骨でもぶし折つて死んでしまはなんだだか。俺いつそ、良張つたためとつつかまつたあの時、六ヶ月懲役へやられてゐれアよかつた。いつそ俺、教會へでも盗みに入つて——

フアデイ それぢやおめえ、新教の教會へでも入るぢふだか。

ヒアシンス それぢやまだ罪が軽すぎるに違ひねえ。

フアデイ いんにやさうでねえ。巡察部長の奴アきつと新教の方を餘計腹立てるに相違ねえだ

よ——おめえ、どうしても盗みてえなら、新教のお寺泥棒するが一番早いだよ。

ヒアシンス (立ち上つて) それぢやどうしてやりやアいゝか教へてくれ。

フアデイ (指さしながら) 俺ほんに今、犬でも来てあの羊の臭を嗅いでゐやしねえかと思つて、ちよつくらあすこ廻つて来ただが、丁度窓が開いてたのを覚えてるだ。

ヒアシンス 開いてた、開いてた、扉が開いてゐたと？

フアデイ あゝ開いてただよ。あのらんびきをする衆のために色硝子をはめてある所が——

ヒアシンス そいつアもつけのさいはひだ。

フアデイ 全くへえ、何もかもえゝだ。もしお前をあの窓の上まで押し上げてくれる人せえあれア、あの中へはもう譯もなく入り込む事が出来るだよ。さうすれアへえ、あすこにあるどんなえゝもんでも、お前の勝手に盗む事ア出来るだ。

ヒアシンス 俺ア何もほしかあねえ。お前がわしをそこへ連れてつて押しあげてくれりや、盗んだものはみんなお前にくれてやるわ。

フアデイ あ、あすこへミス・ジョイスがやつて来た。あゝお前を下宿へ連れて行くつもりだよ。もうへえ俺アちゃんとお前の袋、あすこへ持つて行つて来ただよ。お前があの羊をしよつて行つてる間に——

ピアシンス お、走れ走れ！

二人退場。

ミス・ジョイス出る。

ミス・ジョイス ミセス・ドレイン。みなさるかね。あのハルベイさんどうなされたか御存じねえかな？

ミセス・ドレイン (正装して出て来る) 會議所へおいでになつたんぢやないかとわしは思ふがねえ。あんた聞いたの、ハルベイさんが今晚は講師になつて、一同に演説をして下さるんですよ。ミス・ジョイス あの方はすぐ偉くおなりなされるねえ。うちの和尚さんも云つてゐなされたよ。あの人は今にこの村のいゝ助け手になると。あんなカロウのやうな小さな村から、こんな神様のやうなえらい若い衆が出るたア誰も考へもしめえと思ふがどうですね。

巡查部長、電報を持って急いで上場。

部長 ミセス・ドレイン。一體この電報は何時に着いたのです？

ミセス・ドレイン それアもう一分一秒迄確かちふわけにアいきませんよ、部長さん。しかしね、まあ私の時計が違つてゐたアとにかく、たしかその電報に書いてあるでせう。

部長 確かに書いてある。だが、これを受けとつた時、わしは自分の時計でこれを受けとつた

時間が書かしてあるのだよ。

ミセス・ドレイン それアどうか知りませんねえ。しかし一體警察ぢや、お巡りさん方さう忙しくもないのだから、それをもつてすぐあんたのみなさるところへ届けて下さるのが當り前ぢやないでせうかねえ——

部長 (クワックの店をじろじろ見ながら) まあどうでもいいよ。一體わしは、氣の毒にア思つとるが、しかし職務ぢやからわしはやらなければならんのぢやよ。

巡查部長、クワックの店を捜索し始む。ミセス・ドレインはそれを見てゐる。クワック窓から首を出す。

クワック 何をしてるだな、俺がうちの中で。(答なし) おい！ 誰かゐるのかと云つてるぢやないか。(答なし) はてな、さてはタニアンの家野良犬に違ひないな骨様は、——よし来た、待つてろ、今にぶち食らはしてやるぞ！

ミセス・ドレイン 部長さんだよ、カルデンさんだよ。クワック。部長さんが何か捜してゐらつしやるやうだよ——

クワック店へ出て来る。

部長は表へ出て来て、又さがしまはる、包を取りあげたりその他仕事よろしく。

ピアシンス・ハルベイ

クワーク やあ、まことに恐れ入りますが、今日はもう生憎切らしてしまつたでござります。部長さん。——いつも御最良にして下さる旦那に、お断りして誠にへえ申譯ありませんでござんすが——

部長 あんまり最良にしたとも思はんが。

クワーク 何でせうね、奥さまやお小ぢやいのに、その仔羊の極く柔いところとおさがしになつてゐるんでせう旦那。

部長 うゝんさうぢやない。

クワーク あーあ残念だなア、もつてゐれア、わし貴方に買つて戴けア店の自慢になりますからね、お勘定などなしで持つて行つて戴くのですが。明日は極く上等の仔山羊を一つおとしませう。奥様はきつと仔山羊はお好きでござりませうな——

部長 わしは今日、お前の店には悪い肉があるから搜索しろといふ命令を受け取つたんぢや、それで今わしは搜索のために來てゐるんぢや。

クワーク (笑ひながら腰を下ろす) さうでしたか。成程なア、世の中の事だから、随分へえ、根も葉もねえ嘘を云ひ出す奴もゐるわけでござえますなあ。

部長 なに、貴様んとこよくねえ肉を賣るちふ事ア今迄に幾度も聞いてたんぢやぞ。

クワーク さうでござりますか。いえなに、他を呪へば穴二つで、さういふ衆は終にア自分が御上の御厄介になるに違ひねえですよ。

部長 どうも、かうやつて見たとこぢや何も見つからないな。

クワーク あるわけやアありませんよ。全くのところ、そこに何かあるもんでござんすえ、それ空でござんすだ。

部長 それぢやもう全く店中に肉はないのか。

クワーク いゝえどう致しまして、まだありますとも。そのベイコンの極上等を一桶持つて居りますだ。

部長 ふうん。それア一體何で死んだんぢや。

クワーク これアへえ困りましたな。ベイコンがどうして死んだかわしに云へと仰しやつちやそれアへえ容易なこんぢやねえ。それへえ、アメリカ製でござりまするだ。あすこの國ぢや一體豚をどんな風にして殺して居りまするだか。わし一向に知らねえでござんすよ。きつと機械仕掛でござりませう。そのう、わしきつと——そのう、蒸氣仕掛の金鎖か何かでそのう——

部長 あーアわかつた。もうその他に何にもないのか。

クワーク わし誓つて申しますだ。こゝには、貴方様と、私と、それからあの籠の小鳥と、そ

の他にアもう全く、生きて肉も死んだ肉もござりましねえ！

部長　そんならわしは監督官殿に、何にも発見しなかつたと報告しなげやならん。だが貴様、将来を氣をつけい！

クワーク　へえへえ恐れ入りました。部長さん。氣をつけますのでござります。

フアデイ登場。立ちどまつて一寸躊躇する。

部長　あ、貴様だな俺のとこのこの電報遅らした奴は。どうだ、二度とかういふ事があると俺は容赦せんぞ！ 氣をつけい！

フアデイをつかんでゆすぶる。

フアデイ　うらだといふと、誰でもへえみなこの通りだ。(つぶやく)

巡査部長、も一度フアデイをゆすぶる。その拍子に半クラウンの銀貨彼のポケットより落つ。

ミス・ジョイス　おやまあ、半クラウン。一體まあこんな大へんなお金どうしてもつてるだ！

フアデイ　どうしてと云つて――

ミス・ジョイス　おみやい、がこんな澤山の金もつてるなんて、何かわりい事をしたに違ひない。フアデイ　それ、うら、往還でひろつただ――

ミス・ジョイス　あに拾つただ？ 拾つただら、あんで部長さんとなり、うちの和尚さまのと

こへ持つて来ねえだ！

ミセス・ドレイン　きつとこれうなくした人困つてゐるに違ひない。

ミス・ジョイス　そんならわしが自分で、うちの和尚様のとこへ持つて行くが一番いよ。お前もわしと一緒に来るだ、フアデイ。和尚様何かお前にお訊ねなされるに違ひねえから。

フアデイ　うら、本當の事往還で見つけたでねえ――

ミス・ジョイス　そら御覽。わしにアちゃんとへえお前それう何かわりい事をして儲けたちふ事がわかつてゐるだぞ。さあ、正直に話してしまはんか！

フアデイ　うら、それ、錢投げして取つただ――

ミス・ジョイス　われと半クラウンもかけて錢投げするちうやうな人があると思ふか馬鹿め。そんならその人の名が云へるか？

フアデイ　それあ――あのう――知らねえ人だ――

ミス・ジョイス　まあ、あゝいふ事をいふ。知らねえ人だと！ あんたがたの中で、どなたか、この村の中に知らん人のゐたのなど見た方ありますか、ミセス・ドレインでも、部長さんでも、それからクワークさんでも。

クワーク 一人も見ない。

部長 知らん人はこゝにアゐなかつた。

ミス・ドレイン わたしらが顔を知らぬ人などあるわけがない。

フアデイ あるだちうに。

ミス・ジョイス

さあそんなら和尚様の前へ引張つて行く。さうすれア話すだらう。

部長 (もろ一方の腕をつかんで) それとも裁判所へ引張つて行かうか!

フアデイ うら、むらつただよ、ほんとに、知らねえ人から。

部長 そんならその人はどこにゐるんぢや。

フアデイ あの人アどつかにゐる——どつかこの近くに。

部長 そんなら俺をその人のとこへ連れて行け。

フアデイ あの人、今にこけえ来るに違ひねえ。

部長 正直な事いはんか、あゝん。そいでねえとわれたためにならんぞ、こら!

フアデイ (泣き出す) あゝあ勘辨してくらつせえ、わし白状しますから。

部長 (離して) ぢや——誰がお前にくれたんだ。

フアデイ あの日來た、若い人、ハルベイさんくれただ。

一同 ハルベイさん!

クワーク (いきり上つて) 何を云ひ出しゃアがるだ、貴様、圖太い野郎だな貴様は。ヒアシン

ス・ハルベイ様が、われなどと錢投げうしてお遊びなさるだなどと、飛んでもねえ事云ひ出しやがる!

フアデイ うらそんな事、いやアしねえ。

ミス・ジョイス 手前さう云つた、さう云つた。われ今云つたでねえか。

クワーク ヒアシンズ・ハルベイ様! あのお人は今までこの町へござつた人の中で一番えらい

あのお方だぞ!

ミス・ジョイス あゝあ、何ちふまあ嘘をつくだか!

クワーク きつとこの半クラウンも贋錢だろ! それでうまく通るかどうだか試めしにこの野郎に使はしてみるとくれたのだろ! 市の時にアこの村へ宿無しの鑄掛屋大勢入りこんでゐただから、わしに見せな。(囁んでみる) いゝや、これア本物に違ひない。さあ部長さん。これア貴方が取つておおきになるのが一番えゝでござります。

巡查部長、銀貨をうけとる。ふと彼はそれをいろいろにして眺まはす。

部長 はてな……そんな筈が?……そんな事があるわけア、……あるまいがなあ?

ヒアシンズ・ハルベイ

クワーク 何ですが。それう貴方様、何んとかお考へになるのでござりまするか？
部長 いいやあれだ、どうしてもあれだ。俺アこれを知ってるんぢや。この半クラウンを俺ア知ってるんぢや——

クワーク ヘーえ。そいつア奇妙な事ですなあ！

部長 ふうん、俺はよく知つてゐる。わしはそれを去年一年間こいつを教會で始終取扱つてゐたんぢや——

クワーク はてね！

部長 この金は毎日曜の朝、集金板をまはす時、最初に入れておく卵金だ。この女王の顛顛のところに傷がついてゐて、そして鼻の下にもゆがんだ引掻き傷がある。

クワーク (銀貨をながめながら) は、あ、成る程。

部長 これア容易ならぬ大事件になつて來た。こいつア教會破りの罪業だからなあ！
一同 オウ、オウ、オウ！

部長 (フアデイを引つかんで) 貴様、教會へ忍び込んだな！

フアデイ (ふるへ上つて) い、え、わしそれア決してやれアしねえですよ。
部長 それでも證據が上つてゐるぞ。

フアデイ 何といはれても、うら一足もふみこみやしねえだもの。

部長 それぢあ、どうしてこれを手前が持つてゐるんぢや？

ミス・ジョイス また知らん人から貰つたとでもいふのだろ！

ミセス・ドレイン またヒアシンス・ハルベイ様から貰つたとでもいふつもりだろ！

フアデイ それでもハルベイさまに貰つただもの。

部長 なに、それぢやあのお方が教會破りをなさつたなどと貴様は云ひ掛けるつもりなのか。

フアデイ (嘔り泣く) うらア、さう云つたとてあんた俺のいふ事ア本當にアしなさらねえ。

クワーク オーウ。貴様、年も行かねえに何ちふならずもんだ！ 此野郎、うらぶちのめして

やる！

ミセス・ドレイン お、丁度あそこへ、おいでになつた！

ヒアシンス登場。

フアデイ逃げ出してハルベイの陰にかくれて泣く。

ミセス・ドレイン 貴方丁度いゝ所へおいでになつたのですよ、ヒアシンス・ハルベイ様、この圖太い餓鬼の口を塞いでおやりなされませ。

ミス・ジョイス こいつが貴方様の事を、何だと云つたと思ひになりますだ。ハルベイ様。こ

いつが貴方様と錢投げをして遊んだなどと言ひ出しましただ。
クワーク 泥棒だと、こいつがぬかしましてござりますだ。
ミセス・ドレイン 教會破りの泥棒だと。

部長 こいつはもう以前からよくないちふ事は聞いてゐました。早速感化院へやつてしまひます。

フアデイ 助けて下せえ、助けて。この衆はわしみたいな子供の食つて行く道をこはしてしめえますだ。わし感化院などへやられたら、もうわしの身の上は滅茶苦茶になつてしめえますだ。

跪きてヒアシンス・ハルメイの膝にすがりつく。

ヒアシンス なに大丈夫、わしが助けてやるとも。

フアデイ どうか牢屋へ入らねえやうに！

ヒアシンス わしがあの衆らに云つてやるよ。

フアデイ わしやあはれな孤兒で——

ヒアシンス まあわしに口を利かせてくれなげやア——

フアデイ もうさうなつたら、うらアもう二度と再びこの世で頭ア上げる事ア出来なくなつてしまふ——

ヒアシンス 大丈夫救つてやるから。

フアデイ この話アいつまででもわしにつきまといつて。——

ヒアシンス 靜かに、さあだまる事出来んのか。

フアデイ どうかわし捨てねえで。

ヒアシンス どうかまあだまつてくれ。

フアデイ どうか何もかもあんた引うけて。

ヒアシンス 黙れアわししてやるから。

フアデイ あんたがしたちふ事話して。

ヒアシンス 話さうと思つてゐるんだが。

フアデイ あの窓から入つたなアあんただと。

ヒアシンス いふよ、いふよ！

フアデイ あの箱盗んだのはあんただと。

ヒアシンス あゝ云ふよ、云つてやるから。

フアデイ 聞いてたちふ事を。

ヒアシンス わしに話させにア、話させにア！

ヒアシンス・ハルメイ

フアデイ あの手を残らす。

ヒアシンス みんなあの衆に話してやるだから。

フアデイ そんなあんたあれう、うらに呉れただちふ事を。

ヒアシンス (遂にハルベイは自分の手でフアデイの口に蓋をして、フアデイを起す)

部長 前だまつて俺に話しをさせてくれなげや。 まあ一寸、お

部長 さあいつまでもぐづぐづしてはゐられない、あいつを私に渡して下さい。

部長 (フアデイをつかまへて) こいつア、半屋の中でちつとさせておいてやつて下さい。

部長 貴方が何と仰しやつても、こいつを許すわけにアいけない。

部長 いゝや、いけません！

ヒアシンス わしが逃がしてやる。

ヒアシンス いやどうしてもする。

部長 それぢや、あんたこいつを金で買ふつもりか？

ヒアシンス 俺が自白してこの子を救ふといふのです。

部長 ええッ！ 何んですと。

ヒアシンス 教會破りをした泥棒はこのわしだ。

部長 それア一體本當ですか！

ヒアシンス さあこの人は放してわしをつれて行つて下さい。本當にわしがしたのだから。

部長 それに違ひないといふ證據がありますか。

ヒアシンス (フアデイを指し) この人が證據人になります。

フアデイ おう、ハルベイさん。わしやそんな事アしたくねえ。わし助けて下さい。さうすれ

アわしなんにも云ひましねえだから。

ヒアシンス いゝや、お前どうしても證據になつてくれなげアいけない。お前裁判所で請文立

ててくれにアいけない。

フアデイ いやだ、いやだ。どうしてもいやだ。世間ぢやわしの請文など信用してはくれねえ

だ！

クワーク (進み出して) みんなこれがわからねえだか、めえねえだか！

ミセス・ドレイン あんた何を云ひ出しただ？

クワーク われたちアみんな、馬鹿ばかりだか！

ミス・ジョイス 自分の事を云つてゐるだか。

108

クワーク あーあ、われたちア本當に阿呆ばかりか！

部長 そんな事を貴様、誰にむかつていつてゐるんぢや。えゝツ！

クワーク (ヒアシンスの手をとり) われたちア、目が見えねえだか？ 耳が聞えねえだか？ わ

れたちア正氣をなくしただか？ あゝ、こんな事ア今までこの村にア一度もあつた事がねえ！

ミセス・ドレイン 何だかさつさと云ふがいいぢやないか。

クワーク このお方は生き佛さまだ！

ミセス・ドレイン それアさうかも知れん。

クワーク あはれな者の守り神様だ。昔の殉教者の話のやうだ。いゝや、昔の殉教者でもこの

方に比べれア何でもねえ事だ。このお方を見るがえゝ。この方は、みる影もねえ子供を助けよう

となすつてござらつしやるだ！ 自分が身代りになつて、その繩目をうけようとしてゐなざる

だ！ 自分が泥棒をしたと云はうとしてゐなざるだ！ 自分がお白洲へ出ようとしてゐなざる

だ！ 牢屋へ行かうとしてゐなざるだ！ 自分の身に恥をうけようとしてゐなざるだ！ 泥棒

の汚名を自分に着ようとしてゐなざるだ！ 嘘を云つて——しかし、かういふ嘘は立派な嘘だ。

——そして自分の身を捨てようとしてゐなざるだ！ かういふ事までして、貧乏な生れの、可

哀さうなるすのろ小僧の汚名をぬぐつてやらうとしてゐなざるのだ。

一同感心してさゝやく聲。

クワーク どうです。貴方はどうお考へなされます。

部長 (ハルベイの手をしっかりと握つて) ハルベイさん！ 貴方はわしたちみんなに教訓をお與

へ下さつた。わしはもうこの小僧を告發は致しませんからどうぞ御安心下さい。(彼をゆすつて

そして起き上からず) そしてこの半クラウンは次の日曜日に、私が慈善箱の中に返しておきます。

(フアディに) こら、この大恩のあるお方に何と云つてお禮をするつもりだ。

フアディ 有難うござりました。ハルベイさん。あんたうらにいい事をして下された。ふんと

に有難い事を。うらこの先、百年生きてゐたとて決して一言でも、あんたの悪い事ア口にア

出しましねえ。

部長 (青いハンカチを出して涙を拂ふ) わしはこの事を今晚の會の方で話さう。この事ア「人格

の建造」の上に非常な刺戟を與へるに違ひない。わしはこの事を和尚さんに話さにアならん。

そしてこのお方を、今晚の會長の椅子に——

ヒアシンス あゝ！ やめて下さい、どうか——

クワーク いや會長。今晚の會長はどうしてもこのお方だ。もうかうなれア、わしらがお進め

ヒアシンス・ハルベイ

109

して會長になつてもらふんぢや。そしてわしらこの村中をこの方を椅子にのせてかつぎまはる事にしよう！ さうとも、このお方こそ、この村中のお手本で、この村中の仕合せだ。(ハルマイを捕へ椅子の上へ坐らす) さあ部長さん、手を貸して下され。さあフアデイも！

一同、ヒアシンス・ハルメイをのせてかつぎあげる。ハルメイその上でやけになつて抗へどかなはず。クワーク さあみんなこれから會議所へ行かう。さあみんなでヒアシンス・ハルベイ様の萬歳を

三唱しよう！ ヒップ、ヒップ、ホーラー！

ロップ、ロップ、ホーラーを三唱する聲速く聞えつゝ幕下りる。

解題及び原作者奥書

グレゴリー夫人の最初の喜劇「噂のひろまり」が上演され、次のシーズンに、アベイ座の基礎は全く確立し、今まで様々變化して來た名稱も最後の形を取る事になつて National Theatre Society といふ事になつた。そしてこのシーズンには三個の作品の初演を見た。その中二つが夫人の戯曲で他の一つはウィリアム・ポイルの喜劇であつた。夫人の作品の一つは郷土史劇「キャナバン」で他の一つは「噂のひろまり」の直系ともいふべき「ヒアシンス・ハルベイ」であつた。

この後夫人はこの種の小品喜劇を相繼いで發表してゐる。そして一九〇七年、アベイ座叢書の一冊として「噂のひろまり其他」と題した戯曲集を出してゐる。その頃出たものは、「ヒアシンス・ハルベイ」「ジャックダウ」「月の出」「貧民院」等で、この時代は夫人の最初の全盛時代である。そしてこの頃の作はいづれも頗る評判がよく、たゞ劇場人氣としてアベイ座中の第一人者たるのみならず、夫人の後期の作について云々をするやうになつた批評家たちもこの頃の作については専ら敬意を表してゐる。中でもこの「ヒアシンス・ハルベイ」はその代表的な作品である。

この劇に作られてゐる世界は、恰も日本の田舎のやうに、極めて因習的な村で、その上これに加ふるに、「噂の

ひろまり」同様、土着の百姓たちと、英國官憲との交渉を背景にしてゐる。そしてそれ以外もう一つこの劇の世界には「緑と樺色」の交渉といふものが加はつてゐる。即ち緑色といふのは、愛蘭土の舊教徒の表象であり、樺色といふのは新教、即ち英國々教（改宗した方の側）の表象である。ここに出るジョイスの主人なる和尚さんといふのは所謂緑色黨で、巡査部長の屢々口にする牧師といふのは樺色黨である。この劇を読む上には、兩者の間にさうした軋轢のあるといふ事は是非念頭に置く必要がある。

*

*

*

*

*

*

或る晩私は、身なりをすばらしくきちんとした人に逢ひました。すると皆はその人の事をいろいろ評判してゐるのです。勿論その話なんか皆が皆本當でもないでせうが、それを聞いてゐると私は、あんなに極端に人々から尊敬されるやうな風采、言動を持つてゐたら、時には却つてその重荷に堪へられなくなる時がありはせぬかしらと思はずにはゐられませんでした。

其後しばらくして、この紳士が即ち、私の胸の中へヒアシンス・ハルベイとして移植されたわけです。そして私も一般の作者のやる如くモデルよりはやゝ變化して移植したのです。そしてこの人は、我國の田舎村の一般の風習なる、「人格の批判」といふものが、経験とか考察なんかできめられず、何でもない一寸したはずみの片言隻語とか、一時の感情の端できめられてしまふ、クルーンといふ村の中へ置いてみました。

しかしこの着想は最初私が考へたよりも一般的でなくて、僅かに私の友達か認めてくれたといふだけの心細い結果でした。

*

*

*

*

一九〇六年二月十九日この劇がアベイ座で初演された時の役割は、

- | | |
|---------------|------------------|
| ヒアシンス・ハルベイ | F. J. FAY |
| 肉屋ジェイムス・クワーク | W. G. FAY |
| 郵便小僧フアデイ・フアレル | ARTHUR SINCLAIR |
| 部長カルデン | WALTER MAGEE |
| 女局長ミセス・ドレイン | SARA ALLGOOD |
| 家政婦ミス・ジョイス | BRIGIT O'DEMPSEY |

月
の
出

人物

巡查部長

巡查 X

巡查 B

権禰を著た男

目
の
目

三

舞臺

ある港町の波止場の傍、石柱と鐵鎖の柵。大いなる樺一つあり。三人の巡査入り来る。月光。

一一六

巡査部長は他の二人より年上、舞臺を横切りて右手へ行き、石段の上から下を見下す。他の二人は糊の壺を下に置いて、貼紙の束を解く。

C 巡査B こいつア貼り出しておくにもつてこいだ。(樺を指す)

D 巡査X 訊いてみよう。(部長の方に聲をかける)これへ貼り出しておいては如何ですか。(返事なし)

C 巡査B この樽の上へ一枚貼つておきませうか。(返事なし)

A 巡査部長 こゝに水の方へ下りる石段があるね。かういふ所はよく氣をつけなげやならん。彼奴がこれを下りる。すると一味の奴等の舟がやつて来る。奴等は他所からこゝへ舟をよこす、といふやうな事がないとも限らぬて。

巡査B あの樽は丁度貼札をするのによかありませんか。

巡査部長 うん、よからう。そこへ貼り給へ。(二人貼る)

巡査部長 (讀む)「黒き頭髮、——黒き目、髯なし。身長五尺五寸。——どうもこれでは大した

手がかりにはならんな。あいつ破獄をする前に一度も顔を見る機會がなくて惜しい事ぢやつた。何でもすばらしい奴ぢやといふ事だ。あの團體の行動は一切この男の方寸から出るちふ事ぢや。全く彼奴のやうなあゝいふ破獄のしかたをするものは、愛蘭土中にもまたとあるまいて。どうも獄吏の中にあいつの一味に同情をもつてゐる奴があるに相違ない。

巡査B あの男に對して一百磅の賞金といふのは、政府としちアちつとけちですな。警察の方であれを捕へればその警官は誰でも、昇級にはなりませんね。

巡査部長 こゝはわしが見張る事にする。どうしても彼奴はこの道へ出るとしか思はれん。あそこをこつそりとぬける。(波止場の側面を指す)すると、奴の仲間が、そこで待つてゐる、てんぢやないかな。(石段の下を指す)そして今度逃がしたら最後、もう容易に捕まへる事は出来なくなつてしまふ。漁船の蔭にでもかくれてゐるとするとどうもあの海藻の積んである下のあたりではないかな。あゝアしかし女房もちでその賞金がほしいと思つてゐる男に同情して加勢をしてくれる奴なざア一人もなささうだ。

巡査X 首尾よくそれが我々の手で捕へる事が出来たとしても、さうなれア今度は、きつと人民に、いゝや人民どころか、ひよつとしたら身内の奴等にまでわしらは攻撃されにアならない。

巡査部長 まアまア我々は警官としての義務をつくさねばならんぢや。わしらの上には、一

國の法律と秩序とを保つちふ責任が懸つてゐるんぢや。わしらのやうな事をするものもなくちや、上のものが下になり、下のものが上になつてしまふかもしれないからな。ぢやまあ君たちは急いで行きたまへ。まだ他に澤山貼らんけアならん所があるんぢやから。そして済んだらまたわしんとこへ戻つて来てくれ。角燈はもつて行つてよろしい。あまり遅くならんやうにな。わしもお月様と二人ぎりぢやちつと淋しすぎるからなア。

巡查部長 B　わたしらも御一緒にゐられないのはうれしかありません。全體政府がこの町に巡查をもつと置かなかつたぢや事はないですな。あの男は在獄中であつたし、それに巡回裁判の時ですから。ではまア、お氣をつけなさいまし。

二人退場。

巡查部長　（一二度そこらを行つたり來たりす。それから貼紙を見る）百磅の賞金、それから間違なく昇給する。百磅の金ちふとだいぶ使ひでがあるに違ひない。正直に勤めてゐても一向うだつがあがらんちふのも考へてみれアこけな話だなア。

襦袢を着た男、左手に現る。そしてつとすりぬけて行かうとする。巡查部長不意にふりむく。

巡查部長　おいこら、何處へ行く！

男　へいへい、旦那、わつしアつまんねえ小唄歌ひでござります。これう（小唄の本の束を示し）

あの船頭どもに賣りたいと存じまして。（行きかける）

巡查部長　待て！　待てと云つてるぢやないか。貴様そつちへ行く事は出来んぞ。

男　あゝあ何ちふこつた。貧ほど辛いものはねえ。世間はいくらひろくても貧乏人をかばつてくれる人ア一人もねえのか。

巡查部長　貴様の名は何といふ。

男　名を申し上げたところで、あなたがたわしらと同じやうに御存じだかどうだか。だがまアそんな事はどうでもいゝや。ジミイ・ワルシュちふもんで御座ります。

巡查部長　ジミイ・ワルシュ？　俺はさういふ名は知らん。

男　いゝえ旦那、エニスでは有名な血筋でござえます。旦那はエニスにおいでになつた事アおあんなさらねえやうですな。

巡查部長　それがどうしてこちらへ來たのか。

男　それア旦那、巡回裁判をあてに參つたのでござえます。そここゝで、ちよつびら儲けようと思ひましてな。判事様がたと同じ汽車でござえました。

巡查部長　ふん、そんならこんな遠くまで來たんぢやから、ついでにもつと先へ行くがいゝ。どうせこゝから又出かけるのだらう。

男 参ります。参りますとも。ぢやちよつくらそこまで行つてめえります。(石段の方へ行きかける)

巡查部長 いやこちら。その石段の方へ行つちやいかん。今夜は誰でもその石段を通る事は禁じてあるんぢや。

男 いゝえ。わたしアちよつくらこの石段の天邊に腰を下すんでござえます。さうして見張つてゐる中にア、誰か船頭衆がわしの小唄を買ひに来てくれるで御座いやせう。さうすれア、わつしもおまんまが頂けるといふもんでさア。あの衆が船に歸るなア、随分晩いもんですからねえ。コークではわつしもよく、あの衆が手押車で波止場へ送り込まれて来るのを見ましたつげ。

巡查部長 立てツー えゝ。今夜は誰でも此波止場のまはりをうろついてゐる事はならんだ。

男 へえへえ、ぢア参りませう。あゝあ、したくねえものは貧乏だ！ あゝどうです旦那、ぢア旦那一つ、買つてやつて下さい。こゝにいゝ奴を持つてゐますから。(一冊一冊めくりながら)「これで一ぶく。」——これは大したもんぢやないと。「巡查と山羊」これもお氣にア入りますめえ。「ジョニイ・ハート」、あゝこれアいゝ歌ですぜ。

巡查部長 行けといふに！

男 まア、ちよつと聞いて下さい。

歌ふ。

時はあるとき所はロッス

家はゆたかな大百姓の

一人娘はいま色ざかり

娘惚れたはジョンニイ・ハート

そこで母御がお云やる事にア

ジョンニイ・ハートの縞服仕立

山の兵士はわしや大きらひ

祝言どころかわしや氣が違ふ。

巡查部長 うるさい、やめろ！

男 (小唄を包んで、こそこそと石段の方へにじり行く)

巡查部長 おいこら、貴様どこへ行くんだ。

男 それや旦那唯今、行けと仰しやいましたから、行くので御座ります。

巡查部長 おい、わしを馬鹿にするためにならんだ。そんな方へ行けとわしはいやせん。町へ戻つて行けと云つたのぢや。

男 町へ歸れと仰しやるんですか？

巡查部長 (男の肩をつかまへて前へ押しむけながら) それ、道を教へてやる。さつさと行かんか。何をぐづぐづしてゐるんか。

男 (しばらく掲示に目をむけてゐる、そしてそれを指しながら) 旦那、わつしアわかりましたよ。

旦那が何を待つてゐらつしやるのだといふ事が。

巡查部長 それが貴様にどうしたちふんぢア。

男 ところがその、旦那の待つてゐらつしやる男を、わつしアよく知つてゐるんです——え、よく知つてます——ぢアわつしアこれで、御免蒙りやせう。(いそ／＼行きかける)

巡查部長 その男を知てろ？ おい一寸もう一度來い。その男はどんな風の男だ？

男 へえ？ 何か御用ですか。は、あ、旦那、あんたあの男にこのわつしを殺させようとなさるんですね。

巡查部長 たに？ 貴様どうしてそんな事を云ふんか？

男 いえ何でもありません。あつしアもう行きませう。あつしは御褒美なんか十倍にして下さつても、貴方のお手先をつとめる事ア眞平です。(舞臺を左手の方へと歩む) や、十倍にして下さつても眞平で御座えます。

巡查部長 (後から追かけながら) おい一寸待て、一寸待てといふに。(引きもどす) その男はどんな男だ、その男を貴様はどこで見たんぢや。

男 わつしア郷里のクレア那で見ました。いや全く、いくら貴方様だとてあの男の顔ばかりアまさかよう見ちアゐらつしやりますまい。あの男と一緒にゐらつしやつたらきつとはなくなりませよ。あの男が、使ひ方を知らないといふ得物はねえといふ事ですぜ。それに、あの男の力と來ては、あいつの身體はまるでこの板のやうな堅さですよ。

巡查部長 はてな、そんな恐しい奴なのか。

男 へえもう恐しい段ぢアありません。

巡查部長 ふーん。

男 わつしの町にア可哀さうな人がありましたよ。パリボンから來た警部さんでしたがね、——その時ア大きな石でしたよ、あの男のやつたのは。

巡查部長 わしはさういふ事ア聞いた事がないぞ？

男 それア御存じねえかもしれませんよ旦那。世間の出來事が何から何まで、一々新聞に出てしまふといふわけのもんぢやありませんからね。それに私服の巡查さんだつてありますから。……それは何でもあの男がライムリックにゐた時の事です。……たしかキルマロックの警部屯所

を襲つた時よりあとの事です。……月夜で……丁度かういふ風でした。……水の傍で……何も
しつかりとわかつてはゐねえんです。

巡查部長　ふーん。氣味のわるい郡だなア。

男　全くでござえますよ。旦那がそこに立つてゐらつしやる。さうするとあの男が波止場のこ
つち側(指す)から上つて来るだらうと思つてそちらの方に目をつけてゐらつしやる。ところが
あの男は(指す)向ふ側から上つてゐるかもしれない。そして旦那がまだ見當もつかねえで
ゐなさる中に、やつアあんだのとこへ、來てますよ。

巡查部長

それアあの位の男を捕へるには、こゝへ巡查を一中队も出さにア本當ぢやねえ。

男　それで旦那アわつしをこゝへ引きとめておゝきになる腹なら、わつしアこつち側を見張つ
てゐてあげますよ。わつしがあの樽にのつかつて見張つてゐれアよござんすよ。

巡查部長　ところでお前は、あの男をよく知つてるかな。

男　へゝえそれアもう旦那、一哩先からでもあつしにアちやんと分ります。

巡查部長　だがさうなると貴様も、褒美の分け前がほしからうな。

男　じよ冗談ぢやない。それア旦那、なる程わつしも市から市へと渡り歩き、歌でもうたつて
ゐなければ其日を送る事の出來ん、しがない暮しはしてゐますが、褒美の金ゆゑ目がくれたと

人はいはれるのもいとはぬ程、そんなさもしい人間ぢやありません。だが旦那に御用が　けれ
ア、わつしも幸、町へ歸る方が、危くなくてよう御座います。

巡查部長

よし、ぢやまア貴様こゝにゐてもいゝ。

男　(樽の上上がる)　承知しました旦那。ねえ旦那。わつしア驚きましたね。旦那、あなたそ
んなに行つたり來たりして、くたぶれるぢやありませんか。

巡查部長

なにくたびれるたつて馴れとるからな。

男　旦那、あんたはまだ今夜はこれから骨の折れる仕事かねえとも限りませんが。今のうちに
ちつと骨を休めておゝきになる方がようがせう。この樽の上にア、まだたつぶりかけられます
よ。それに、高い所の方が旦那、遠目が利きますよ。

巡查部長

さうさなア。(樽の上上つて男と並んで腰かける。部長は右をむいて腰掛ける。つまり二

人は背中合せに腰かけて、別々な方をむいてゐる事になる)　何だか貴様のいふ事を聞いてゐると、俺
は少しをかした氣持になつて來た。

男　旦那、マッチを貸して下さい。(部長、マッチをやる、男パイプをつける)　旦那も一ぶくやり
ませんか。氣がおちついてようがすぜ。一寸お待ちなさい。いま火をあげますから。なかに、
見まはす事ア要りませんぜ。どんな事があつたつて、あんた波止場から目を離しちアいけませ

んぜ。

二二八

巡查部長 よし大丈夫、離しやせん。(パイプに火をつける。二人とも煙草を吸ふ) いやはや、巡查をして居るといふ事も、たかなかえらい仕事だぞ。夜よなか外にゐて、あらゆる危い目にあつてゐながら、誰一人禮をいつてくれる人もないんぢや。それでゐて僅かばかりの月給で、それで人民からは悪口ばかりいはれる。そして、上からの命令となれア否應はねえのだ。たとへ女房子があらうと家族があらうと、そんな事にア御用捨なしに、どんどん危い所へやられるのだ。

男 (歌ふ)

峠越え来て野に出てみれば

野邊はひろびろシヤムロク原

足をとどめて野を見て居れば

岩を小川が笑つてはしる

さてもゆたかと惚ればれ見れば

ちらと目につくあはれた老婆

老婆ほそぼそ歌ふを聞けば

歌は悲しやグラニユール。

巡查部長 おいやめろ。それアこんな時うたふ歌ぢやない。

男 いゝや旦那、わつしは少し元氣をつけようと思つてね。あいつの事を考へてゐると、旦那わつしや氣が減入つてやりきれません。かうしてわしら二人がここに腰掛けてゐるてえと、あいつがああ波止場を上つて来る。さうすれア、わしらのところへきつと飛びかゝつて來ますよ、そんな事を考へてゐますとね。

巡查部長 おい貴様、よく見張つてゐるか。

男 へいやつて居りますよ。それも褒美も貰はずにね。考へてみれアわつしも随分馬鹿かも知れませぬ。だが、どうもわつしは他人様が困つてゐなざるのを見るてえと、それを助けずにはゐられねえ性分ですてね。おやツ？ 何だ！ 今何だかあつしを殴りかかつて來やしなかつたかしら。

胸をなでおろす。

巡查部長 (男の肩を叩きながら) 氣の弱い男だなア。お前の褒美は天國へ行けば下さるよ。

男 それアわかつてます。わかつてます。しかし旦那、命あつての物種ですからね。

巡查部長 うん、んなら、歌でもうたつて元氣をつけるがいい。

男 (歌ふ)

月の出

二二七

霜おく頭は風に亂れ

老の手足は鎖にしばられ

もだえつ嘆くあはれその聲

ゆふべの風にまじりつ聞ゆ。

悲しき節に唄ふを聞けば

妾ぞ老いしグラニーニエイル

貴き王さへくちづけ給ひし

その唇の……。

巡查部長

さうぢやない。……「過ぎしその日の羅綾の衣。血汐に染みて破れ果てぬ。」……といふのだ。お前は違つてたぞ。

男

あゝさうでした。それに違ひありません。わつしはまちがへました。(その詩句を繰りかへす)まさかかういふ歌を、へへへ、旦那のやうなお方が御存じだとは、妙ですなア。

巡查部長

人間ちふものは、いろいろな事を知つてゐるもんさ。しかしそれだからとてさてどろしようとは考へない人もあるといふわけさ。

男

それぢやア旦那、かう申しちア何ですが、旦那だつてもやつぱり、あの子供の時分にア、丁

度いまあつしらがこの樽にゐるやうに、こんな風に土手へ腰をかけて、他の子供たちと一緒に

あんたも一度は「グラニーニエイル」の歌をおうたひになつた事があるんですかねえ。

巡查部長

あゝ、歌つた事があつた。

男

それから、あの「シャン・ピン・ポート」は?

巡查部長

うん、あれも歌つた。

男

それから、あの「緑の岬」といふ奴。

巡查部長

さういふ奴もあつたなア。

男

それぢや、旦那が今晚かうして捕へようと思つておいでになる相手の男も、子供の時分

にア、やつぱり同じやうに、塀の上に腰をかけ、同じ歌を唄つたものかもしれねえ。——あゝ

あ、妙な世の中だなア……

巡查部長

しいツ！……人が來たのかと思つた。……何だ犬だつたのか。

男

ねえ、本當に、妙な世の中ぢやありませんか。……事によるとそれが、昔あなたと一緒に

歌をうたつた子供の中の一人かも知れませんが。あなたが今夜か明日にも捕まへて、牢舎へぶ

ちこまうとしてゐらつしやるその男も……

巡查部長

それや全く本當だなア。

男　そしてひよつとした機^はみで、ある夜の事、あなたたちがさんざあゝいふ歌を歌つた擧句、他の子供らが自分らの計企を話すといふやうな事もまア有り勝なこつてすよ。まア國の自由を取りかへすといふやうな計企を話すんですね。そこであなたがついひよつと、その仲間の一人になつてゐないもんでもありませんよ。……さうすれア旦那、あんただつて今頃は、ずゐ分難儀な目に遭つてゐるかもしれないですね。

巡查部長　さうさ、それアどつともいはれんな。俺もあの頃にア大きな事を考へてゐたからなア。

男　旦那、全く妙な世の中ですよ。床の上を這ひずりまはつてゐる子供が、長い一生の中にはどんな目に遭ふか、誰がしまひにどうなるか、それや母親にもわかるもんぢやありませんよ。巡查部長　なる程なア、妙な考だけれど、しかし本當の事だなア。待て、俺も考へて見るから。……いかにもあの頃俺に分別がなかつたら、いいや獨り身でゐて女房子がなかつたなら、そしてあの時警察の方に入つてゐなかつたら、俺も今頃は牢破りをして目の目の拜めぬ身かも知れない。そしていま目の目を避けてゐる男、あの牢破りをした男が、わしのいまゐるこの樽の上に腰をかけてゐる、といふめぐり合せになつてゐたかも知れない。……さうしてわしの方があの男から何とかして逃げようと思つて這ひまはり、あの男の方が法律を守り、俺の方がそれ

を破り、俺の方が何とかして爆裂弾でもあの男の頭へ投げつけようとか、お前のさつき話したやうに大きな石で叩き割らうとしてゐるのかもしれない……いいや、やつてゐる！……おおッ！（吐息。しばらく間）……何だあれは。（男の胸をつかむ）

男　（樽から飛び下りる。そして聞耳を立てて海面を眺めながら）何でもありませんよ。旦那。

巡查部長　小舟ぢやないかと思つた。俺はどうもあの男の仲間が小舟でこの波止場の邊へ来るやうな氣がしてならん。

男　旦那！あんたもねエわけえ頃にア、人民の味方であつたに違ひない、まさかその頃アあんたも法律のお手先ぢやなかつたらうと、旦那わつしア思つてゐます。

巡查部長　さうだ、あの頃は俺も馬鹿だつたが、しかしさういふ時はもう過ぎた。

男　ねえ旦那、あんたもさうして帯剣制服ではゐなさるが、時にア、自分自身も昔ひよつとはすみさへあつたなら、グラニエールの跡を追つてゐたかも知れねえと、さアそれをお思ひになる事もありませうなア。

巡查部長　俺がどう思はうと、貴様が何もいらんこつた。

男　いいや旦那、あんたもきつとまだまだいつか、國のために戦ふとお思ひになるにちがひな

5。

巡查部長 (樽を飛び下りる) 俺にそんな風な事を云つちやいかん。わしにはわしの本分があるんぢや。それを俺は辨へてゐる。(あたりを見まはす) あッ！ あれは小舟だな。あッ！ 船の音がする。(石段の方へ行つて下を見る)

男 (歌ふ)

教へておくれよシ、オンオウフアレル
みんなが集るその場所はいづこ
あの河ぶちさ、なじみのとこさ
てめえもおいらもなじみのとこさ

巡查部長 止めろ！ 止めろといふに！

男 (ますます大きな聲で歌ふ)

合圖のしるしにもう一ついふぜ。
みんなが肩には槍をかたげつつ
マーチの口笛ほがらかにふけよ
ああ時こそよけれこの月の出に

巡查部長 やめなけれや、捕縛するぞ！

下から口笛の聲答ふる如く、同じ歌を繰り返す。

巡查部長 お、合圖だ！ (男と石段の間に立ち塞がる) 貴様ここを通る事はならんぞ。……さがれさがれ、後へさがれ。……貴様は何者だ！ 貴様は小唄うたひではない。

男 名なんかわしに聞かなくてもいゝ。その貼紙が教へてくれるよ。(貼紙を指す)

巡查部長 それぢや貴様が私の搜ねてゐる男だつたか。

男 (帽子と髪を取る。部長それを引たくる) さうだ俺だ。俺の首ア百磅の懸賞つきだ。下の小舟の中にア俺の仲間が来てゐるんだ。その男が安全な場所を知つてゐて俺をそこへ連れて行つてくれるんだ。

巡查部長 (ちつと帽子と髪を見つめたまふ) バ、馬鹿な事だ！ 馬鹿な事だ。貴様は俺をだまし

てゐた。貴様は俺をうまうまだましてゐたのか。

男 俺はグラニエールの味方だ。俺の首には賞金が百磅ついてゐるんだ。

巡查部長 何といふ事だ、馬鹿な事だ。

男 私を行かしてくれるか。それとも俺の方で君を押しつけて通らうか。

巡查部長 わたしは警察官だ。わたしはお前を通す事は出来ぬ。

男 わたしはこの舌の先でそれをしようと思つたのだ。(胸に手をあてる) あれは何だ？

一三三
巡査Xの聲。(外にて) さあ部長と別れた場所へ来たぞ。

巡査部長 同僚がやつて来たのだ。

男 君はわたしを賣るやうな事はない。……グラニエイルの味方だ!

巡査Bの聲。(外にて) やつとすつかり貼つてしまった。(桶のうしろにかくれる)

二人しゃべりながら上場。

巡査X

逃げたとすれア、逃げたふ事がわかるはずだ。

巡査B

誰かこつちへ来た奴がありましたか。

巡査部長

(一寸躊躇して後) 来なかつた。

巡査B

まるで一人も。

巡査部長

うん一人も。

巡査B

我々は署へ歸れといふ命令をうけておきませんから、御一緒にここに居ませう。

巡査部長

それにア及ばん。別に君たちにももらふ必要もないから。

巡査B

先刻ここへ歸つて一緒に見張りをするようにとあなたは仰しやいましたが、

巡査部長

いいや、わしは一人である方がいい。誰かここを通るにしても、君たちがさうして

話をしてゐるぢやないか。ここは静かにしてゐなけやいかん。

巡査B

さうですか、ぢやとにかく角燈は貴方の方へお渡ししておきませう。(角燈をさし出す)

巡査部長

わしは知らない。君たち持つて行き給へ。

巡査B

いや要るかも知れませんが。雲が出て来たやうですから、さうすると眞暗になります

よ。この樽の上に置いて行きませう。(樽の方へ行く)

巡査部長

僕は持つて行けと云つてゐるんぢやよ。もうだまり給へ。

巡査B

さうですか。私はその方がおさみしくなくてよからうと思つたからです。私はよくこ

れをもつて、暗い隅々までびかりびかりと照らしてゐますと、(といひながら自分でやつてみせる)

丁度家の爐傍にゐて、泥炭がちらちら燃えてゐるやうな氣がするんです。

角燈でそこらぢやをびかりびかり照らす。光が樽の上にかかつたり部長にかかつたりする。

巡査部長

(怒つて) 早く行かんか、二人とも。貴様たちも、その角燈も、さつさつと行つちまへ。

二人退場。

男、樽の後から出て来る。男と部長、ぢつと顔を見合つたまゝ直立す。

巡査部長

君は何を待つてゐるんだ。

男 帽子です、勿論。それから髪と。あなたは勿論私が凍え死するのを希望にはなりませんまい。

部長二品を渡す。

月の出

男 (石段の方へ歩きながら) ちや、さやうなら。友達、僕は君に感謝する。君は今夜は私のためによくつくしてくれました。僕は本當に感謝する。多分いつかは小さなものが頭をあげ、大きな奴が倒れる時が来て、君にこの御禮の出来る時があるだらう。……我々すべての位地の轉換する、あゝその(手を振りつゝ委かくる)月の出に。

巡查部長 (背を見物の方に向けて貼紙をよみながら) 賞金一百磅。一百磅。(見物の方へむいて) 一體俺は、あゝ今考へる程に、本當にこんな大馬鹿者なのだらうか。

——幕——

解題及び原作者奥書

「噂のひろまり」を書いて農民を取扱ひ始めたグレゴリイ夫人は、其後「ヒアシンス・ハルベイ」を書き、「ジャックメウ」を書いたが、いづれもそれは同一系列に属すべき性質の作品であつた。百姓の日常生活の極めてほのかな、一口に云へば無智で他愛もない間違ともいへるやうな一面の人間性にテーマを發見してそれを開展させてゐる。がそれが同年初演の「牢の外」になるとその中に出るパソスの色調が大分變化してゐる。それは一九〇七年「貧民院」とし一九〇八年「救民院病室」と改作された作と近似して居り、更に、「月の出」に似てゐる。

前一系列の喜劇に就いては、人はとにかくグレゴリイ夫人の独自の境地である事は否定しない。夫人の作を好むものには無上に好ましくものであると同時に、一面の人々から、ともすれば「俄」だなどいふ非難を蒙るのも主としてこの種の喜劇からである。が、「牢の外」「月の出」「救民院病室」となると、とにかく如何なる人と雖も否定し難い程度にまで、劇としての彫琢を見せてゐる。そしてテーマもいつかしたら農民の日常生活といふものから更に一步をふみ出して、もつと普遍なものを見せ始める。この三篇になると愛蘭士農民に對して何等の感興なり了解なりを持つてゐない人に對しても最早動しがたい力を持つて迫る藝術である。

「月の出」の短い一幕をしみじみ讀んでみると巡査と小唄歌ひとの二人の心理の開展して行く具合、二つの心が暗の中でびつたりと呼吸を合はせて寸分の隙もなく戦つて行く微妙な變化、それは恰も非常な達人の眞劍勝負でも見てゐるやうに、判然と描出されてゐる。その心理描寫の巧みさ、面白さは、實に多數の近代劇中にも稀に見るものではないかと思はれる。

更に道具の使ひ方、筋の運び、舞臺上の氣分の痛いほど意を得た變化等は、全く最上の藝術品のみ持つものであらう。私はこれを思ふ時聯想するのはシングの「海へ騎り入るもの」である。二つとも、いづれ優劣なき愛蘭土劇中の最上の作の一つであらうと思ふ。或評者たちは、「月の出」を巡査の心中に起る私人としての心と公職人としての心との二つの争だとして、表面的に論じ去るのを屢々見聞するけれど、私はそれ以上に、二個の心理描寫の妙に打たれる。それだけにこの作は數次譯し直して特に、骨折つて言々句々原作の會話上の微妙な味を逃すまいと努力したが、果してどの位捕へ得てゐるか心配でならぬ。

この中に合計三種の唄が出て来る。いづれも極めて巧みに舞臺効果を與へてゐるものである。そして、いづれも曲譜が指定されてゐるため、日本語の俚謠に好都合な七五調などにする事が許されぬ。加之、英語の方は一シラブル一義の原則に對して日本語の方は三母韻四母韻で一語をするため、略同一の意を譯出すると、何うしても二倍の長さは必要になる。さうすると結局、原作では一曲で終る歌が、譯では二度繰返さねばならぬので一寸拙いけれど、歌はれてゐる内容が、劇の取扱つてゐる事件に對して極めて重要な關係のある文句だから

それを尊重しないわけには行かず、思ひ切つて歌は二番まで繰返す事にした。中にもグラニエールの歌は大分長くなり、もし演出されるやうな時には一寸不都合だが、そんな時には一番は小聲で二番から大きく歌つてもらつて譯者の拙を補うて頂きたい。

歌の中でグラニエールの歌は最も重要なものである。ここにグラニエールといふ老婆として諷してゐるのは云ふまでもなく愛蘭土といふ母國だ。それは「野邊はひろびろシャムロック」の原とあるのでも明瞭だ。シャムロックは邦譯したら「うまごやし」といふ草に當るだらうと思ふ。愛蘭土の第一の聖徒、聖パトリックの三位一體の説教の故事から、愛蘭土人はこれを國花としてゐる。で、シャムロックといふと極めて愛蘭人には親しいもので、なまじつかな譯字を用ひるよりはと思つて生硬でも原語のまま用ひておいた。愛蘭土人はよくこの言葉を用ひ、種々のものの名としてゐる。讀者の中には愛蘭土人なる富豪がもつてゐるあの世界的に有名なヨットの名がシャムロックと呼ばれてゐるのを記憶されてゐるだらう。それから愛蘭土人はよく母國を、鐵鎖につなされた老婆に譬へてゐる。云ふまでもなく古い文明を持つた國が英國のため自治を失つたのを諷したたとへだ。イエーツのカスリーン・ニ・フィーヒランなどはこの愛蘭土を表象した老婆をモチーフにした劇だ。だからこの劇中、グラニエールの歌はかなりの急所になつてゐるわけだ。

夫人はこれに次のやうな奥書をつけてゐる。

x

x

x

私が子供の頃、ガルウェイで兄さんたちが鮭釣りに行くのに一緒に連れて行ってもらった時の事です。その川は丁度、監獄の横を流れてゐるので私はいつもそこへ行く度に、しつかり閉された黒い大きい門だとか、その中で罪人を絞め殺すといふ室の窓だとかいふものを、限りなく恐怖で眺めたものでした。そして私はいつものこんな事を考へてみました。もしも罪人が、何とか工夫してあの高い圍壁をよち昇り、あの刑罰の暗の中に飛び込んだらどうなるだらう。堀は港口へついでゐるのだから、丁度この劇の小唄歌ひのやうにそこには仲間が待つてゐて、その人を獲を積んだ小舟の中へかくしてやる……と、こんな事を。

この戯曲は上演前には、極端な愛國主義者たちに對する攻撃だと誤解されました。といふのは此作の中で私が巡査を餘りにいいものとして出してゐるからだといふのです。ところが上演してしまふと、今度は、あのユニオニスト(英愛合併派)の新聞が、「この作は巡査を極端な臆病者として、反逆者として扱つてゐるからいけない」と云つて非難しました。が、ベルファストの巡査がストライキをやつた時の事です。その新聞は今度は「愛國士人の内心の性格まで多ぐり出して書いてゐる」と云つて讀めてくれました。まあしかし、要するにかうして打ち上げたり打ち下ろしたりする波動は愛國士といふ海の何處へも、觸れずに消えてしまふくだらない波ですよ。

一九〇七年三月九日アベイ座でこの脚本を始めて上演した時の役割は、

- 巡査部長 ARTHUR SINCLAIR
- 巡査 X J. A. O'ROURKE
- 巡査 B J. M. KERRIGAN
- 小唄歌ひ W. G. FAY

ジャックダウ

人物

ジョセフ・ネスタア	恩給で暮らしてゐる軍人上がり
ミカエル・クウニイ	百姓
ミセス・プロデリック	小店のかみさん
トミイ・ナアライ	救民院にゐる貧民
シビイ・ファヒイ	蜜柑賣り
チモシイ・シード	廷丁

ジャック・ダウ

舞臺

一四六

クルーソンの小さい雜貨店の内部。ミセス・プロデリックは椅子に腰をかけてゐる。トミー・ナアヴィも腰かけてシビイにもらつたオレンヤを食べてゐる。シビイは、買物籠を持って戸口から表をのぞいてゐる。

シビイ 裁判所の入口に、あんなに澤山の人が集つてゐる。判事さんたちももう程なく来るだらう。あゝチモシイ・ワードがこつちへ歩いて来る。

チモシイ・ワード (戸口へ来る) をととひわしが、ここへ置いて行つた呼出状を受けとつたらうね。ミセス・プロデリック？

ミセス・プロデリック 大方その鐘の下にでもありますよ。(それを取り出しながら) こんなのを目の前に置いて見てゐちや、わし腹ん中ア煮え返つてしまふでねえか。なにもこんなものを一々読んでみなくても、ここに何と書いてあるかわしアちゃんと知つてるだ。この中にわしの事を何と書いてあつたと何を読んだとて、それでたとへ裁判所へ呼び出されにアならんかとして、俺ア何んにも驚きアしねえだ。

ワード いいかい？ お前が裁判所へ出る日は今日なんだよ。忘れてやしねえか？
プロデリック それがへえ、忘れられるどころか。この頃はへえ、今日云つた事を明日まで位は

覚えてゐるだが、その他は何にも物を覚えてゐる事が出来なくなつただが、それでもこれうどうして忘れる事が出来るもんだ。

ワード 一時までならお前判事様に會ふ事が出来るだよ。あの衆が晝を食べにお出かけになる前なら。

プロデリック あの意地悪い貸主らが、どうしてもわしを裁判所へ引ばり出すといつたところで、それでもうわしイどうすることも出来んちうわけはあるめえ。それアへえあゝいふ所へ出てみんな本當の事ばかり云はさアなんねえちう事ア、それア全くへえ、おつかねえ事だよ。裁判所で一度お前の顔を見たものは、後になつてお前の顔を見てもきつとへえ、裁判所で見たい顔と思ひ出すに違ひねえ。一體罪人席の中だか外だか、そこにゐる人ア、どんな事をされるだかね。

ワード お前が今度行くのは何もへえ、罪人席などぢやねえのだよ。そしてお前の體をどうするもかうするもあるもんか。たゞ家の道具や店の品物を、差し押へてしまふだけの事なのだよ。どうもこんな様子ぢやいつまでゐても切りがなさうだ。こんな所でいらん暇をつぶすより、それぢあ一人で行くとすべえか。(退場)

プロデリック みんなが来て、この掛になつてゐる品物をすつかり持つて行つてしまふ。そして

そのまゝ、もう二度とわしにア顔も見せなくなつてしまふだか。あーアこの村のやうな衆にアどんな事をしてやつたら氣に入るちうだか。この衆に氣に入る事ア、たとへあの天の神様御自身で下りておいでなされたとしてどうして出来るこつちアねえ。

シビイ おかみさん。あんたいつか、誰だか身内の衆が助けに来てくれるちう事を話してゐなかつたやうに覺えてゐますがねえ。

ミセス・プロデリック それア神様の御思召して、兄さんがひよつくりとでもその氣になつてせえ呉れりア、この位えの事アすぐ片づける力アもつてゐる人だけだれどね、わしの兄さんはライメリック郡でいい田地を澤山もつてゐるちう話だけれど、それアへえ丁度、エサウとヤコブの話のやうなもので、浮世の愁ちうものは兄弟の心の中でも仕切つてしまふ不思議なもんだよ。そしてあつちにア草なども羊の毛のやうに青々とよく茂つてゐるちう事をわしは聞いただよ。シビイ おかみさん。あんたその兄さんの所へ今度の話を書いておやんなすつたらうね。

ミセス・プロデリック それアもうあの親切なネスタアさんが、あの人にアわしも匿さにアなん

ねえ事まで残らず打ち明け話をしたので、自分の指の磨り減る程、細々とわしの代りに書いて下さつただよ。クリスマスの際にも出したし、リットル・クリスマスにも出したし、それから聖ブリヂット様の日にも聖パトリック様の日にも出しただよ。それにその後呼び出しの通知を受けと

つた時にも出しただ。けれども、たんだ一言の返事も挨拶も来ねえ、わし一言でも囁云つてるかどうか郵便局のミセス・ドレインに聞いてみればわかるよ。………わしももう阿兄さんにア久しく逢つた事がねえが、あの人ア昔から一體人のあらばかりさがし出して、そしていつも心の中ア疑ひ深いたちで、陰氣な氣難しい人だつた。

シビイ 若けえ時分に氣難しかつたちう人ぢあ、その人が年イ寄つて親切な心の人になつたアとてもへえ思はれねえのし。

トミイ・ナアライ それアへえ、全くのところだ。どこでも、氣難しい奴と疑ひ深い奴ちうものはよく一緒のもんだよ。今日もかういふ事があつただ。わし今ちよつくら救民院を出してもらいますべえと思つて許可證を貰ひに行くと、あの院長め、まづわしの懐模様を見て、一杯やる金があるかどうか確かめてから許可證をわしにくれただ。

ミセス・プロデリック 今度の事が片着いたら、わしもなまじつかに、このあてもねえ廣い世間のはてから果をうろつき廻つてゐるよりも、いつそトミイ・ナアリ。わしア救民院へでも入れてもらつてお前さんらの仲間になる方がええかもしれん。

トミイ・ナアライ あれはア、そんな事いふもんでねえ、おかみさん。世界中がみんな自分の自由になつたとて、あんな壁の中に入れられちや、何んで仕合せな事があるもんで！ 見たとか

アきれえでも、中にへえりア、どうしてなか／＼ええどこちやねえ。ええも悪りいもねえ、味噌も糞もみな一緒で、家柄のええ者も中位えの者もまた悪りい者も、立派にやつたものも、ひでえ暮して来たものもみんな一緒で何の區別もしてねえだ。

ミセス・プロデリック　なにもわし、あそこへ入りてえと思つてるわけぢやねえ。だが、どこへ行つたとて、お前のあの部屋の中と、何の違ふところがあるもんだ。

トミイ・ナアライ　茶釜の中に湧いてるお茶、とても眼を開いちア飲めやしねえ。その中へ砂糖などはちよんびりとても入れて飲んではいけねえちうだ。それより、わしら蟲の納らねえのは、あの卵をかちかちになる程ゆでて来る事だ。世界中どんな人だとして、黄身のかたまる程ゆでた卵などどうしるもんだ。おまけに飯の時ア、ナイフもホークもなしで食はにアならんなどいふ事が、どうしてひんのええもんがするこんだね。

ミセス・プロデリック　あーあ、わしも、何にも人並以上の暮しをしてえたア思はねえが、どうか住むだけアどんな片隅でもええから自分の家に住みてえもんだ！

トミイ・ナアライ　そしてあんたアもし、あそこで息を引きとつたとしてみなせえ。例へあんたアお殿様の奥方だつたとて、夜の十時が来れア、否應なしにかつき出されて棺置場の中へ放り込まれる。餘程走りまはつて頼むんでなけれア湯鑑一つしちアくれず、誰一人お通夜に来てく

れる人もねえだ。

ミセス・プロデリック　あーあ、うらそんなとけえは行きたくねえ！　うらどんなにしてでもそんな事になるよりは、いつそこの壁んとこで首でも縊つて死んでしまふ。死んだ方がええ。あーあ死んだ方がええ。どうでわしらア皆一度は死なにアなんねえだ！

シビイ　あゝ、おかみさん、そんなにへえ力ア落してしまつちやいけねえわな。あれあれ丁度むかうからネスタアさんが歩いて来なさる。あの人ならあんたに又、何とかいい智慧貸して下さるだかも知れねえ。あの人ならどうしてきつと何とかうまい事を考へて下さるに違ひねえ。あの衆には教育ちうものがあるだ。本を読むやうな偉い人でねえか！

ミセス・プロデリック　さうだ、あの衆は本も讀める、そして讀んだ事をちやんと覚えてゐなさるよ。わしア本を讀んでそれう覚えてゐる人を見るとふんとに不思議な氣がしるだよ。

ナアライ　そしてあの人はどんな事でもすぐさつさと埒を開けてしまひなさる。そして春と取入れ時とにア間違なくあの人のとこへは恩給が来るでねえか。

ネスタアはナットビットを讀みながら入つて来る。

ネスタア　オーストリアに、キャベツを刻んでゐて、自分の指を切り落してしまつた女中があつた。……

ジャックダウ

一同　まあ！　可哀さうに！

一五二

ネスタア　ところが、そいつの主人はそれを早速膠でもとのやうにつけてやった。だが、こんな事をしてしまったのは本當は、馬鹿氣切つた話だよ。いつ溶けるかわからん膠などでつけた指が、何んの益に立つもんぢやないよ。その女中が鍋でも掻きまはすとしてみなさい。

シビイ　それア全くさうですねえ。

ネスタア　もし、そこに、わしが居合せたとしたら、わしならかういふ風に智慧を貸してやつたのだが……

シビイ　その事、その事、ネスタアさんわしらも今その事を云つてたところでしたよ。あんたは誠にええ智慧を貸して下さるお人だと云つてゐたのですよ。どうですかね、可哀さうにミセス・プロデリックが十磅にも上る金のために、今呼出し状をつきつけられてゐなされるだが、どうしたらいいか貴方一つ智慧を貸して下さいなぬか。

ネスタア　それアわしが、幾度も云つてる事さ。借金をするちう事はまことに馬鹿氣切つた事なのだよ。

ミセス・プロデリック　さう云ひなされたとして、わしどうして借金をしねえでゐられるもんですかね。この村アへえ、すれつからした金の儲のむづかしい村だもの。

ネスタア　それぢやからここで一つ立派な手本を見せてやるのが本當だよ。

ミセス・プロデリック　それア全くさういふお手本はどの位ほしいかわかんねえですよ、この村ぢあ、一生借金ちうものを知らずにしまふ人があるどころか、大概の人は借金で死んで行くでがんですよ。

ネスタア　あーあさうだとも。借金を残して死んだ澤山の貧乏な人の魂は、死んでからでもその残して来た借金の重みに苦しんで休息も平和も見出す事が出来ずにゐる。

シビイ　おゝ判事さんたちが裁判所へ入つて行つただよ。ミセス・プロデリック。あんたも兎にかく銀行へ行つて、支配人に金を貸してくれと頼んでみるがええでねえか。

ミセス・プロデリック　とても貸してくれさうに思へねえ。だが、ここに腰かけてゐて最後を待つてゐるのも、行つてみるのも同じだねえ。

帽子をかぶり肩掛をかける。

ネスタア　それぢあ、わしがあんたの代りに店番をしてゐてあげようかな。ミセス・プロデリック。

ミセス・プロデリック　なにへえそんな事アいりましねえだ。人が落目になる時ア、それが、客足の遠くなる時でさあ。

ジャックダウ

一五三

ナアリイ　どれわしは、裁判所の中へ行つて、若けえ者らやる事をぶらぶら見て来るかな。
(退場)

シビイ　(二人の後にしたがひつ) わしの方は又、あそこにもればお客があるかもしれないだて。

「オレンヂはいいかなオレンヂは、上等のオレンヂはどうですか」と呼びながら退場す。

ネスタアはポケットから新聞を出し、それから椅子に腰を下して読み始める。

ネスタア　『上流社會に於ける小説的墮落。北米合衆國、ミスリー州アベルディン市に於ける若き一婦人は、その父親により莫大なる財産を産されしが……』

一寸讀むのを止めて眼鏡を拭ふ。そして再び眼鏡をかけ、よみかけたところを捜してゐる。
その時扉のところでクウニイが一寸顔を出す。そしてすぐ引こます。

ネスタア　おはいんなさい。おはいんなさい!

クウニイ　(用心深くあたりを見廻しながら入つて来る) 一體いま、この家ア誰のものになつて居りますかね?

ネスタア　これア後家のプロデリックちう人の家ですよ。その人はいま一寸町へ出かけて行つたがね。

クウニイ　わしもその名が扉に書いてあるのは見ただがねえ。

ネスタア　プロデリックさんは一寸用があつて出かけたがねえ。それでわしがここの留守居をしてゐるのだよ。

クウニイ　ははあ、さうでがんですか。それぢア一體、あんたかうして留守をしてゐなされるにア何かわけエ有りますかね。

ネスタア　それアあの人の店のものの何がなくつてもよくないからねえ。

クウニイ　成程それに相違ござりませぬえ。ところで貴方様、これう競賣になされるおつもりでがんですか、それともこのまゝ一まとめにしてお賣りになるつもりだか、どちらでがんです。

ネスタア　いやいや全くもつてそんな事ア。あんた御入用の物はどれでも賣つてあげますよ。

クウニイ　今となつちやア、あんたそんな事なされると却つてあの女のために悪りかアねえですかね?

ネスタア　あんた何でそんな事をいひなされるのだな? あんたアわしが、かうしてあの人の代りに賣つたものの代金をいくらか、誤魔化して上まへをはねるとでも思つてゐなされるのか?

クウニイ　それぢアあなたは、執達吏ぢやねえですかね。

ネスタア　飛んでもない事を云ひなされる。わしを執達吏だなどと思ふたあ、あんたアあきれた

人だ。

クウニイ それぢあ貴方様ア、きつと債權者の御一人でがせうな？

ネスタア いいやちがふ。わしはこの世の中の一人にだつて金などを貸しちやゐやせん。

クウニイ それア不思議な事だ。あんたアこの品物に何の權利も持つてゐなさらねえちうなら、あんたア一體何でさうしてゐなさるだね、まことにへえ御無禮な事だが貴方様アお名前、何と仰しやりますだね？

ネスタア わしは、ジ・セフ・ネスタアだよ。此邊ぢやわしの名を知らんものは殆んどないよ。實際みんなわしをなかなか尊敬してくれてゐるよ。わしは方々をまはつて来たよ。兵士になつて。それに若い時分にわしは學校へ行つた、その時分にわしと一つ寢臺に寝た子が二人あつたが、その子たちはギリシヤ語を習つてゐたのだよ。」

クウニイ それぢあ貴方様、確かにジ・セフ・ネスタアに違ひねえちう確かな證據ありますだかね？

ネスタア (封筒を引ばり出す) ここにわしの恩給證書がある。あんたもこれなら信用なさるでせう。

クウニイ (いろいろと見廻しながら) それぢや、貴方様、ジ・セフ・ネスタア様でござりやせう。

以前にもへえ、お名前だけはよくうけたまはつて居りましただ。

ネスタア ほう、あんたわしの名を知つてた？ わしも大方わしの名ア餘程遠くまで擴まつてゐるだらうとは思つてゐたよ。

クウニイ えゝえ、さうですとも、あんたのお名前は、この家のあるじを救けてくれと書いてある封筒の底にへえつて、今日わしが来たと同じ遠さをやつて来ましただよ。

ネスタア ははアそれぢアあんたアきつとあの人の阿兄さんのミカエル・クウニイですな。

クウニイ さうだとすると先づさきに、わしイ腹に落ちるやうに聞かしてもらふ事や訊ねてえ事があるが。第一に聞きてえのは、全體メリイ・プロデリクが生きてゐるちう事ア本當の事であるだかどうだかな？

ネスタア 飛んでもねえ、何んであの人ア生きてゐないかだなどと考へるだか？ あの人アちやんと郵便で貴方に手紙を度々出してゐるでないかな。

クウニイ わしイ實は心の中で考へてゐただ、これアきつと自分のものにするつもりで誰かあれの名前をかたつてわしに助けてくれと云つてよこすのにちげえねえと思つただよ。

ネスタア わしが人の助けを借りるだと。飛んでもねえ。あんた飛んでもねえ事を云ふ人だな。本當にまあとんでもない事を云ふ人だ。あゝあ、これぢや全くわしの手にア負へない事だ。あ

「あ神様、何といふ事だ。」

一五八

クウニイ あんたそんなにへえ、すぐに腹ア立つてしまふもんでねえ。これについちア、わしがあんたに話しても半分も本當にアなさらねえやうな話があるだ。

ネスタア どんな話だか知らねえが何處の新聞に出てゐたわけでなし、成程わしは本當にしねえかも知れねえわな。があんたア兎に角、自分の血をわけた兄妹の事でねえか、信用してもええとわしは考へるよ。

クウニイ ええだかわりいだか。わしは永い間、一度自分でここへ来て調べて見ようと思つてゐただ。クウニイの家のは先祖代々、たとへ死んだ人にも生きてゐる人にでも人に氣イ許すちう事はしねえだ。

ネスタア 成る程、わしもある歴史の本の中でさういふ話をよんだ事がある。ユリセスが旅から歸つて来た時、一言も前ふれをせず、そして自分の女房が、氣をつけて留守をしてゐたか、それとも、財産を無駄に使ひ散らしてゐるかそつと見ようとして、家に伺つてある犬の外には誰一人見つからぬやうにこつそりと忍び込んだ。が女房はやつぱり金を撒き散らしてゐた。

クウニイ あれもへえ、そんな事ぢあねえかな？ メリイプロデリクが本當に困つてゐるなら、わしは助けてやるつもりだ。がもしさうでねえなら、わしは持つて来たものをその儘、や

つぱりもとの所へ持つて歸るつもりだ。

ネスタア それあもう、これがその呼出し状だよ。それにちやんと書いてある。そしてお前さん、その入口から外を御覽うじろ、判事の衆がもう裁判所へ着席したのはあの騒ぎで知れるわな。この危い瀬戸際であんたアござつて、助かれアあの人ほどんかに喜ぶかわからんよ。

クウニイ わしはあれがそのあんまり喜びすぎはしまいかちう事が氣にかかるだ。わし心配するのもしわしがこの金をこんな楽に安々と持つて来たとも思ふと、あいつアきつと今後わしをただぢやおくまいと思ふだよ。ちびりちびりと、わしが持つてるものをみんなせびり取つてしまふに違ねえと思ふだよ。

ネスタア それぢアお前さん、そいつをあの人に一時貸してやるちう事にして、それをあの人にやりなざるがえ。

クウニイ そんなへえ、どうせ二度と再びお目にかかりつこのねえ事の知れてゐるものを、何でわざわざ貸すなどといふ必要があるもんでねえ。そんな事アわしイ、施し物をしてその代金を取るちうやうなものでねえか。

ネスタア それだとして何もあとで後悔するやうな事はあるまいがな。

クウニイ いいや、もしあいつにやる程わしが物を持つてゐるちう事をあいつが一度嗅ぎ、け

たら、わしは死ぬまで悩まされにアなるめえ。あいつはひよつとすると、わしと一緒にライメリックへ随ついて行くと云ひ出さんとも限らねえだ。

ネスタア　そんなら、一寸待ちなさい、わしが今、何とか一つええ智慧を貸してあげる。

クウニイ　いいや。智慧ならわしの自分の智慧がどうも一番よささうだ。あんたはあんたで自分の財の垢でも見てまあ、それから先へ落しなさる。わしの心の中に考へてゐるわけが、何んでへえ他人様にわかるわけがあるもんか。

ネスタア　いいやあんたア話して下されア、あんたの腹ん中に思つてゐなさる事がちゃんとわしには解つて来るよ。

クウニイ　どうもわし考へてみるに、今の所、この金の出所のわからぬやうにあいつの手に渡すのが一番ええらしい。そしてもしこの次にそいつが金でもねだつてよこしたら、わしはそいつをつきつけて、この金を歸してよこせと云つてやる。

ネスタア　それぢあそいつに一つうまい兵法を使ふといい。……一寸待ちなさい。……
 ……ア、わしは一度小説本で讀んだ事がある。……それは勿論、わしらゲール人の事を書いたものがネ……それはキルベカンチイに居た若者の話だよ。その若者は、自分の深い仲の色女がその土地を追立てられてゐるのを救つたのだよ。

クウニイ　わしはそんなその、わしの妹に、深い仲の色男があつたなどいふ事は今迄一寸も聞いた事アなかつたが。

ネスタア　ア、若者は、トランプをやつてトエンチイファイブをしてゐる中に、それをした。女の亭主とトランプをして、わざわざ五十磅も負けてやつたのぢや。

クウニイ　あツメリイプロデリックは博奕などやるやうな女ぢやねえ。たとへカルタをやるにしてもわしをすぐ見破つてしまふ。それにわしはあれに、五十磅も置いて行くのではねえ、二十磅でもねえ。今日の呼び出しを救けてやるに入用なだけで、それより銅一文でも餘分などを置いて行くつもりはねえ。

ネスタア　（興奮して）わしがうまい計金を立ててあげるよ！ きつとわしがうまい計金を考へ出してあげるよ！ あゝツ！ この世の中ぢあ。——いゝやこの世どころか、わしは他の人ではとても考へ出せぬやうなうまい計金を考へ出す事が出来るのだ。わしが何もかも片づけてあげる。さアさアあの人が入つて來ない中に、あんた持つて來たものを早くここへ置いて行きなさい。わしがそれをわからんやうにあの人に渡してあげるから。

クウニイ　そんな事アどうでもええ。だが受取も貰はねえ中は、わしはあんたにこりよ渡す事は出來ん。——そしてあいつが確かに間違なく受取つたらう事が知れるまでは、わしイこの町

ア出て行かねえぞ。

椅子に懸掛けて受取りを書く。

ネスタア　わしホーム・チャットの中で見たが、外國の旅行に行く時お袋がその息子の祈禱書の中へ、五十磅の手形をはさんでおいたちう話を讀んだ事がある。ところが、その息子が歸つて來てお袋と一緒に教會へ行つた。すると息子の祈禱書の中から手形が落ちた。息子はその本を一頁もめくつた事がなかつたのだ。

クウニイ　さあ、これへ署名して下せえ。そしてこれがあれの手に無事に入るやうに祈禱書の中へ押込んでおいて下せえ。

ネスタアは署名する。クウニイは疑ひ深さうにその署名を見、一通の手紙と引き比べてみる。それから紙幣を渡す。

ネスタア　(署名しながら獨語)「ジ・セフ・ネスタア」と。

クウニイ　どうれ、あんたアわしの手紙を書く時の字と同じ流儀の字を書きなさるかな、一寸見せて下せえ。ふうんよしよし、ちあここに札があるだよ。

ネスタア　一寸待ちなさい。祈禱書があるかどうかどうかわしが見て來るから。(棚の上を見る)——えゝとこれは、砂糖蜜。——これは食過ぎの藥。これはジャム——と、本なんぞでんで一冊もな

クウニイ　さあ早く早く。あいつが入つて來たらわしを見つけてしまふ。

ネスタア　ふんここに間に合ひさうなものがある。……「神祕の豫言書、ムーアの曆」と　よしよし、この曆の頁の間にはさんでおくとしよう。そしてわしがあの人にも今月はどんな事が豫言されてゐるか聞いてみる。するとあの女がこれを見つけて出す。さうしたらお前さんここへ歸つて來なさい。

クウニイ　今、わしイあいつにここで顔を見られるのはいやだと云つた所でねえか。それう又あんたアそんな事をいふたアあきれた人だ。あいつがわしに金を返すつもりかどうか知りたきアわし自分で勝手にええやうにするわな。馬鹿にしたさんな。(出て行く)

ネスタア　お前さん今に喜ぶよ。大喜びになるよ。はてな今月の豫言はどこに出てるかな。(讀む)「この月の天蠍宮の恐しき姿、蒼白き金星と木星の位置とは、英蘭土にとつて大凶の天文なり。これまで従順なりし新教徒は、この月に入り、遂にかの借地法の警告に従ふを拒むに至るべし。しかししてその勢力は次第に彼等の目中より消え始むべし。」

ミセス・プロテリック登場。されどネスタアはそれに氣づかず。ミセス・プロテリック、うなり聲を出す。ネスタア吃驚して本を落とす。いそいで札をポケットの中にれぢ込んでしまふ。

ミセス・プロデリック　またわたしは歸つて来た、こんな事なら、やつぱりここに坐つてゐた方がよかつた。

ネスタア　お前さんがあんまりこつそり入つて来たので、わたしは膽がつぶれたよ。

ミセス・プロデリック　わしはもう裁判所へ行かにアならん時刻だ。あーあ、わしイ本當の事だよ。いつそへえわし自分の葬式にでも行きてえだ。その方が餘程ええ。死にアお慕の石、わしを待つててくれる。墓石の方が餘程ええだ。だがその石をわしの上に立ててくれる人、一體どんな人だか、見ず知らずの人だ。身内どころか見ず知らずの他人でねえか。

ネスタア　そんな事は誰にも分る事だ。ミセス・プロデリック。何もかもお前さん、思つてゐなざるよりずつと都合がよくなるだちうに。

ミセス・プロデリック　どうしてこれから一時までの間に都合がよくなるひまあるだか。

ネスタア　（自分の頭を掻きむしつて）あのう、お前さん、今からわしと、トエンチイ・ファイヴをして遊びなさらんか。ね、トエンチイ・ファイヴ。

ミセス・プロデリック　何云ふだア、あんたまアあきれはてた人だよ、ネスタさん。かういふ日のかういふ時に、わしよつかまへてカルタして遊ぶだなどといふだか。

ネスタア　わし、誰かひよつくり入つて来て店の商品代金十磅の爲替を呉れる人があるかもしれんと思つてゐるだよ。

ミセス・プロデリック　さうなれア大助りだ。店の物は大方は掛で仕入れてるだから。

ネスタア　さうだ、お前さんそれア、何ともいへないよ。誰か裕福な人が街をふと通りかかつて、お前さんを見る。そしてお前さんが氣に入つて、そこで立替へてくれるとかまた金を貸してくれとかする人があるかも知れんよ。

ミセス・プロデリック　アツ！　何をいふだか。今を盛りの若い娘ぢアあるまいし、誰が今更こんな婆アのわたしなどを氣に入る人があるものか。

ネスタア　オウ、それアあるかも知れんとも。年だとしてまだ全く婆様になり切つたといふわけではないし、お前さん、きれいで、色艶がよくて、丈夫さうだ。これを見なさい、わしが讀んでゐたこの『アンサア』に出てゐる（新聞を見る）小説的駢落……

ミセス・プロデリック　わしイわしと一緒にゐるべえちうやうな事を考へてる人アあるめえと思ふ……もしあるとすればそれえきつとあなたに違ひねえ。

ネスタア　（椅子から飛び上る。そして指先を、新聞の上のあつちこつちに走りまはらせながら早口にしやべり出す）　うううう『デイク・ホイチントンの成績』と、ああこれが、これが先刻わしが讀んだ話だ。これは、『デイク・ホイチントンの猫』と云ふのだ。彼の運命を導いたものはその猫だつ

た。うろん猫、お前さんの猫が気に入る人があるかもしれないよ。……
 ミセスプロデリック　アーもうやめて下せえ！　この頃チアサーつと猫など飼つちやぬねえだ
 よ、あいつジャックダウを嚇しやがつたから叩き出してしまつただ。

ネスタア　ジャックダウ？
 ミセスプロデリック　（奥の間から鳥籠を持つて来る）さうとも、こいつ煙突から落ちて来てわし
 の寢臺へ入らうとしてゐただからその時以來飼つてゐるだ。ヒーロウちう名だ。ヒーロウ、
 ヒーロウ、さあ出ておいで。

鳥籠の戸をあける。

ネスタア　（横腹を打ちつゝ）これだこれだ。こいつだよ。ねえちよつとミセスプロデリック。聞
 きなさい。この鳥をええ値で買ふちう人があるだよ。（物々しく腰掛ける）うまい事に、南アフリ
 カにわしの友達がある。鍬山くわやまを持つてるだよその友だちは……そして非常に金持ちだ……とこ
 ろがその男は、いつも地の下に住んでゐなければならん。つまりその黒ん坊のためだ。と
 ころがそのう、薄暗い中でそいつらを見張してゐるのは、その、なかなか骨が折れる。黒ん坊
 は色が黒いからな。

ミセスプロデリック　無理のねえこんだのし。

ネスタア　そこでそのう、わしの友達ア、時々淋しくなる。それでそのう戀しい愛蘭土を思ひ
 出すやうに、鳥が一匹ほしいちうだよ。……だが、その友達ア暗闇の中だから、鳥イ死んでし
 まふだらうといふ事を心配してゐるだよ。そこで友達の胸へ浮んだ事がジャックダウだ。ええか
 ね、ジャックダウちう鳥は煙突の中に住んでゐるのが常だから、もし暗い中に閉ぢこめられてゐ
 ても平氣な鳥があるとすれば、それはどうしても、このジャックダウちう事になる。

ミセスプロデリック　そしてその衆はジャックダウを買ひてえと云つてなさるだかね？

ネスタア　そこだよそこだよ話は。（紙幣を引き出す）さあ、ここに十磅ある。わしがその人の
 ために拂つてやるのだ。さあこれを取りなさい、そしてこれを持つて行つて巧くやつて來なさい。
 い。それでこの鳥は私がもらふ。

ミセスプロデリック　本當に札ちやうだね！　これアへえわしかうして床板の上に立つてるなあ一體
 夢だか現だか？

ネスタア　上等の札、しかもこれで十枚。よく見たさい！　國立銀行の札だ。……さあ勘定し
 てみなさい。自分の指で。わしがいふのに間違があるかないか。

ミセスプロデリック　（數へる）あるだよ、へえちやんと……これへえ正眞の札だらもう判事
 様の前で兎のやうに縮まねえでもえゝわけだ。

ネスタア

二六八

さあ、もう裁判所へ出かけてそれをチモシイワードに見せてやんなさい。そしてあいつがそれでいいといふかどうか聞いてみなさい。それからみんなそれを拂つて来るだよ。さうすればきつともう代金はみんな済みになるんだから。

ミセス・プロデリック

(肩掛を取って)

わし行つて来ますだ。行つて来ますだよ。本當だ。あんたアえれえ人だ。さうして親切な人だ。ジョセフ・ネスタア。あんたアこの功德で千年も壽命の延びますやうに!

ネスタア

ああ一寸、おかみさん。

どうかこの事についてわしの名前は出さんやうにして下さい、わしこの事に指染めたちう事一寸でも云はんやうして下さい。いいかな。

ミセス・プロデリック

あんたアいやと云ひなされアわし決して云ひましねえ。やれやれ本當に

わしの今日の重荷イ除けて下されたなア貴方だよ。(退場)

ネスタア

(彼女の後からよびかける)

きつとわしにでも出来るだらうから、ジャックダウはすぐ旅に出せるやうに籠へ入れておいてあげるよ。(店へ入つて来る) それちあこいつが、船の衆に大事にしてもらつて無事に海を越して行つてくれればいいが。……はてな、所で鳥はどこにゐるんぢや、……(チュウ、チュウと鳴く) やあそこか! こつちへおいでこつちへ。わしんどこへ来るんだ。お爺さんの名は何と云つたかなあ? ……ネロヤ、ネロヤ! (勘定臺の影へ急にかくれ

る) あー、お前さん行儀の悪い奴ぢやな。お前さん、勘定臺の下へ入つてしまつたね!

床板の上に腹匍ひになつて、鳴聲の眞似をしたりネロヤ! ネロヤ! と云つて名を呼んだりする。ナアリイ入つて来て不思議さうにぞれを見ている。

ナアリイ

あんた油蟲でも捕まへてゐなさるのかね、ネスタアさん。一體どこにゐるのでがんです。わしイちよつくら手賃しますすべえか……

ネスタア

(いまましまさうに起き上り) 鳥だよ。捕まへてもとのやうに籠の中へ入れようと思つてるのだよ。

ナアリイ

(ギユツと押へて) ほらつかまへた。(籠の中に入れ) 一寸おまちなされ、この入口をしつかりしめときますすべえ。

ネスタア

わしは今、ちよつくりあの後家さんのために何もかも都合のいいやうにしておいてやらうとしてゐたところぢやよ。おつづけあの人は片をつけて裁判所から歸つて来るからね、ナアリイ

あの人、そんな事がへえ出来ただかね。

ネスタア

それアわしが智慧を貸してやつたからだよ。わしは本を読むのでナ、それらびよつくりとわしの胸にうかんで来た考だよ。(新聞をたたきながら) 教育があるといふ事と、本を読むといふ事、それから、兵士になつて世界中の國を廻つて来ること、かういふ事アつまり人を

他人に智慧を貸す事の出来るやうな人間にするものだよ。

ナアリイ　なる程ねえ。あんたアゐなさるでどの位え仕合せだが、この町のあはれた學問のな
いものたちは。

クウニイ　(あたふたと入つて来る。そして出て行かうとするナアリイと鉢合せす)一體あんたアこの
町中でどこに一番よく巢ウ食うと思ひなさる。わしいジャックダウの巢の事云つてるだよ。

ネスタア　古い水車屋があるが、あれなさままづ一番だね。それは停車場の西に當つてゐるよ。
そこに澤山煙突がある。みんないい頃合の高さだよ。あー一寸待ちなさい。わしがいま、一つ
うまい計企を考へ出してあげる。……

クウニイ　この隅にある熊手^{ベイヤ}はいくらだね。あゝ構やせん、借りて持つてけー　一時、ちよつ
くら貸して貰ひさへすればそれでええ。……わしア又すぐ来るよ。

熊手^{ベイヤ}を持つて駆け出す。

シビイ興奮して飛び込んで来る。

シビイ　もしあんた鳥さしに行つた事があつたら、ネスタさんや、あんた、どういふ風にして
行つただかそれう一つわしに教へてくだつせえ。

クウニイ　わしはかういふ話をこの間、本で讀んだ事がある……それを商賣にしてゐる奴だ。

……みんな網を持つてゐる。あーさうしてその千鳥のゐる沼の邊へその網を張つておく。さう
するといふと……

シビイ　あゝそんなその千鳥なんぞへえ、わし要らねえだア。

ネスタア　あゝそれから、良をかけておくのも、ある。その鵓が蟲をひろつてゐるやうな溝の
近くにかけておくのぢや。……だがもしも、誰かかういふ事をしてゐる人を見たら、私なら一
つ、早速うーんと智慧を貸してやるよ。それはその網の傍についてゐるといふ事だ。

シビイ　それちあ、あの隅の網はいくらだね。

ネスタア　(それを下ろして)　これはその、小さな袋で、小さいものを入れてもつてあるくのに
いいのだよ。お前さんの蜜柑にア丁度いいかもしれん。それにあ、シビイさん、二ペンヌもも
らつておけばよからうと思ふよ。

シビイ　(ハンカチの中から金を出す)それちやこれをもらふよ。さあ、かうなつたらチモシイ・ワ
ード、われなんぞへえ、どうしても出し抜かさあなんねえー

それを取つて走つて出かける。と丁度駆け込んで来るチモシイ・ワードにぶつかり、ひっくりか
へしさうになる。

ネスタア　おやツー　チモシイ。お前さん、裁判所で、プロデリック婆さんを見なかつたかな？

ジャックダウ

ワード 見たとも見たとも。今裁判所でお前さん、まるでへえ、棺桶の中にでも入つたやうに落着いた顔をしてゐるよ。そして借金を拂つてゐるよ。

ネスタア それであの人は何か自分の事をあなたに話しやしなかつたかね。

ワード それア話した段ちあねえ。裁判所にゐた奴ア残らず聞いたよ。だがまあ一寸わしア、そんな事をしちあゐられねえ。私あ判事様がたア午飯を食べなさる時にアあそこへ歸らざあなんねえだから。ところであなたア、何んでもよう物を知つて御座る人だから訊くが、ねえネスタさん。鳥を捕へる一番確かな方法はどうすればいいのか教へて下せえ。

ネスタア 不思議な事があればあるもんだ。三分と立たぬ中に、みんな同じ事をわしに訊きに來る。わしは今考へてゐたところだよ。どうもわしは、かういふ事をどこかで讀んだ事があるやうな氣がするよ。何でもその、それぞれの鳥に合せて作つてある呼び笛を吹きながらその鳥に近よつて行くのが大へんいいちう事だよ。例へばまあ、それが鳴ならまあこんな……（口笛で鳥の鳴聲のまね）

ワード それぢあ、さういふ呼び笛がこの店にあるかね！

ネスタア 特に、ジャックダウを捕へるに拵へたものと云ふことは出來んがね、つまりまあ、間に合ふものなら、何かあるだらうと思ふよ。どれ、見てあげるかな。

音のする玩具の箱を下ろしていちくりまはす。

ワード 何かジャックダウのあのギヤウギヤウといふ暖れた金切聲に似た音を出すものはねえかな。

ネスタア これはその、普通わしらア水鶏と云つてゐるだねえ……（それをまはす）クイーナ、クイーナ、……だがどうもこれは一聲だけで、ギー、ギー、と云ふやうに聞えるよ。ほら、こんな具合に……丁度、あれが煙突の中へ巢を作る時分に啼く聲によく似てゐるぢあないかね。ワード さあ、そいつをわしに下せえ。

一ハニイ勘定臺の上に置いて走つて出て行く。

トミ・ナアライ、興奮してふるへながら出て來る。

ナアライ どうぞ神様の御慈悲を以つてネスタさん。どうぞあなたの生捕良をわしにちよつくら貸して下さいませ。

ネスタア 生捕良を？ まさか鼠など生け捕つて、鼠を救民院に入れて食はしてやらうとでもいふつもりかね！

ナアライ それともはね良でもよろしう御座ります。それともまた、鮭良を作るやうなあゝいふもんでもええで御座ります。

ネスタア お前さん、あきれた衆ぢや、かけ、良、なぞ持つて水鳥を取りに行くなどと一體そりア
どういふつもりだ。

ナアリイ なんてわし取りたがつちや悪いいだア。他の衆みんな行つただものをなんでわしだ
け鳥イ取らせて貰ふ事出来ねえわけあるだア。

ネスタア 一體お前さんたちはなんでみな同じやうに、鳥をほしがつてゐるだね。

ナアリイ わしがそれう欲しがつてどうするちうのかね！ わしだとしてわしイ、十磅ほしいは
ずでねえかな！

ネスタア アツ！ さうか、神様、これア大變な事ア始まつて了つた。あーあ、この馬鹿者た
ちえらい事をはじめてしまつた。

ナアリイ わしだとしてわしイ、ミセス・プロデリックさんのやうに十磅貰ひてえだア！

ネスタア その事か、それならまあ、わしのいふ事を聞きなさい。お前さんそれはもらへねえ
よ。

ナアリイ なに？ へえ、他の衆のを買ふちうその衆のとこへ、わしのが一つ増えたかとして、
その衆がわしのだけ要らねえと云ひなせるわけはねえ！

ネスタア まあまあ、理窟を云つたとして仕様がな。トミイ・ナアリイ、お前がわしのやうな人

に理窟を云ひかけるなどちう事はさかしま事でねえかな。

ナアリイ 十磅わしの手に入つたらどんなうまい事になるだか、それう考へて下せえ。ネスタ
アさん、あんたこの事わし猜んちあいけねえ。たしかにそれア、地方税のたしになりますよ。

ネスタア いいかいお前さん。お前さんは十磅の事おき、一磅も取れやしないよ。お前さんわ
しのいふ事を氣をつけて聞きわけける事は出来ねえのか？

ナアリイ あーアわしが良買ふだけの金さへあれア、あんたもそんな事いつてわしの頼みをき
つと断れアしなさるめえ。あーあ金なくしてしめえ、町中にへえ一寸も信用なくしたものはか
ういふ辛い情けねえ目に遭はにアならん。

ネスタア (かつとなつてナアリイに鳥籠を渡しながらいふ) さあさあ、もうさつさと表へ出て行つ
てくれ。お前さんはさういふ風に、のぼせ上つて、何もわかりアしないのだから、わしこの鳥を
お前さんにくれてやる。さつさと云つてそれがいくらになるもんだか賣つて来てみるがええ。
そして一日の米代も取れねえちう事を知るがええ。さあさあ、出て行かつせ。そして買手をさ
がして來さつせ。今にきつとわしの云つた事が本當だつたちう事がわかるから。

ナアリイ (籠をつかみながら) これア有難い、あーアどうか貴方様、この功德で、五十年もこ
の通り丈夫でゐなさるやうに！ さあこれでわしもうまい事になつて來たぞ。

ナアライ、籠もつて行く。ネスタア椅子に腰を下ろす。

一七六

ネスタア　わしのために皆かかつてしまった。だがわしもお前たちには全く困るよ。みんなが皆、自分の仕事をするのにわしを當にしてゐる。自分の事を始末するのにわしをあてにしてゐる。どうもこれは、教育のあるものの割の悪いところだなア。

新聞を讀まうとして取り上げる。

ミセス・プロデリックが入つて来る。

ナアライ　あゝいい氣持だ、いい氣持だ。本當にへえわしは、裁判所から家へ歸るのを許されて、ヨブのやうないい氣がしてゐるだよ。

ネスタア　さうだ、本當だよ、おかみさん。わしもお前さんのためになる事が出来たし、それからまた、アフリカの方の友達に對しても同じやうに、あゝいふええ、あゝいふきれいな鳥をやる事が出来たと思ふと、まことにわしもうれしいよ。

ミセス・プロデリック　自分の親指を咬んだといふあのフィンだとて、七百人の妃をもち一國を支配したソロモン王だとて、あんたのやうな智慧をもつちやあめえ。たとへフィンやソロモンでも、他の人の事を片づける事にかけてはあ、あんたを押し除けるわけには行くめえと思ふよ。
シビイ、綱の袋をもつて入つて来る。

ネスタア　お前さんそれア一體何を持つて來たのだね、シビイ。

シビイ　さあさあこれを見て下せえ、見て下せえ。……すぐわしアこれを見つけたよ。まだほかほかと暖かだよ。悪くなるやうな事は決してない、

ミセス・プロデリック　一體それアへえ何だかね？

シビイ　これへえ、卵でねえか……見さつせこれう。これあジャックダウの卵だよ。

ネスタア　（怪訝さうに）そしてジャックダウの卵など持つて來て、一體それアどうするのだな。

シビイ　これが一つ十磅づゝになるのだが、どうだね偉いこつちやないか。それともあんたア、わしがこれを見んなひつくるめて十磅に賣るとでも思ふのかね。

ネスタア　これアへえ、酒に酔つただか、茶にまはされたか。それとも世界に何か起つて、この村の衆はみんな、バリナスロの養育院へでも行くやうになつてしまつただか。

シビイ　わしはよく巢につく鶏を知つてゐる。こいつをその鶏に温めさせる。……そしてこいつが孵つたらわしはそれう育ててやる。

ネスタア　ねえミセス・プロデリック。あんたあのことをこの村中へ觸れ歩いて來なかつたのだね。

ミセス・プロデリック　わしアさうもしなかつたが、長椅子坐つてござつた判事様たちにア、わ

しこの事を敬つて話しただよ。だがわし貴方の名はへえ一寸もしやべれアしなかつただよ。
 シビイ さあ、ミセス・プロデリック。わしや一體これう誰のところへ持つて行つてたのめばい
 いだかその人の名ア聞かして下せえ。

ミセス・プロデリック 持つて行つて何をあんた頼むちうだ？

シビイ あんたのジャックダウを買つた人は何處にゐなさるだか、それうどうかわしにも教へて
 下せえ。

ミセス・プロデリック

(ネスタアを見ながら) それア一體へえ何のこつたね？ 何處にゐるとね？

ネスタア (云ふなといふ合圖をする) その人のゐる所など、どうしてお前さん知りたいのだね。
 その人の仕事はもう済んだのだもの、何でああいふ立派な人がこんなへえ壊れかけたやうな小
 さな村に泊つてゐなさるものか。

シビイ そんな事アねえ、その人アきつと鳥を取りにここへも一度ござるに違ひねえ。わしア
 その人のござるまで、ここに待つてゐるとすべえ。

ネスタア どうもその人はもう鳥を廻送店へ渡しなかつたらしいよ。いいかね、わしがいふ事
 をよく氣をつけて聞きなごら！ もうあの人の事についてちや、何にも云はんが一番だよ。

チモシイ・ワード、玩具の笛をガアガア云はせながら、喜び勇んで入つて来る。手には一羽の鳥を持

つてゐる。

ワード わしは遅よくひよつくりと椋鳥を一つ見つけたよ。だがこれはわしが自分でこの呼子
 でおびきよせたのぢやない、小さい子供がかけ毘で捕つてくれたのだよ。ネスタアさん、さあ、
 これならジャックダウの代りにでも役に立つと云つておくんせえ。まあちよつくら見なせえ。
 どこからどこまで、ジャックダウに劣らずきれいちやねえかな。それにどうもジャックダウの方は、
 旅を終らねえさきに死んでしまひさうに見えるでねえかな。

ネスタア (兩手を上げる) ええまあ馬鹿のありつたけを盡してゐるだ！

ワード さあさあ早く聞かして下せえ。ミセス・プロデリック、お前さんの話しの買手のとこへ
 はどう持つて行けばいいのかね。こいつはこの通りばたばたやらかすだよ。わしはしつかりと
 握つちやゐるけれど仲々骨が折れるだよ。その人のゐるのはノーナン・ローヤル・ホテルだかそ
 れともマツクの家にゐなさるだかどつちだね？

ネスタア (嚇かすやうに首を振る) お前さん自分であの人も知らないくせにそんな事ええ頃な事
 を云つちア困るぢアないか。

ワード それアへえあの人は先刻ここを出て行つただからあんたは勿論その人がどちらへ行つ
 たか知つてゐなさるに違ひねえ。

ミセス・プロデリック

一八〇

(ネスタアに不安氣なる目をそゞつと) あゝわしの腸搔きむしれてしまふやうだ。わしもその人ア東へ行つただか西へ行つただかも知らねえ。唯腦天ぶつくりはせられた幽霊のやうに、わしただぼんやりとここに立つてゐるだけの事だ。

ワード もしその人が鳥を取りにここへ歸つて來なざるなら、わしここに待つてゐる。だがもし鳥をその人の所へ送るちうなら、あんたアその人の番地を知つてゐなざるはずでねえか。

ミセス・プロデリック それに違ひねえだらうとわしも思ふ。一體どこに入れて置いたか？ (ネスタアの方を催促するやうに眺める。しかしネスタアの合圖腹に落ちず。ポケットをひつくり返してさがす) これアわしの眼鏡、……これアあの箱の鍵、……これア甘草の根ツ子だ。……本當にあの人の番地一體どこへ置いて來てしまつただか！

ワード その人ここへ來てからまだたつて行つた汽車ア一つもねえはずだ。何はともあれあの人はまだこの村にゐるちう事だけはたしかだ。俺はこの鳥を鐵道まで持つて行くべえ。わしにわかるやうに、その人、どんなんだつたか聞かして下せえ。

ミセス・プロデリック (ネスタアをぢつと見ながら) さやう、背はまづ中背で……馬鹿に肥つた方ぢやねえ。……まあ大よそネスタアさん位のところだよ。

ワード ……そしてその人の年の頃は？

ミセス・プロデリック

わしまあ、六十に近からうと思つてゐるだよ。まあ、さつとネスタアさんと同じ位の年だ。

ワード さあさあもつとくはしく話しておくんなせえ。それぢあへえ、まだ一向わし見當がつけられねえ。

ミセス・プロデリック 半白の髻を垂らしてゐて……頭はまるで禿頭で、眞白な髪の毛え少しばかり、丁度垣根で取り巻いたやうに残つてゐるだよ。丁度まあ、ネスタアさんとそつくりだよ。

ネスタア (飛び上つて) あゝあもう、女の饞舌りすぎる程世の中にいやなものほまたとない。ミセス・プロデリック あゝあ、そんならもう、ほつといて下せえ。わしイそれを話しちあいつねえと云つて口留めされてゐるのに、みんな寄つてたかつてわしよ、金どこから貰つたどこから貰つたと云つてつゝつくだが、こりよ一體どうして呉れるちうだ。

ワード 口どめされた！

ミセス・プロデリック さうだよ。堅く口留めされてゐるだよ。

ワード それア一體誰にとめられただ？

ミセス・プロデリック ええッ！ そんな事までお前が訊かんでもええ事だ。

ワード 女の癖に、われア手前一人甘めえ事をしておきながら、一寸も近所のものの事を思は

ねえちうやうな事、それアおかみさんええ事ぢあねえだぞ。

ミセス・プロデリック これぢあわしやり切れねえ、ネスタアさん。みんなアわし一人に責めかかつて来るだ。そしてあんたア、わしのために一言の加勢もしてくれしねえ。

ワード 何とも云ひやうのねえ事だもの、いくらあの人だとして何といふ事が出来るもんだ。だがな婆さん、われア自分の利益になるもなアみな一人で掻き込んで、それう自分一人でひしがくしにしてゐる下司な慾深婆だちう事だけは、誰が目にもわかつただぞ。それぢあわしアもう裁判所へ歸つて行くよ、ミセス・プロデリック。ええかね、今後わしアもうお前なんぞは友達だたア思やしねえよ。

ミセス・プロデリック それでもわし、口留されてゐるからだとお前に云つてゐるぢあねえか。ワード さうかね。そして、そのお前に口留したのも、その方いえといふ智慧えつけたのも

大方何人ぢあなくて、お前自身ぢあないのかね。どうだいミセス・プロデリック。どうもわしも考へてみると、その鳥を賣つたなどいふ事ア、跡かたもねえ嘘つことだらうがな。お前その金手に入れたは、何か他の事からだらう。大方、他人に聞かれたくねえやうなわけがあるのだらう。「荷物が輕けれア動かし易い」。あーあ、行くべえ、行くべえ。こんな慾深婆やその金やそれからその口留なんざあ、どうでも勝手になるがええだ。(チャモシイ・ワードは出て行く。しかし

シビイは戸口に止つてゐる) まあみんなせいぜい婆さんを大事にするがええだ!

ミセス・プロデリック ネスタアさん、あんたあれう聞いてゐただかね。あんたさへ一言云つてくれれアわし悪口を云はれずにするものを、それうあんたアだまつて聞いてゐなさるだかね。この事はもうわしあんたにみんなまかせた。あんた、みんな聞いてる衆と一緒にどうなりええやうにして下さるがええ。あれやこれやとまるでへえ、裁判官の前へでも出たやうに、何んでわしあゝもみんなからいろいろな事を聞かれにアならんだか。あんたたちアええやうに私の心を引つかきまはしてしまつただ。わしアもう藥罐でもわかして、茶でも飲む方が餘程ええ。(奥の間へ入つてしまふ)

シビイ さあ、どうか一つ本當の事を聞かして下せえ。ねえネスタアさん。全體あんたこの事について本當の事を知つてゐなさるだかどうだか?

ネスタア わしは何もかもみな知つてゐるだよ。まづ第一に、あの札を受取つたのは、わしだつたのだよ。その事についていちは、わしは神様にでも誓つて斷言する。そして、這入つて來たのは、いいかい、見も知らぬ一人の爺さんだつたよ。

シビイ あ、どうかしてわしもその人を見たかつた。さうすれアわしはその人を見れアすぐわかるから。